

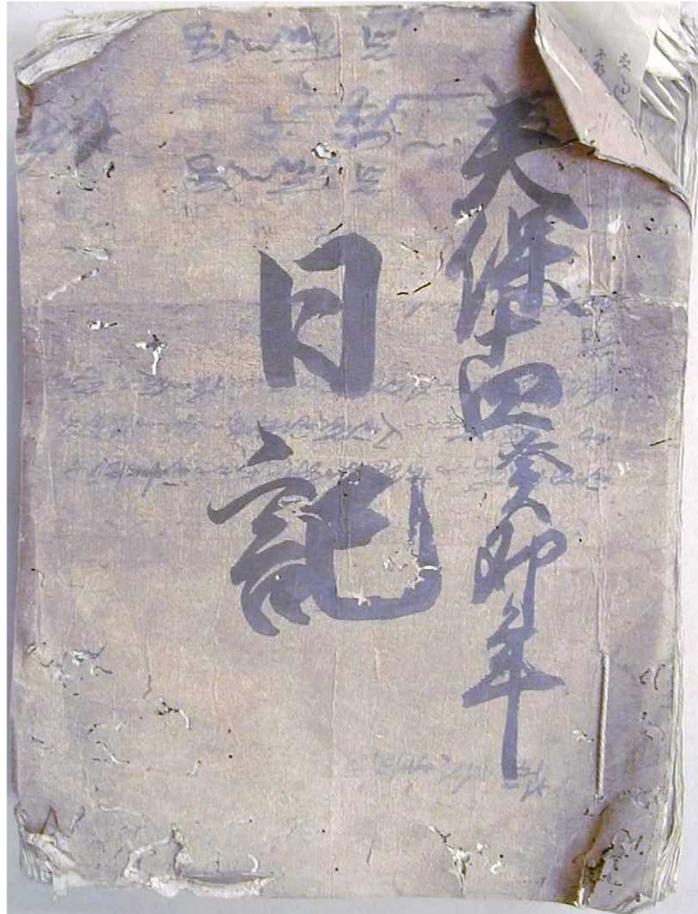
丹波市オンデマンド史料叢書 1

天保十四癸卯年日記

丹波市立柏原歴史民俗資料館所蔵・柏原藩政日記

神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター
丹波市教育委員会

2014年9月発行



▲「天保十四癸卯年日記」(表紙)



▲收藏先の丹波市立柏原歴史民俗資料館

序

神戸大学大学院人文学研究科と丹波市教育委員会は、平成一九（二〇〇七）年八月二四日に地域活性化の連携協力に関する協定を結び、それ以降市内の古文書等文化財の調査を共同研究として進めてきました。調査の成果は、平成二二年度から開始した連続歴史講座や『丹波の歴史文化を探る』（丹波市教育委員会、平成二三年）などの書籍によって逐次市民のみなさんに還元できるよう努めてまいりました。

そうしたなか、わたくしたちは完成された研究の成果を発表するだけではなく、市民のみなさんが自ら市域の歴史について調べることのできる環境を整えることが必要ではないかと考えるようになりました。歴史にかんする未知の事実を発見し、独自の歴史理解を深めるためには、何よりもまず史料にあたらなければなりません。ですが、そうした史料は草書体（くずし字）で書かれたものが多く、「本物の」史料にあたるには、さまざまな困難がともないます。

そこで、わたくしたちは丹波市域の歴史にかんする基礎的で、かつ解読の困難な史料を活字化し、またそれをなるべく多くのみなさまにご利用いただけるよう、神戸大学大学院人文学研究科地域連携センターおよび丹波市教育委員会のホームページから入手できるようにしました。ここに生まれたのが、いまみなさんのお手元にある『丹波市オンデマンド史料叢書』です。ぜひご活用ください。

平成二六（二〇一四）年九月

神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター・丹波市教育委員会

凡例

一本書は、丹波市立柏原歴史民俗資料館所蔵柏原藩政日記のうち、「天保十四癸卯年日記」を翻刻したものである。

一柏原藩政日記は、柏原藩主織田氏の前任地大和宇陀時代から、柏原に就封後、明治維新にいたるまでの約二四〇年間の詳細な日記で、藩政期間の貴重な資料であるだけでなく、封建制下の政治形態や当時の社会生活研究の好資料の集積である。全部で七八冊あり、形態は豎帳（和紙綴込）となっている。

一標記は原則として次のように統一した。

（一）旧字体は新字体に改めた。

（二）解読が困難であった箇所は■で表記し、破損・汚損等の理由により判読不能であった箇所は□で表記した。

（三）補注するも疑問の出る場合には、（カ）と表記した。

一本書の編集は、前田結城（神戸大学大学院人文学研究科学術研究員）がおこない、笠松敬太（元神戸大学大学院人文学研究科博士課程前期課程）・加藤明恵（神戸大学大学院人文学研究科博士課程後期課程）の両名が翻刻・校正作業をおこなった。

一本書を学術研究等で引用するさいは、その旨注記されたい。

『天保十四年癸卯年日記』

(表紙)

早川権兵衛

蚕松院様

津田寛次郎

天保十四年癸卯年

於 惺様方

津田堅三郎

日記

御さかな

生駒直規

一種ツ、
御使者奥御用人

早川権兵衛

水野鬼毛

天保十四年卯年

霏消様方

右引役

正月元日 九里八郎右衛門
榎田藤兵衛

御さかな

一種

御近習

片岡助左衛門

一 殿様益御機嫌能被遊

御超歳七ツ時御目覚被為濟

御使者
右同人

林新之助

御仕上於 御居間御祝有之

お寿賀様

三宅半十郎

於 御居間徒

宝珠院様方

藤田男也

御隠居候様以御使者左之通被進候

お道様

岡田音也

御肴 一種

御さかな

一種ツ、

柰原唯五郎

御使者御用人

御使者

鳥目二而御礼

早川権兵衛

右同人

奥方様方同断

御さかな 一種

六ツ時惣出仕段々被為請 御礼

津田忠次郎 津田瀨之助 津田孝之助
津田寛次郎 津田堅三郎 生駒直規
田中半兵衛 九里八郎右衛門 田中四郎右衛門

御使者奥御用人

太刀目録二而御礼

田辺與左衛門 冲次郎右衛門 早川権兵衛

藤田権左衛門

生駒主水 中山舍人

津田咭之進 彦右衛門 榎田藤兵衛

右披露

林平兵衛 藤田権左衛門 高山五百理

織 濟次郎様方

御肴 一種

御奏者

平山源右衛門 岡田市左衛門 松原忠左衛門

御使者表御用人

御断 津田忠次郎
津田孝之助

江間平右衛門 大井亦兵衛 田村要左衛門
生駒多膳 大井小膳 片岡助左衛門

津田要輔 磯野長左衛門 永田傳左衛門

庄作左衛門 阪田新八郎 水野鬼毛

横山庄兵衛 金子次郎助 佐々茂左衛門

山中多助 田中友之進 上倉貢

荻野廊太郎 林新之助 浅井次郎左衛門

阪田半蔵 三宅半十郎 本間多膳

菊池幸之進 子守純之助 津田三郎助

加納銀左衛門 九里彦輔 井上良左衛門

菊沢文左衛門 安西章左衛門 荒木藤右衛門

吉村南兵衛 山脇傳兵衛 三輪五百次郎

上田多左衛門

右披露

御奏者

右引役

御近習

扇子二而御礼

藤田男也 岡田音也 松原唯之助

田辺恪之進 富本慎左衛門 岩崎久悦

霧田恂悦 丸山理右衛門 泰宗治

林正三郎 大野東馬 田村猪三郎

大嶋立敬 菊沢次郎兵衛 伊藤五左衛門

横井又左衛門 須佐見茂七 山村佐之右衛門

菊沢甚左衛門 中内波門 小森篤左衛門

原長悦 上山道炊 杉原左五兵衛

平野吉左衛門 中原免左衛門 吉池平太夫

前川與次兵衛 平岡八九郎 加納幸六郎

濱路惣右衛門 葛山六左衛門 三上伊三治

小泉玄篤 善積彦左衛門 勝川次郎太夫

岡幸治 佐藤源兵衛 菊沢掛馬

安西田都兵衛 吉村又吉郎 山脇直之進

長谷直右衛門

右披露

前二同

右引役

外様御中小姓

横井又左

扇子二而御礼

松好三平 長谷順治 脇田猶左衛門

平井嘉作 菅屋竹次郎 竹河権六

加納勇作 上田源六

右披露

御使番

扇子引役

前二同

一同之御礼

笹川泰次郎 村上郡右衛門 足立五郎太夫

今井左右蔵 藤木勝三郎 横田甚九郎

菊沢新六 竹延市之丞 濱路惣次郎

米田利兵衛 矢嶋廣助 松本此右衛門

山村喜平次 野口彦六 小久江庄之助

小林叶 小桧山屋八十治 吉川立可

右披露

前二同

御健士年頭之

御礼与披露

中山舎人家来

鈴木太郎太

右披露

前二同

大槻権九郎 松本此右衛門 上田嘉太夫

藪鹿五郎 丸山甚助 吉村由兵衛

小松原郡太 藤本正次郎 上月久右衛門

松井稻太郎 清川六之進 中井弥惣太

村田巴之丞 奥村七郎右衛門 佐敷佐工間

前嶋宗治 森田勘助 久下林助

森松太郎 友田寅助 池畑祐次郎

松本剛蔵

右披露前二同

小役人年頭也

御礼与披露

大槻唯七 平岡政右衛門 角本小十郎

西田清兵衛 水田清次郎 吉池助八郎

須佐見永作 足立五郎助 数藤金次郎

右披露也

前二同

畢而

入御

一 内御役人以上於御家老詰所

御隱居様江年頭之御祝詞

申上候

一 表御役人御給人御中小姓之面々

於御使者之間

御隱居様江年頭之御祝儀

申上、家老・御組頭謁之

一 小役人・御徒士之面々右同断

支配ニ々迄申上之

一 御内ニ而、両社并奥村・藤之森

稻荷同天神嘉多拝權現江

御代奏 御目付

横山庄兵衛

草履取小七召連

山村兵次郎兼而伺之通、喜平治与

改名并上田彦市・孫六与改名

候旨、御徒目付方届候

正月二日 田辺與左衛門

榎田藤兵衛

御替初 竹河権六

御買初 小久江平吾

一 達左之通

△寺社方御礼之節

黒御門詰小頭支二付

右助被仰付候 松本此右衛門

右御徒目付方申達候

一 六ツ時惣出仕相揃候上御目付方

御前江申上ル、御書院江

出御年始御帳面之通、御礼被為受

畢而、御郡町年頭御礼金差上ル

披露当番御用人右相濟

入御

一 御祝御用意次第御祝之品々

御廊下江為操出、何茂御目付取計

相揃候上 御前江申上ル

御書院江出御 御相伴 御家老中

△御雑煮 △御吸物 △塗御盃

△御暖酒 一献 △御肴数之子

△御■箸 内■リ 二 △御三方 御三夕 御肴■

一 御家老中江 御盃被成下、例之通

相濟 △御暖酒 一献御献付有之

畢而、御膳具引之

引続御組頭方御役人格御作事

奉行迄 御盃被成下

畢而 入御

一 御家中末々迄御雑煮被成下

一 御組頭江之用人於詰所御祝頂戴之

△給仕御用所子供

一 御奏者於御初方頂戴之給仕同断

一 御役人・御給人・御近習・外様御中・小姓

之面々御使者之間方御玄関迄並居

頂戴候 △給仕御足輕

一 隱居小兒之面々於御料理之間、頂戴之

右相濟内御役人以上於御家老詰所

御礼申上候、表御役人・御給人・外様御

御中・小姓之面々於御使者之間、右同断

申上ル、御家老・御組頭・謁之、隱居小兒

之面々於御料理之間、申上ル、御家老

謁之

一 御小間使出居候、小兒於同所一諸二 頂戴之

一 小役人以下并御足輕・同心・御小人

例席ニ而頂戴之

一 倍臣之面々於中口頂戴之

一 御目付御預リ之独礼於例席

頂戴之

一 町人例之御祝被成下候得共、当時

切餅被成下

一 御謡初ニ付、内御役人以上御側御

給人・御近習格迄、七ツ時出仕於

御居間御規式左之通

△御家老中御相伴御次南之方例座

但御相伴朱膳

△御雜煮 木具

△御吸物引替

此時御謡之役者無刀二而、御居間次之

北之方御納戸口之所二相詰

御盃出ス

御酒一献 暖酒 御肴教之子

初献 四海波 御納戸役

△御酒 暖酒 御肴無之

二献 松高義

△御酒 同

三献 千秋楽

右三献目御酌兩人持出候内、老入

大銚子御三宝二載持出被召上

大銚子江御盃方直二被遊 御移尤

大銚子冷論也

畢而御膳具引之

夫方御役者江御意有之御取合

御家老

一 御規式之内御組頭方御用人内

御役人寄合之間二相詰候

一 於御料理之間、大流大銚子

三方戴教土器^②二而頂戴之

右御組頭方御近習格迄并詰合

御廣間当番御頭迄頂戴之

一 於寄合之間御組頭方御用人内御

役人御例御給人御近習格迄并

詰合之御中小姓以上之面々一列御酒

御吸物頂戴之御肴教子

当年者御初入初而之御謡初二付

御旧例之通、賑々敷謡候様被 仰出

右何茂一列同音二而

一献 四海波 二献 松高義 三献

千秋楽

御酒・御吸物被成下、御礼於其席二

御目付迄申上候

御目付不残并御次当番之面々

於同所右同断頂戴之

正月三日 田中四郎右衛門

榎田藤兵衛

一 徳源寺江御都合宜候間、只今御出仕

被成候様、御目付方申遣候

一 徳源寺御礼之節、御奏者御■

二而、御書院も御通御跡二付、御近習

御進物持出罷在披露相濟御進

物引

御三宝 長昆却 敷紙有之

小昆却

御近習持出住職江出直引之

伴僧御礼申上之上、物出引

外様御中仕、畢而、御盃事有之

左之通

△御雜煮 木具

△塗御盃

△御肴

△御三宝 内曇^②二ツ

△御取肴 焼はも

結昆布

右御酌人持出住職之前江出寸

正月四日 九里八郎右衛門

榎田藤兵衛

一 諸出家五ツ時揃二而、御帳面之通

御礼被為 請之

一 例年之通、御初事有之

御弓御名代

田中四郎右衛門

御釵術御名代

加納銀左衛門

打太刀

丸山理右衛門

御鎗術御名代

九里八郎右衛門

打太刀

田辺膳之進

右相濟於御書院何茂御熨斗

御手目頂戴之御目付出席

一 御乗初御名代 善積平左衛門

檢持院様江

右同断略之

但御料理之間御目付方御熨斗

御代香 田辺與左衛門

御側御給人・御近習格迄於御料理

使遣事

一 今夕認二而、江府表江初便差出ス

之間御祝儀之上ル御家老・御組頭謁之

一 御初事御名代之面々江於御料理之

正月六日 田中忠右衛門

一 御年男於御用人詰所御雜煮・御酒

間御酒・御吸物被成下

榎田藤兵衛

御吸物被成下、御礼御目付被申上候

一 達左之通り

一 四ツ時被遊 御佛參

但し冬節分者御雜煮被成下有之御吸物

△御初入初而之 善積平左衛門

一 德源寺江代々様

御酒斗也

御乗初二付

御靈前江 御隱居様

一 御賄頭御年男於御台所御雜煮

御目錄之通被成下候

御代香 生駒直規

御酒・御吸物被成下之御礼御目付被申上候

銀耆刃

一 良心院様 御靈前へ御太刀

正月七日 九里八郎右衛門

右於御料理之間御目付申達之

御備 御代々様江 白銀弍両

一 七種之為御祝儀四ツ時惣出仕

△御日文 御口之者老人江被下

御備 右御太刀振 生駒主水

御書院江 出御御給人已上御礼

△百文 (□□□□・・・□□□□)

一 三輪五百次郎風邪氣二付、長

被為 請之、御熨斗頂戴之

一 達左之通

一 髮御断之間、届有之

一 内御役人以上於御家老詰所

△勢州 藤田男也

御連枝家方御靈前江

御隱居様江右同断御祝儀申上ル

御代參明五日

御名代 御奏者

御家老生駒主水謁之

出立被仰出候

生駒直規

一 表御役人・御給人之面々於御使者之間

右於御料理之間、御目付申達之

一 今夕節分二付、御年男兩人麻上下

一 右同断申上ル、御家老右同人謁之

一 右同人方短日二付、往来十三日之日數

一 着用八ツ時出仕袴指事

一 御近習・外様・御中小姓之面々於同所

願差出ス、則 御免

一 節分之為御祝儀内御役人已上并

一 兩殿様江右同断申上ル、御組頭

右同人為御代明朝方出立之

一 御側御給人・御近習同格迄麻上下

一 田中半兵衛謁之

旨届之 田辺與左衛門

一 着用御候約中二付、七ツ半時出仕相揃

一 小役人御徒士之面々於例席右同断

願皇寺例年之通於稻荷御

候上於 御居間御祝儀左之通

一 申上ル、支配頭謁之

祈禱有之

但し御祝儀取扱御目付二委し依而略之

正月八日 田辺與左衛門

一 本覺寺

一 右畢而御旅立候足御祝儀有之

榎田藤兵衛

- 一 廣澤門太方孫女病氣之処、養生不相叶
今朝死去仕候、七才未滿二付、今日可卒惠
仕候旨、御徒目付方届之
- 正月九日 田中四郎右衛門
榎田藤兵衛
- 一 桧倉村高源寺濟洲和尚年頭
為御礼五ツ時出仕於
御書院御礼申上ル 御礼
- 御手白⁽²⁾ 昆布被成下候披露御奏者
右二付御家老不殘酒之間江被相詰
伴僧兩人江御雜煮・御吸物被成下
但し配前御用所子供
- 一 右高源寺御祝儀頂戴之事諸事
御目付へ委有之依而略之
- 一 廣澤郷太遠慮明二付出勤仕候御徒目付方
届之
正月十日 九里八郎右衛門
榎田藤兵衛
- 一 德源寺江
御隠居様 御代香 田中半兵衛
- 一 五ツ半時御供揃二而四ツ時被遊
御佛參候事
- 一 三組御足輕稽古事中に附御物頭方
差出候、御目付方差上之
- 一 明十一日御吉例之通 御具足御覽
- 披二付、切紙被成下、依之何茂支配方江為
御受罷越候事
- 正月十一日 田辺與左衛門
榎田藤兵衛
- 一 諸士六ツ時出仕
殿様被遊 御拝
- 一 右相濟候而、御祝儀有之、万端行事
御目付二委し依而略之
- 一 御家老中拝礼有之
御中小姓迄拝礼相濟
△服忌御改之事
- 一 御用左之通 金子次郎助
△無滞相勤候二付被成
御満足候依之御役人格横山庄兵衛次被仰付候勤
向是迄之通り
- 一 右於御書院次之御間御家老月番
生駒主水申渡之御組頭・御用人
御目付出席
- 一 御組頭方御中小姓迄御使者之間方
御長柄之間迄並居御祝頂戴之
右御礼内御役人とも於御家老詰所
申上候、表御役人・御給人・御中小姓迄
於其席申上候、御礼御家老・御組頭
謁之
但し御礼惣召初之事
- 一 御家老之隠居嫡子者御家老詰所
- 於■之間右同断頂戴之、右御礼者
御家老迄申上之、但し當時無之
御目付并当番之面々寄合之間二而
頂戴之、但し御次江罷出候御目見之小兒
有之節者於同所一諸二頂戴之事
勤有家持之小兒候ハ、是又同断之事
右御礼者御目付月番江罷越候事
小役人并御足輕於例席頂戴之
右御礼支配ニ々謁之⁽²⁾
- 一 三組御足輕於場所鉄砲被遊
上覽畢而、御物頭江 御意有之
江府表方旧冬廿四日出之状御便
- 正月十二日 田中四郎右衛門
榎田藤兵衛
- 正月十三日 九里八郎右衛門
榎田藤兵衛
- 正月十四日 田中四郎右衛門
榎田藤兵衛
- 一 御勝揚二付、御年男兩人麻上下
着用五ツ時出仕例之通、相濟
- 一 明十五日六ツ半時御供揃二而、五ツ時御規式
御供立二而被遊 御社參諸事
御目付方申達候
- 一 於市場九ツ時、如御召例左儀長
有之
- 一 御召馬御目付長田伝左衛門乘

無滞相濟候旨届之

岡田音也

番謁之

一 明十五日御小人共新得仕度御徒目付

一 御納御徒目付持参

一 御近習・外様・御中小姓之面々於

相窺、則御家老中江御目付方申上之

一 白雲山江豫参御奏者以下両社江

同所

候処勝手次第之段被 仰出

相勤候仁罷越候事、尤御家老豫参

両殿様江右同断申上之御組頭

一 達左之通

無之

田中半兵衛謁之

△明十五日御社参之節

一 両社并白雲山方神酒差上候納方江

一 御目付御預リ之独礼并御徒士

神勤⁽²⁾徒目付二付忠

相渡之御頂戴相濟、御家老中江も

之面々於例席支配二迄申上之

助被仰付候

藤木勝三郎

差出御目付及挨拶、尤両社斗

一 御用左之通

吉村角兵衛

右御徒目付方申達之

両社江

△無滞相勤被成

一 江府表方初便出来

御隠居様

御組頭

御満足候依之

正月十五日

田辺與左衛門

御代参

津田堅三郎

御給人席加納銀左衛門次被

仰付是迄

榎田藤兵衛

一 当日為御祝儀五ツ時惣出社御滞館

△無滞相勤被成

丸山理右衛門

一 五ツ時方両社并厄神向雲山江

直ニ御書院江着御、御給人以上

御満足へ依之

被遊

御参詣御着

御熨斗目

御礼被為 請

拾八俵四人扶持

長御上下

但シ御給人已上左儀とも濟頂戴之

御給人格席上田多左衛門次被

仰付勤向是

豫参

御家老

当年御初入二付而也

生駒主水

於御居間詰合之面々内御役人

迄之通

御奏者

以上御社参濟并御参勤御時節

右於御書院次之間御家老月番

早川権兵衛

御同濟之御欽三四人宛罷出申上之

生駒主水申渡之御組頭御用人

寺社御奉行

披露御奏者御取合御家老

御目付出席

庄作左衛門

一 内御役人以上於家老詰所

△御参府之節

御目付

御隠居様江当日祝儀并御参勤

尾州并京都

林平兵衛

生駒多膳

御伺濟御欽申上之月番生駒

御使者被 仰付

御手掛

主水謁之

△御道中方被

林新之助

一 表御役人・御給人面々於

仰付候

本間多膳

御手水

御使者之間同断申上、御家老月

山脇傳兵衛

右於御家老詰所、生駒主水申渡之

御目付出席

△当御参府之節

吉村又吉郎

御供在番被

仰付候

右於御組頭詰所田中半兵衛申渡之

御目付出席

一 公儀御法令書内御役人以上詰所ニ而

拝上之

一 御手前御定書式通

右御物頭方御中小姓迄御使者間

より御廣間江莊^⑤居惣御家老中

御組頭出席拝聴之御目付持参

御祐筆誦之

但 支配有之御組頭者出席有之故御年寄

御定書迄詰所ニ而拝上之事

一 小役人以下帯刀之者迄御使者之間方

御広間ニ並居御物頭御用人御郡奉行

御目付・御徒士頭出席、右同断拝聴之

御祐筆誦之

一 江府表方去ル六日出之御用使主水

一 公儀 泰姫若様去ル四日被遊

御逝去候、依之 公儀被 仰出御停止之

日限去ル十日限ニ相濟候得共

公方様廿日之御忌中ニ付

殿様御自分として被成御慎候間、来ル

廿三日迄鳴物音曲殺生相慎候様普請

並ニ稽古事者御構無之段々仰出

則御中小姓以上江以廻状相触之、小役人

已下江同断相触候様御徒目付江御目付

へ申達之

一 徳源寺江茂御目付方申達之

一 今日御中小姓已上於表

御定書拝聴中郷見小山平内

御足輕大橋小四郎兩人罷出遣候二付、出席之

御目付方差留候得共、推而席ニ連跳二付

早速為引置右之趣内々御家老中江

御目付方申述置之

一 右二付、兩人之者不調法之次第二付差控

居候様被 仰出頭々方申達候

達左之通

△御道中御徒目付助

丸山甚之助

并同断御祐筆初被

上月久右衛門

仰付候

右御徒目付方申達候

正月十六日

九里八郎右衛門

田中四郎右衛門

一 御用左之通

△殿様御^{厄之}辰年御祝

被成候二付、右御取扱被

早川権兵衛

仰付申談可相勤候

右於御家老詰所生駒主水申渡之

御目付出席

一 達左之通

△御厄年御祝用懸り

二 仰付置候処、御相厄ニ 田中四郎右衛門

相成候二付、不及之儀ニ候

右於御料理之間御目付申達候

一 荒木藤右衛門方兼而播州江差遣置候拍

家之婦人兩人当年中茂其俣

逗留為致候段届之

一 右同人方名代丸山理右衛門を右之

御届可仕候処、忘却致居候段奉恐入、依而

差控相伺候処不及其儀候旨被 仰出

一 右同人差控不及之其儀候付、出初ニ而届之

一 達左之通

△当御参府之節

田口廣助

御供在番ニ仰付 高田松之助

中島與治

右御徒士頭方相達候旨承之

一 藤田男也 勢州方罷帰候而届之

正月十七日

田中四郎右衛門

田辺與左衛門

一 江府表江今日認ニ而御勤方方御用使

被差立

正月十八日

田中四郎右衛門

榎田藤兵衛

一 德源寺江御代番 生駒主水

一 殿様当年御厄年二付、御内々二而

御代参被 仰付御祝用懸り御目付

生駒多膳被勤之 供着堂老人 鍵持老人

草り取

△厄神江

御鏡餅 老重

御初穂 青銅

五百文

△八幡 五社江

御鏡餅 老重 御初穂 青銅

五百文

△末社不残 但し 両社二而十八社

御鏡餅 老重宛

一 白雲山天神・奥村天神・若森稻荷

藤森明神・織田権現嘉多拝権現御■懸

稻荷江御鏡餅老重宛 下行方持参

但し御代参無之

一 德源寺 惣御霊前江 御鏡餅 老重

一 本覚寺 御霊前江 御鏡餅 老重

右者御内証二而御代香ハ無之、御徒目付持参

二而相済

一 小山平内・大橋小四郎差控免し候旨御郡奉行

御物頭方承之

正月十九日 九里八郎右衛門

田中四郎右衛門

正月廿日 田中四郎右衛門

田辺與左衛門

正月廿一日 田中四郎右衛門

榎田藤兵衛

一 達左之通

△当分奥勤二仰付候

勤向之義者御用達江

承可相勤候

右御徒目付方申達之

一 小林叶薺鹿五郎方実方之兄渡辺勇吾儀

兼而病二候事ニ養生不相叶今中之刻死去□□

依之半減之

忌 正月廿一日方 服 正月廿一日方

同 晦日迄 三月五日迄

右之通、受之忌中引籠罷在候段届之

一 上月久右衛門方右同人死去仕候、右者母方

從弟之続二付、依之定式之

忌 正月廿一日方 服 正月廿一日方

同 廿三日迄 同 廿七日迄

右之通受之忌中引籠罷在候段届之

一 伊藤五郎作方右同人死去仕候处、右者母方叔父

之続二付、依之定式之

忌 正月廿一日方 服 正月廿一日方

同 晦日迄 二月廿日迄

右之通受之忌中引籠罷在候旨届之

右何茂御徒目付方届之

一 水野啓太郎外様勤番見習之儀日数相立候付

御番入之儀同勤方申出候付則御目付方御家老中江

申述候处、勝手次第之旨被 仰出

一 達左之通

△嫡子啓太郎 兼而席之儀

追而御沙汰有之旨二仰出

居候处此度御近習席田辺恪之進次ニ 仰付候

△依御都合是迄之通

御広間外様勤番 水野智太郎

二仰付候

右於御料理之間御目付申達之

一 生駒主水家来渡辺助右衛門悴勇吾儀、病氣

之处養生不相叶今申ノ下刻致死去候段御徒目付方

届之

一 達左之通

△剃髮被 仰付候 大嶋立敬

右於御料理之間御目付申達之

一 右同人剃髮仕候旨届之 正月廿二日 九里八郎右衛門

田中四郎右衛門

一 御用左之通

△差懸リ無条義

御内用有之候二付出坂

被仰付候

田中四郎右衛門

右於御家老中詰所生駒主水申渡之御目付

但四ツ時出仕御免者小役人迄同断

御祝ニ付被下無之而も可然所、当年者

出席

△御厄年ニ付献上物可仕様被

思召茂有之ニ付被成下候事

一 達左之通

仰出面々左之通

正月廿四日 田中四郎右衛門

△素読教導方ニ

御肴老折 生駒主水

御組頭

榎田藤兵衛

仰付候

荻野序太郎

御檜 中山舎人

御肴 御物頭

一 丸山甚之助方両使御徒目付吉池平太夫

右於御料理之間御目付申達之

老折 津田膳之進

吉村由兵衛を以願書差出入、左之通

一 松本剛吉奥初神丈見届御濟候旨御徒目付方

御用人

△篠山御家中へ罷出候深津銀吾与申者之姉貴受

届之

御肴 御目付

御礼御給人

小林叶藪鹿五郎忌御免ニ付出勤仕候旨

一 吉池平八郎方明朝方篠山表江馬術稽古ニ

老折 内御役人

御肴

御近習

一 上月久右衛門忌明ニ付出勤之旨届之

罷越候与届之

正月廿三日

田中四郎右衛門

老折

御醫師

一 伊藤五郎作方忌御免ニ付出勤之旨届之

田辺與左衛門

御茶道

一 丸山甚之助方差出候願書之趣御免候旨被仰出

菊澤次郎兵衛

右献上物廻状ヲ以申達ス

正月廿五日 九里八郎右衛門

一 達左之通

御広間勤番兩人其外詰合之

相成候者可被申出候、御扶持ハ是迄之通三人扶

△中尾弥作恠甚蔵

面々茂御酒被成下候間、九ツ時麻上下

着用出仕候様、御目付方申達之

持被成下候

御台所向詰合并奥向詰合裏

殿様於御居間御座付

但し御給金無之

御門番人・黒御門番人迄御酒被成下

御三宝御鏡老重 長熨斗

右於御料理之間御目付申達之

候ニ付、向々江御目付方申達之

右御納戸役差上之候其俣御床ニ勝之

殿様御厄年ニ付明後廿五日御組頭

△御勤方詰合〔□□：□□〕

於御居間 御取遣左之通

御物頭・御用人・御目付内御役人・御側

御用所頭取 小頭 御〔□□：□□〕

御隱居様方

御給人・御近習・御医師・御茶道迄も

御取々下役 御小人頭

御使者御用人

御歡并御酒被 成下候ニ付、九時より

御下所炭薪方御作事迄四ツ時方日勤之

者江者御酒被成下候ニ付、九ツ時方麻上下着用

麻上下着用出仕頂戴可仕旨并

出仕候様申達之

右之面々四ツ時方出仕御免ニ付、九ツ時方之

当日勤番之外四ツ時方出仕有之

奥方様方御さかな

老種

面々出仕被成 御免候様被 仰出候ニ付

御目付方廻状ヲ以申達之

榎田藤兵衛

御目付方廻状ヲ以申達之

奥方様方御さかな

老種

同奥御用人

藤田権左衛門

靄姫様方御さかな 忝種

御使者

右同人

於寿賀様方御さかな 忝種

御使者

右同人

一 諸士席々方昨日被 仰出候通

御肴 忝折宛献上之

右披露御用懸り御目付御用達

一 殿様方 御隠居様 奥方様江

御鏡 忝重 御肴 忝折 御樽 忝荷

一 靄姫様 於寿賀様江御鏡忝重

右者江戸表江差遣候旨被 仰出御品者

江戸表御元方取計

一 於御居間内御役人已上御欽申上候

御取合御家老 披露無之

一 御側・御給人・御近習・御医師・御茶道

右同断申上之

畢而 大庄屋

御肴 忝折 芦田源五郎

上山九左衛門

芦田庄三郎

右披露御郡奉行 江間半右衛門

一 御居間二而御祝左之通

木具

△御雑煮 △御吸物 △御肴 数子

△御家老中御相伴 御盃被成下

右畢而奥江 入御

△御祝御膳 御献立略之

右於 御居間御家老中御酒・御吸物頂戴之

△御肴 二種配膳候御近習也

一 於寄合之間御組頭方御側廻り迄并

詰合之面々御酒・御吸物頂戴之

△御肴 二種

但し

殿様方御盃并御肴・嶋台被差出

全思召二而之事也

一 於御台所御用懸り小役人并詰合之

面々大庄屋共其外末々御小人二

至迄右同断被成下

御肴 二種

右御礼何茂懸り御役迄申上之

正月廿六日 田中四郎右衛門

田辺與左衛門

一 於御米藏御扶持渡有之

一 田辺膳之進服合不相勝難渋

候二付、引籠養生致度旨届之

一 達左之通

△依御都合当分

水野啓太郎

御取次勤番被 仰付候

右於御料理之間御目付申達之

一 松原忠左衛門去十三日江府表発足

伊勢路旅行道中人足支二而

御定之外一日延着之旨届之

一 田中四郎右衛門組下柿内伴右衛門願之通

隠居悴戸市之家督申付候旨承之

正月廿七日 田中四郎右衛門

榎田藤兵衛

一 於御米藏御扶持方渡有之

一 上田多左衛門両使磯野長左衛門

菊沢文左衛門を以願書差出左之通

△私義不調法者二御座候处、結構被 召仕

被下冥加至極難有奉存候、然ル处当年

七拾歳二罷成物覚等薄相成候二付、勤筋

御赦免隠居被 仰候被下候様奉願候、未略ス

一 藤田男也方両使磯野長左衛門

岡田音也を以願書差出ス

左之通

△三田(□□:□□)

与申者方江無抛用事御座候二付、罷越用弁

仕度往来十五日御暇奉願候、未略ス

一 山脇傳兵衛方一使磯野長左衛門を以

口上書差出ス、左之通

△私屋敷東之方

御用地別紙図面米引之通東江老間北江

四間拝借仕度奉願候、尤御入用之節者早速

取払差上可申候、未略ス

- 一 田中四郎右衛門御内用二付、明朝方出坂之旨届之
- 一 今井左右藏右同断二付、出坂之旨御徒目付方届之

御徒目付方届之

正月廿八日 九里八郎右衛門 榎田藤兵衛

- 一 為当日御祝儀内御役人以上

御給人之御医師迄於

御居間与為 請御札之御奏者

披露御家老御取合

- 一 於両社御祈祷有之詰人左之通

八幡江

御目付

片岡助左衛門

若堂

草り取

道具持

御徒目付

差支二付

長谷順治

草り取

五社江

御徒目付

永田傳左衛門

若堂

草り取

道具持

御徒目付

平井嘉作

草り取

右之通五ツ時方□□□

一 水野智太郎御取次勤番見習之儀

申上則乍勤見習候様被 仰出

一 松原忠左衛門被差登候二付、從

御隠居様御尋之 御意有之

正月廿九日 田辺與左衛門

榎田藤兵衛

一 脇田檜右衛門足痛快出勤仕候処、未睨々

不仕候付、外勤向御断申上候段御徒目付方届之

一 德源寺江

御代香

生駒直規相勤

一 長谷順治江兼而被差渡候同名又八江

御扶持以来不差渡候旨被仰出、御徒目付方届之

一 御料理方三人・家具方四人右七人

二而泊り番相勤候様、御徒目付方申達候

一 藤田男也方差出候願書之趣

御聞濟之旨被仰出則使方

其旨申達之

正月晦日

九里八郎右衛門

榎田藤兵衛

一 德源寺江

御代香

生駒主水

御徒目付方例月言上書差出ス

二月朔日

九里八郎右衛門

一 当日為御祝儀御給人已上四ツ時

出仕於 御書院御□□

請之

一 磯野長左衛門風邪氣二而長髮御断

之旨御目付江届之

一 德源寺江

御代香

生駒直規

一 井上伴之丞腫物快出勤之旨御徒目付方届之

御用左之通

△御參府之節

御供在番御道中方 磯野長左衛門

被 仰付候

右於御家老詰所二生駒主水申渡之

御目付出席

△御參府之節

御供在番被 山村佐右衛門

仰付候

右於御組頭詰所月番田中

半兵衛申渡之御目付出席

一 達左之通

△山室又藏養子

親類

急二相尋勝手次第

永田傳左衛門

相預可申候

△兼而御供在番被

早川権兵衛

二月廿三日迄

五月四日迄

仰付至極御都合

一 藪鹿五郎腫物氣二付、難洪仕候二付

右之通受之忌中引込罷在候旨届之

被成御用捨候

引込養生仕度段届之

一 片岡助左衛門方右同所罷在候同人死去仕候右者父方從弟之続二付、定式

△御道中御祐筆

一 岡田市左衛門方江牧山小畑村二罷在候縁者植木牧之助与申者母少女召連罷

御徒目付勤被

越、暫之逗留為仕度市左衛門在留中二付

忌 二月四日方 服 二月四日方

仰付候

片岡助左衛門方届之

二月六日迄 二月廿日迄

右於御料理之間御徒目付申達之

二月二日 田辺與左衛門

一 吉池平八郎今朝方馬術稽古各笹山江

早川権兵衛

罷越候旨届之

右之通受之忌中引込罷在候旨届之

二月三日 早川権兵衛

一 米田利兵衛方一使口上書差出左之通

二月五日 田辺與左衛門

榎田藤兵衛

悴役之進儀十五才御成候二付、為執前髪

早川権兵衛

一 德源寺江

御代香 生駒主水

申度奉願被遊

一 吉池平八郎笹山表方罷帰候旨届之

磯野長左衛門風邪快月月代刺候段

御赦免被下候ハ、難有奉存候、右之段不苦

一 達左之通

御徒目付江届之

儀二御座候ハ、末略ス

近々檢見寺様御入来 矢嶋廣助

一 山村佐之右衛門方窺書差出左之通

一 江府表方去月廿二日出之月并御便出来

二付、御逗留中二成御附二 辻 泰藏

△厄介田嶋万之助儀里方無抛都合之儀

一 荒木藤右衛門一使横山庄兵衛ヲ以口上書差出左之通

申談可相勤候 大槻唯七 松原甚太郎

御座候旨、今度差戻候様申越依之任

△浅井次左衛門嫡子鉄之丞儀十三歳二罷成

右御徒目付方申送之

其意ニ差戻申度奉存候、末略ス

候二付

依御都合表一通 吉川立可

一 右同人方何書之趣御聞濟之旨被

袖留為仕度、次郎左衛門在番中二付從私奉

勤番被 仰付候

仰出旨申達候

願候

右御徒目付方申達之

一 右同人方何之通、厄介儀明朝方差

末略ス

一 吉村又吾郎方兩使横山庄兵衛・菊沢擗高

戻候段届之

一 飯田新八郎方播州木梨村二罷在候姉

ヲ以願書差出左之通

一 松原忠左衛門休足濟二付、明日方御番

病氣之所、養生不相叶死去仕候段、申越候二付

△尼ヶ崎御家中二罷在候実家野田徳右衛門与

入之旨申達之

定式之

申者方へ無抛用事御座候二付、罷越用弁

二月四日 九里八郎右衛門

忌 二月四日方

服 二月四日方

〔□□・・・□□〕

一 三宅半十郎風邪氣二付、長髮御断候
之段届之
二月八日 田辺與左衛門
早川權兵衛
御逢無之旨被 仰出、其旨御目付方
申達候

二月六日 早川權兵衛
飯田新八郎忌御免二付、出勤之旨届之
二月十三日 九里八郎右衛門

榎田藤兵衛
一 三宅半十郎風邪快月代剃候段届之
早川權兵衛

一 德源寺江御代香 生駒直規
一 今夕認二而、月並御使被差立
一 平井嘉作腫物氣二付、難致致

一 藤本正次郎方へ井原村方参居候小兒
一 米田利兵衛方差出口上書御免之旨
候二付、引込養生仕度旨届之

今朝罷帰候旨届之
被 仰出則申達候
一 丸山甚之助兼而願之通、明晚

一 今夕認二而江府表江御用便被差立
一 江府表方卷月廿九日出之御用便至來
一 縁女引取候旨届之

一 荒木藤右衛門方差出候口上書之趣御聞濟
二月九日 早川權兵衛
一 子守純之助方へ牧山村方罷越居

二付、則申達候 榎田藤兵衛
候女客用向相濟、今朝罷帰候旨

一 吉村又吉郎方差出候兩便願書之趣御聞濟
一 平野吉左衛門方妻出產女子至出生候、依而
純之助在番中二付、飯田半蔵方

二月則申達候 穢中引籠候段、届之
御目付江届之

一 嘉多拝権現并稻荷其外何事不寄
二月十日 田辺與左衛門
一 山脇傳兵衛方江請願御家中

一 祭祀之節作物・生花杯之儀一切
早川權兵衛
縁者大河原廣九〇〇〇

一 不相成候段被 仰付候二付、則御中小姓以上へ
生駒主水
方々小女客老人罷越、暫逗留

一 及席達小役人以下者御徒目付方申達ス
御隠居様 御代香 早川權兵衛
為仕度旨御目付江届之

二月七日 九里八郎右衛門
二月十一日 九里八郎右衛門
二月十四日 田辺與左衛門

早川權兵衛
早川權兵衛
早川權兵衛

一 片岡助左衛門忌明二付出勤之段届之
二月十二日 田辺與左衛門
一 笹川泰次郎方三田御家中江

一 明後九日初午二付、御屋敷稻荷江
早川權兵衛
差遣置候妹不熟二付、双方申談

一 御家中参詣之儀、勝手次第之段
一 摠見寺様昨夜御出、德源寺江
之上、離縁仕旨届出候段、取次方

被 仰出、諸向江申達候
被成御逗留候段、田中半兵衛方
届之

一 飯田新八郎忌御免二付、明日方出勤之旨
御目付江届之
一 藤田男也方兼而願之通、明朝方

切紙出候
田辺格之進不快二出勤之段
三田御家中縁者方江罷越候旨

一 吉村又吉郎願之通、明朝方尼崎御家
御目付江届之、右二付、御逢
御目付江届之

中江罷越候段、届候
之儀相伺候处、御不例二付、表向
一 三輪五百次郎風邪二而熱氣強難

洪二付、引込候段、御目付江届之

一 此度以 思召被 仰出左之通

△御在邑中以来内御役人以上

式日惣着衣之事

△平日着衣着用出仕左之通

△御組頭以上不残 △御用人月番老人

御目付当番老人 御勤月番老人

御元方之内老人 御郡町 奉行月番

寺社 老人

御用達当番老人 御元之内老人

奥御用人老人 奥御目付当番老人

右何茂昼柄者御用捨袴・羽織

之事

右之通以来、着衣着用出仕有之

候様、内御役人以上江御目付方及席達

候事

二月十五日 早川権兵衛

榎田藤兵衛

一 為当日御祝儀御給人以上四ツ時出仕

候処 殿様御頭痛氣二付、御礼不被為

語、依而於御家老詰所内御役人以上

御祝儀申上候、月番生駒主水謁之

一 御給人之面々於御使者之間右同断

申上候生駒主水謁之

一 御用左之通

△勤筋御免隠居願

達 御聴候処、丈夫

二付、乍太儀今暫其候 上田多左衛門

相勤可仕申候

右於御家老詰所月番生駒主水

申渡、御目付出席

一 達左之通

△隠居再願達

御聴候処、丈夫二付 井上安左衛門

(□□□：□□□) 菊沢文左衛門

相勤可申候

右於御料理之間御目付申達之

一 米田利兵衛妻出産男子出生二付

穢中引込罷在候段、御徒目付方届之

一 丸山甚之助昨夜婚姻相願出候段、御徒目付方

届之

一 小山久太夫・坂口善兵衛隠居願差出

候処、丈夫二付其候勤候様御徒目付方

申達之

一 奥村長屋・藤木勝三郎・渡辺三太夫

住居候跡大破二付、取払為主人見分

御徒目付山村喜平治差遣事

二月十六日 九里八郎右衛門

一 平野吉左衛門産穢明二付、出勤

之旨届之

一 浅井次郎左衛門悴鉄之丞願之通

袖留仕候旨、次左郎衛門在番中二付

荒木藤右衛門方届之

一 藪鹿五郎腫物氣快出勤之旨御徒目付方

届之

一 吉村又吉郎尼ヶ崎御家中方

罷歸り候段、届之

二月十七日 九里八郎右衛門

早川権兵衛

一 菊沢次郎兵衛方中尾馬之助母今朝

出産男子出生仕候旨届之

一 荒木藤右衛門方一使片岡助左衛門を以口上書

左之通

狛家婦人儀播州西田村里元宇野

藤太郎与申者方へ(□□：□□)

暫之逗留二而差遣申度奉願候、末略ス

一 足立五郎助家具方助不及者儀

候旨、御徒目付方申達之

二月十八日 九里八郎右衛門

榎田藤兵衛

一 徳源寺江

御代香 生駒直規相勤

一 平山源右衛門今日忌明之旨、早川

権兵衛方届之

一 荒木藤右衛門方狛家婦人願之通

今日方播州江差遣候段、届之

二月十九日 九里八郎右衛門

早川權兵衛

二付、來ル廿九日方

御目付

播州木梨村ニ罷在候縁者大熊市左衛門

一 小松原郡太方両使吉池平太夫・清川

晦日迄御取越、御法事

磯野長左衛門

与申者方へ無拋用向御座候二付、罷越用

六之進ヲ以願書差出、左之通

御執行之旨御用掛り被仰付候

同永田傳左衛門

弁仕度、仍而往来五日之御暇奉願候

△播州木梨村ニ罷在候縁者藤木又兵衛

一 右於御家老詰所生駒主水

御赦免被成下候者、難有奉存候、末略ス

与申者方へ無拋用事御産候二付、罷越

申渡御目付出席

御組頭

一 御用左之通

用弁仕度、依之往来九御暇願、末略

右同断二付掛り

御組頭

△圓明院様百五拾回

書役 長谷順治

一 藤田男也三田御家中縁者方方

被 仰候

平野吉左衛門

御忌

同 上田孫六

罷歸り候段、届之

□□

寶壽院様十三回御忌

御料理方 米田利兵衛

二月廿日

九里八郎右衛門

一 右於御組頭詰所田中半兵衛

□□□□□□

御取越御法事御執行ニ而

同 松木與右衛門

一 小松原郡太方差出候願之通、御聞濟

申渡之御目付出席

御用掛り被 仰候

家具方 小久江平吾

一 其旨使江御徒目付方申達候

△地所拝借之義相願

山脇傳兵衛

右於御用人詰所掛り榎田藤兵衛

一 江府表方御用便至來

候処、今度思召ヲ以

申渡御目付出席御徒目付加座

一 圓明院様百五拾回御忌

屋鋪地當時住居引続東之方ニ而八拾坪被差渡

二月廿二日 九里八郎右衛門

一 寶壽院様拾三四御忌御相当二付

右於御家老詰所生駒主水申達

早川權兵衛

來ル廿九日方晦日迄御取越御法事

御目付出席

一 米田利兵衛産穢明ニ而、出勤之旨届之

御執行ニ付、右御用掛り惣奉行

一 物部村由良方左衛門御願五石式人扶持

一 佐敷佐工間風邪ニ而引込候段、御徒目付方

生駒主水江被 仰付

御道掃払方被 仰付候段、御郡

届之

但し、圓明院様晦日方朔日迄御日取御執行

奉行方承之

一 飯田新八郎方差出候願書則御聞濟

之処御都合之義有之旨、右之御日取御取越

一 山脇傳兵衛方へ綾部御家中方参居候

一 榎田藤兵衛方一使口上書差出、左之通

御執行候

客井小女今朝罷歸候段、届之

播州三草丹羽長門守様御陣屋一統

一 御用左之通

二月廿一日 九里八郎右衛門

砲術修行被仰付、取立之儀ニ付載越

△圓明院様

御用左之通

候処、先方御無人ニ付折々罷越吳候処申越候二付

百五拾回忌

御用人

一 三輪五百次郎風邪快出勤候段、届候

為名代星合倅蔵折々差遣申度

寶壽院様於

同 榎田藤兵衛

一 飯田新八郎方両使片岡助左衛門

奉願候、末略ス

三田御忌御相当

同 榎田藤兵衛

一 三宅半十郎ヲ以願書差出左之通

一 右同人方差出候願之趣則御聞濟

- 菅屋升次郎弟病氣養生不
相叶死去、依之定式之
忌 二月廿二日方 服 二月廿二日方
三月十一日迄 五月廿二日迄
右之通、請候忌中引籠罷在旨
御徒目付方届之
一 須佐見永作妾出産男子出生
依之穢中引籠候旨御徒目付方
届之
一 星合助太郎叔父倅藏義願之通
明日方播州三草江差遣旨榎田
藤兵衛方届之
二月廿三日 九里八郎右衛門
田辺與左衛門
一 達左之通
△田中半兵衛差支
之節摠見寺懸り 早川権兵衛
心得被 仰付候
右於料理之間御徒目付申達之
二月廿四日 九里八郎右衛門
榎田藤兵衛
一 三宅半十郎熱氣快月代剃之旨
届之
一 飯田新八郎願之通、明朝方播州
木梨村江罷越候旨届之
一 上月久右衛門・丸山甚之助兼而
- 御道中御徒目付心得被
仰付置候処、不及其儀之旨被
一 仰出候二付、御徒目付方申達之
達左之通
一 △依御都合御道中
御徒目付勤被 加納幸六郎
仰付候
右於御料理之間御徒目付申達之
一 足立五郎太夫江御法事中御徒目付
助勤被 仰付候
二月廿五日 九里八郎右衛門
早川権兵衛
一 菊沢文左衛門方江笹山御家中
縁者方方参居小女来月中も
逗留為致候旨届之
一 飯田半蔵一使 君口上書
差出左之通
一 叔母儀播州粟生村罷在候縁者
岡田市左衛門方江牧山・小畑村方
一 参居候女客并小女来月中も
逗留為致候旨、市左衛門在番中二付
片岡助左衛門方届候
一 飯田半蔵方差出候口上書之趣
御聞濟
二月廿六日 九里八郎右衛門
田辺與左衛門
- 一 米田利兵衛方悴紋之丞前以而
奉願候通前髪為執候段届之
一 吉池平八郎兼而奉願置候縁女
明晚引取候旨、御徒目付方届之
一 須佐見永作産穢
御免二付、明日方出勤可仕之旨
御徒目付へ申達
一 於御米蔵御扶持方渡有之
一 飯田半蔵方願之通、叔母今日方
播州江差遣候旨届之
一 濱路惣右衛門方兼而願之通、二女義
明晚吉池平太夫方江差遣候旨
届之
一 吉池平太夫方兼而願之通、悴平八郎
縁女明晚引取婚姻為相整
候旨届之
一 庄作左衛門方兼而願之通、明晚縁女
引取婚姻相願候段届之
一 圓明院様御代以前方相勤候
小役人・御足輕拝礼被 仰付
一 香物御法事方帳面二委候
一 原長悦方江播州板波村二
罷在候叔母罷越、暫逗留為致
候旨届之
一 岡田市左衛門方江福知山御家中江
差遣居候山田兵馬罷越候二付

暫逗留為致候段、在番中二付

片岡助左衛門方届之

二月廿七日 九里八郎右衛門

榎田藤兵衛

一 須佐見永作産穢

御免二付、出勤之旨届之

一 御法事掛り小役人之面々明日方

御寺江引越候段、御徒目付方

届之

一 於御米蔵御扶持方渡有之

一 津田寛治郎方両使早川権兵衛

片岡助左衛門を以、願書差出左之通

△九毫式部少輔様御家中二罷在候

平和源太夫与申者之嫁貰請、妻二

仕度奉願候

一 右同人差出候願之趣、御聞濟

二月廿八日 九里八郎右衛門

早川権兵衛

一 吉池平八郎昨夜婚姻相整候旨

届之

一 菅屋升次郎忌被成

御免候二付、明日方出勤之切紙差出

一 為当日御祝儀内御役人以上

御給人之御医師迄四ツ時出仕

於 御居間御礼被為請

一 庄作左衛門方昨夜縁女引取、婚姻

相整候段、届之

一 吉池平太夫方悴平八郎昨夜

縁女引取、婚姻相整候旨、届之

一 濱路惣右衛門方二女昨夜吉池平太夫方へ

差遣候旨、届候

一 飯田新八郎播州木梨村方罷帰り

候段、届候

二月廿九日 九里八郎右衛門

田辺與左衛門

一 井上伴之丞腫物氣二付、引籠

養生仕度段、御徒目付方届候

一 菅屋升次郎忌 御免二付、出勤

仕候段、届之

一 生駒主水妻出産女子出生

依之穢中引込候旨届之

一 菊沢文左衛門足痛氣二付、御供方

御断申上

一 原長悦方播州板波村方兼而

参り居候叔母来月中茂逗留

為仕候旨、届之

一 生駒主水産穢 御免二付、出勤

仕候段、届之

一 達左之通

△老年二付、御供方 菊沢文左衛門

被成御用捨候

右於御料理之間御徒目付申達候

二月晦日

九里八郎右衛門

田辺與左衛門

一 徳源寺江御代香

一 生駒直規

一 佐敷佐工間娘病氣之处、養生不

相叶死去仕候处、七歳未滿二付、

三日遠慮仕候段、御徒目付方届之

殿様六ツ半時御供揃而被遊

御仏参

一 佐藤源兵衛方孫女義病氣之处

今卯之刻死去致、右者七歳未滿

二付、今一日遠慮罷在候旨、届之

一 岡田市左衛門方へ福知山御家中方

参居候弟用弁相濟、今朝罷帰り

候旨、市左衛門在番中二付片岡

助左衛門方届之

一 生駒主水・田辺與左衛門・榎田藤兵衛

磯野長左衛門・永田傳左衛門御法事無滞

万端御都合能相濟、引取候段

届之

一 平野吉左衛門善積平左衛門御法事

相濟候二付、徳源寺方引取候旨届之

御法事掛り小役人右同断之

旨届之

三月朔日

田辺與左衛門 早川権兵衛

一 小松原郡太播州木梨方罷帰候段届之

一 井上伴之丞腫物気快、出勤之旨届候之

一 御用左之通

△御法事御用懸り

被仰付候処、出情相勤 長谷順治

無滞相濟、太儀之至 上田孫六

思召候 米田利兵衛

御意 松木此右衛門

小久江平五郎

藤木正次郎

一 右於御用人詰所御用掛・御用人

申渡ス、同断御目付出席

御徒目付出席

一 為当日御祝儀御給人以上四ツ時

出仕、於御書院御礼被為 請候

一 昨日相触候通内御役人以上四ツ時出仕

於御居間、御法事濟伺御機嫌

申上、御奏者披露御宗旨御取合

一 於御居間御法事懸り、御家老生駒

主水罷出 御意有之田辺与左衛門

榎田藤兵衛・磯野長左衛門・永田傳左衛門

同断 御意有之

一 佐藤孫兵衛今日遠慮明之旨、慎中

二 付濱路惣右衛門方届之

一 御用左之通

△御法事懸り被仰付候処

無滞相濟 御満足

平野吉左衛門

善積平左衛門

思召候、御意

右於御組頭詰所田中半兵衛申渡ス

御目付出席

一 德源寺方以使僧御法事濟之御挨拶

出仕之事

三月二日 九里八郎右衛門

田邊与左衛門

一 從江戸表去ル廿二日出之月次便

出来

一 菊沢次郎兵衛方中尾馬之助義病

氣之処、養生不相叶、今日午ノ下刻

死去仕候段届之

一 中尾馬之助親類菊沢次郎兵衛

前川与次兵衛方而使御目付飯田新人郎

使勝川次郎太夫ヲ以、願書差出左之通

△中尾弥作及末期奉願候二付、同人死去後

御慈悲ヲ以悴馬之助江家内為取続、御扶持方

是迄之通被成下、其上十五才ニ相成候へハ、可

申上旨被仰付、冥加至極難有奉存候、然ル処

馬之助儀此度抱そふ相煩、種々療用仕

候得共、養生不相叶、死去仕候、先達而□

弟義御座候得共、余り幼稚之者ニ御座候へハ

弥作跡式之義奉願候義出入親類共

心配罷在候、何卒無上之以

御慈悲家内之者及禍命不申候様、乍

恐奉願候、右之段御在配中迄宜被仰上可

被下候

右御組頭田中半兵衛宅江差出候

三月三日 田邊与左衛門

榎田藤兵衛

一 佐藤佐工間風邪快并遠慮明二付、

出勤仕候段届之

一 德源寺 御代香 生駒主水相勤

一 為上已御祝儀五ツ時惣出仕

御書院江 出御、御給人以上御礼

被為 請畢而 入御、御熨斗頂戴之

一 内御役人以上於御家老詰所

御隠居様江上□□□

一 生駒主水謁之

一 御給人之面々於例席右同断申上ル

一 御近習・外様・御中小姓之面々於例席

一 両殿様江御祝儀申上ル、御組頭謁之

一 小役人・御徒上之面々右同断支配ニ

謁之 三月四日 田邊與左衛門

早川権兵衛

一 御用左之通

△先頭御就用掛被 仰付 九里八郎右衛門

御都合能相勤、去儀之通 早川権兵衛

思召候 江間平右衛門

御意

生駒多膳 片岡助左衛門

右於御家老詰所生駒主水申渡ス

差遣候段、届候

田辺与左衛門

御目付出席

平野吉左衛門

三月六日

田辺与左衛門

平野吉左衛門・長谷直右衛門方御徒目付飯田

右同断

加納幸六郎

榎田藤兵衛

新八郎使菊沢次揖馬ヲ以兩使願書差出

一 右御組頭於詰所田中半兵衛申渡ス

一 德源寺江 御代香

生駒主水

左之通

御目付出席

一 長谷順治方同氏又八妻無抛次第二付

△讚州金毘羅并城州八幡江裳願之儀

一 田中四郎右衛門御内用相濟、大坂方罷掃

一 離縁仕候段、御徒目付方届候

御座候二付、參詣仕度、依之往来共具

候段、届有之

一 佐敷孫兵衛差扣中二付、濱路摠右衛門

御共奉願候、末略ス

一 今井左右藏右同断之旨、取次方届候

一 同人娘長谷榮治妻ニ差遣上出候処、不熟

一 杉原左五兵衛方御目付飯田新八郎

三月五日

九里八郎右衛門

二付、双方申談、離縁仕旨、届候

使山村佐之右衛門ヲ以兩使願書差出左之通

田辺与左衛門

一 御用左之通

△城州八幡山江裳願之儀御座候二付、參詣

△中尾馬之助致死去候二付、親類 菊沢次郎兵衛

△御代替二付、知行之面々江

飯田新八郎

仕度并京都同家杉原作十郎方江

之者共方難渋次第至之事

前川與次兵衛

御書出被成下二付、右御用掛

横山庄兵衛

無抛用事御座候間、罷越用弁仕度、依之

思召候、依之弟清三郎儀幼稚ルス

被仰付候

往来廿日之 御宮奉願度、末略ス

候得者、家内為取続三人扶持被成下候折、五才ニ

右於御家老詰所生駒主水申渡ス

一 今井左右藏御内用二付、明朝方大坂

相成候へハ、可申出候

御目付出席

江參り候段、取次方届候

右於御組頭詰所田中半兵衛申渡ス

一 三輪五百次郎方岡田漸之進祖母

三月八日 九里八郎右衛門

御目付出席

一 病氣之処、養生不相叶、今末之中則

田辺與左衛門

一 山脇傳兵衛地所渡有之

一 致死去候段、漸之進幼年二付、届候

一 達左之通

一 藪鹿五郎腹痛二付、引込候段、御徒目付方届候

一 右同人方同人死去実母之続二付、定式之

△藪鹿五郎引込中 大槻唯七

一 大井小膳方御目付飯田新八郎ヲ以一使

忌 三月六日方 服 三月六日方

家具方助被 仰付候

口上書差出左之通

四月迄

寅三月中

右之段御徒目付方届候

△妻儀福知山御家中ニ罷在候里元渡辺藤七与

右之通、受之忌中引込候段、届候

一 月次御便差立

申者方江無抛用向御座候二付、次男召連暫

一 矢嶋廣助辻米藏方

一 御用左之通

逗留ニ差遣申奉願候、末略ス

一 摠見寺柳御歸り二付、昨日限引取候段

御代替二付、知行之面々江 藤田権左衛門

一 右同人方差出候口上書之趣御聞濟

御徒目付方届候

御書出被成下候間、右御用掛り 九里彦輔

一 右同人願之通、妻儀并小兒召連明朝方

三月七日

田中四郎右衛門

被 仰付候

- 右於御家老詰所生駒主水
 申渡入御目付出席
 三月九日 田辺与左衛門
 榎田藤兵衛
 一 天保十一子年十二月二日不寄何事
 当人差支之節二者都而名代相頼候節
 同席之者ニ可限旨被仰出候得共、以来
 前々方之通、席違ニ候得共、同支配之
 内ニ候者、相頼候而茂不苦旨被仰出
 三月十日 田辺与左衛門
 早川権兵衛
 一 殿様五ツ半時御供揃二而、御仏參
 德源寺江
 御隠居様 御代香 津田膳之進
 一 平野吉左衛門・長谷直右衛門兼而願之通
 明朝方參詣仕候段、届候
 一 杉原左五兵衛方願之通、明朝方八幡山江
 參詣仕候段、届候
 三月十一日 九里八郎右衛門
 田辺与左衛門
 一 長谷孫助御往方被仰付候段、御徒目付方
 申達ス
 一 御代替二付、知行之面々江近々
 御書出被成下候二付、先御代々被成下候
 御書出并写共相認メ御給人以上麻上下
 着用五ツ時出仕、御書院次ノ間おゐて
- 生駒主水受取 御本紙 御覽相濟
 御用左之通
 一 御都合之儀茂有之候二付
 当四月 御參府之節御 津田忠次郎
 在番被仰付候
 △兼而被差渡置度敷地
 引統御定之通八拾五件 丸山理右衛門
 被差渡候
 右於御家老詰所生駒主水申渡ス
 御目付出席
 一 達左之通
 △御都合之儀有之候二付
 御遠中御納戸勤被 津田忠次郎
 仰付候
 右於御組頭詰所御目付方申達之
 飯田半藏方御目付飯田新八郎 使
 本間多膳ヲ以兩使願書差出左之通
 △田辺御家中実^②家内海寛治郎方江
 罷在候、実母兼而病氣之処此節別而
 不相勝候二付、參兵候様申越候間、罷越対面
 仕度、往来十日之御暇奉願候
 一 右同人方差出願書之通、御聞濟被仰出候
 一 右同人願之通、明日方罷越候段、届候
 三月十二日 田辺与左衛門
 榎田藤兵衛
 一 野口彦六方一使山村喜平治ヲ以口上書
- 差出左之通
 △妹儀福知山御家中北沢亮五郎与
 申者賞請、妻ニ仕度相望候二付、任其意
 差遣申度奉願候、末略ス
 一 右同人願之通 御聞濟被仰出、則
 御徒目付方申達之
 去ル朔日出之御用便到来
 三月十三日 田辺與左衛門
 早川権兵衛
 一 榎田藤兵衛方星合孝藏播州三草方
 昨夜罷歸り候段、夕深更二付、今朝
 届候
 荒木藤右衛門方兩使飯田新八郎
 九里彦輔ヲ以口上書差出左之通
 △浅井次郎左衛門嫡子鉄之丞年頃ニも相成
 候二付、御目見為仕度、次郎左衛門在番中
 二付、私方奉願候、末略ス
 三月十四日 九里八郎右衛門
 田辺與左衛門
 一 津田三郎助今八ツ時御用左之通
 △其方儀常々心得違
 之事共有之、如何 津田三郎助
 之心得ニ候哉、急度被 名代 本間多膳
 仰付候旨茂可有之処、此度者格別之思召
 ヲ以御給人格末席被 仰付候、以後急度
 心得違無之候様相慎可申事

- 右於御家老生駒主水宅申渡之
御組頭・御用人・御目付出席
- 一 同御用左之通 佐敷孫兵衛
△其方儀於江戸表 名代
不行届之事共 濱路惣左衛門
有之、如何之心得二
候哉、此度者格別之思召ヲ以御沙汰ニ不被及
候得共、以後何事ニ不寄萬事心懸精勤
可致候
- 右於御組頭田中半兵衛宅申渡之
御徒目付出席
- 一 津田三郎助名代本間多膳ヲ以
被 仰渡之趣奉恐入候、依之差控
相伺候処、御聞置之段被 仰出候
則其旨御目付方名代江申達之
- 一 津田要輔方名代庄 作左衛門を以
三郎助江被 仰出之趣奉恐入候、依之
差控相伺候処、不及其儀候段、被 仰出
則同人出勤之旨、届之
- 一 佐敷孫兵衛名代濱路惣右衛門を以
被 仰渡之旨奉恐入候、依之差控相
伺候処、御聞置候段被 仰出、其旨
名代江申達之
- 一 佐敷左工間方名代森田勘助を以
父孫兵衛江被 仰渡之趣奉恐入候
依之差控相伺候処、御聞置候段
- 被 仰出、則其旨名代江御徒目付方
申達之
- 一 猪川六之進方村田喜内方名代
上月久右衛門ヲ以孫兵衛江被
仰渡之趣奉恐入候、依之差控相伺
候処、不及其義候段、被 仰出候
則御徒目付方其旨名代江申達之
- 一 右兩人差控不及其儀候二付、出勤
之旨届之
- 三月十五日 田辺與左衛門
榎田藤兵衛
- 一 為当日御祝儀御給人已上四ツ時
出仕、於御書院御礼被為
請之
- 一 達左之通
- △御代替二付、知行之
御書出被成下候二付
- 平岡政右衛門へ認物被 勝川次郎太夫
仰付候間、伝達可致候
- 右於御料理之間御目付申達之
- 一 田中四郎右衛門御内用相濟、大阪方
罷歸り候段、届之
- 一 今井左右藏同断同所方罷歸り
候段、取次方届之
- 一 佐敷左工間差控不及其儀候段
被 仰出候二付、出勤之旨届之
- 一 藪鹿五郎腫物快出勤之旨
御徒目付方届之
- 一 右同人出勤二付、大槻只七家具方
助勤不及其儀候段、御徒目付方申達之
- 一 達左之通
- △依御都合表勤被
仰付置候処、以前 吉川兵可
之通與勤被 仰付候
右御徒目付方申達之
- 三月十六日 田中四郎右衛門
榎田藤兵衛
- 三月十七日 九里八郎右衛門
田中四郎右衛門
- 一 荒木藤右衛門妻今朝出産女子出生
仍之穢中引込候段、届之
- 一 右同人産穢御免二付、今朝方出勤
之旨被仰出ル
- 一 三輪五百次郎忌 御免二付、明日方
出勤之旨被 仰出ル
- 一 達左之通
- △差掛御用向有之二付
毎々乍太儀立帰、出府 松原忠左衛門
被仰付候、出立日限之儀ハ来廿六日心得二而用
意可有之候
- 右於御家老詰所生駒主水申達之
御目付出席

一 達左之通

△毎々之儀二付、差駕

被成下候、并差急御用

二付木曾路旅行被仰付候

松原忠左衛門

心得被^(カ) 仰付候

木曾路旅行可致候

右於御料理之間御目付申達之

三月廿日

田中四郎右衛門

△仍御都合御先立来ル

廿六日出立被仰付候

并木曾路旅行可致候

三宅半十郎

△嫡子兵治儀十三歳ニ罷成候二付
袖留為仕度奉願候、末略ス

一 田中友之進方へ柿芝町田中仁右衛門

妻・小兒召連罷越候二付、暫逗留為仕候旨

友之進在番中二付、九里彦輔方

届之

△依御都合

御道中定御供

吉村又吉郎

被 仰付候

右於御料理之間御目付申達候

一 達左之通

△仍御都合御先立来ル

廿六日出立被仰付候

并木曾路旅行被仰付候

右從御徒目付申達之

上月久右衛門

御聞濟

三月十九日

田中四郎右衛門

右於御料理御目付申達

一 三宅半十郎方差出候口上書之趣

御聞濟之段被 仰出

飯田半蔵・田辺御家中実家方

罷歸り候段届有之

一 上月久右衛門江明日方御番引候様

一 荒木藤右衛門産穢 御免二付、出勤之旨

届之

三月十八日

田中四郎右衛門

榎田藤兵衛

△妻儀青山下野守様御家中ニ罷在候

縁者、此節大坂江在勤仕候栗林

季十郎与申者方へ無抛用事御座

候二付、暫逗留ニ而差遣申度奉願候、末略ス

右兩人方差出候願之趣御聞濟

一 達左之通

△御供出府被 仰付

置候処、依御都合 林平兵衛

来ル廿六日出立被 本間多膳

仰付候

仕候段、届之

一 濱路惣次郎方右同断二付、阿草村

始出在仕候段、届之

一 右同人川方見分之儀、御都合二付

差延候段、届之

一 徳源寺江

御代香

生駒主水

一 三輪五百次郎忌 御免二付出勤

之旨届之

一 達左之通

△当分御蔵方

伊藤五左衛門

一 九里八郎右衛門方妻願之通明日方出坂

△為勤引御用人月番 津田孝之助

公辺之外足袋相用申度届之

為仕候段、届有之

当番相勤小役人支配 津田寛次郎

一 津田孝之助・津田寛次郎御用人神文

一 田中四郎右衛門方嫡子兵治願之通

被仰付候

一 見届相濟候旨、御目付方申上之

袖留為仕候段、届有之

△依御都合御勘定奉行 津田堅三郎

一 達左之通

一 達左之通

御取締り被 仰付候

△御供出府被 仰付置

△差控被成 津田三郎助

△依御都合御取べり被 飯田新八郎

候処、御勝手方御都合 江間平右衛門

御免候、当分為見分 名代

仰付候申談相勤可申候

之儀有之候二付、来ル九日出立被 仰付候

他行に者相見合可申候 本間多膳

△依御都合以前之通御取べり 菊池幸之丞

△兼而立歸り出府被仰付置候処 松原忠左衛門

差控被成 名代

被 仰付申談相勤可申候

不及其儀之段、付申被 仰付候

御免候 加納幸六郎

右御家老於詰所生駒主水申渡之

△兼而廿六日出立被仰付置候処 林平兵衛

右於御料里之間御目付方申達之 三月廿二日 田中四郎右衛門 榎田藤兵衛

御目付出席

依御都合廿八九日之頃出立被 三宅半十郎

一 達左之通

一 達左之通

仰付候 菊沢甚左衛門

三月廿二日 田中四郎右衛門

△御用人月番当番 田中四郎右衛門

右於御料理之間御目付申達之

榎田藤兵衛

被成下用捨候

三月廿四日 津田寛次郎

一 藤本正次郎方井中村御用山江見分

△兼而来ル廿六日出立 本間多膳

一 山室又藏家内小兒共願之通、今朝方 榎田藤兵衛

罷越候旨、届之

被 仰付置候処、差懸り

一 福知山御家中井上金五右衛門与申者方江

一 達左之通

無余儀御都合二付、追而御沙汰有之上出立延引

一 差遣候旨、永田傳左衛門方届之

△来ル廿六日出立被仰付置 上月久右衛門

被 仰付候、并当番此間迄之通り可被相勤候

一 加納銀左衛門方下冷二而難渋之節、願之通

候処、御都合二付出立比合

△当年

一 度中、足袋相用申度旨、届候

之儀追而被仰付候

圓明院様 宝壽院様 御手回 右同人

一 金子次郎助方右同断届之

右之段御徒目付方申達之

二付、格別之思召を以軍治職

一 田中四郎右衛門方両使

△悴駒藏儀今般

父子之対面被成 御赦免候

一 達左之通

圓明院様 宝壽院様 廣澤郷太

右於御料理之間御目付申達候

△兼而在番被 仰付置候処

御法事二付対面被成御免候

三月廿三日 津田孝之助 榎田藤兵衛

依御都合被成御免候、且先達而 山脇傳兵衛

右之段御徒目付方申達之

榎田藤兵衛方兼而願之通、当方中

差出候存意書之趣則遂

一 御用左之通

一 榎田藤兵衛方兼而願之通、当方中

一 差出候存意書之趣則遂

御聴候処、存念之趣尤思召候、乍併此節御勝手

方御用向も有之候二付、乍太義今暫之処其俣相

勤可申候

右於御料理之間御目付申達候

一 明廿五日八ツ時御足輕御旗御代覽

被仰出

三月廿五日 早川權兵衛

榎田藤兵衛

一 藤本正次郎昨夜井中村方引取候処

不快二付、森松太郎方届之

一 本間多膳方兄軍治儀先達而親子

対面蒙 御免候付、罷越申候間

四五日逗留為仕候段、届之

但し、當時三輪郷二住居候由也

一 今八ツ時揃二而御足輕御旗稽古

御代覽有之相濟、於御家老詰所

御旗奉行御目付江 御意有之

御家老月番生駒主水申渡之

△御旗稽古出情

若原伴蔵

前嶋嘉右衛門

中嶋市右衛門

廣澤総助

沖田藤蔵

谷口奎治

沖田奎助

柿内戸市

三貫文

中瀬元蔵

坂口平治

西田清五郎

前嶋久蔵

中嶋彥蔵

若原伴蔵

廣澤総助

中嶋市右衛門

前嶋嘉右衛門

沖田奎助

一 右於御料理之間、御旗奉行御目付

列座二而申渡、小頭加座

一 御旗稽古場所図絵并諸事取斗向

御目付二記有之

一 平野吉左衛門・長谷直右衛門讃州金毘羅方

罷帰候段、届之

三月廿六日 九里八郎右衛門

榎田藤兵衛

一 於御米蔵御扶持方渡有之候、御目付

永田傳左衛門出席

一 達左之通

△明後廿八日出立

被 仰付候

△此節御取

御勘定中御用番二付

飯田新八郎

当分之処、□□□

右於御料理之間御目付申達之

一 飯田半蔵方田辺御家中実家母内海

寛次郎方二罷在候実母病氣之処、養生

不相叶昨廿五日致死去候段申越候、依之

定式之

忌 三月廿六日方 服 三月廿六日方

五月十六日迄 来辰三月中

右之通、受之忌中引籠候段届之

一 磯野長左衛門方右同人死去いたし候段申越

候処、実母方伯母之続二付、半減之

忌 三月廿五日方 服 三月廿五日方

四月四日迄 五月十日迄

右之通受之忌中引込罷在候段

届有之

三月廿七日 田辺與左衛門

榎田藤兵衛

一 松好三平稲田村江川方為見分

今日方罷越候旨、届之

一 今夕認め二而、江戸表江六日限御用便

差出ス

一 於御米蔵御扶持方渡有之

一 林平兵衛・江間平右衛門明朝方出立

之旨届之

一 三宅半十郎方明日出立之旨、届之

一 菊沢甚左衛門方右同断之旨、届之

一 榎田藤兵衛方伺書差出左之通

伺覚

△山家御家中播州小野御家中

同州三草御陣屋等二罷在候砲術

門入別義、名前之面々□□

折々罷越候節、御定通五日逗留

二而者、稽古之間合茂無御座候二付、暫

逗留為仕候而茂不苦儀二御座候哉

此段奉伺候

右於御家老詰所生駒主水差出候

別紙左之通

河合

請之所 御出野二付、於御家老詰所

生駒主水謁之

一 飯田半蔵忌 御免二付、出勤之旨届之

一 榎田藤兵衛方伺書之趣御聞濟之旨

被 仰出、則其旨使江申達之

一 達左之通

△御參府之節 □□□□□□

御供出府在番被 仰付候、為勤馴当分

御賞并御主方被 仰付候

右御徒目付方申達之

一 殿様五ツ時香即方御帰り

三月廿九日 津田寛次郎 榎田藤兵衛

一 德源寺江

御代香 生駒直規相勤

一 田中半兵衛方兼而願之通、当夏中二

公辺之下冷節、足袋相用候段

届之

一 小松山八十治妻男子出産いたし候

依之穢中引込候段、届之

三月晦日 早川権兵衛 榎田藤兵衛

一 德源寺江

御代香 生駒主水

一 勝川次郎太夫方両使生駒多膳

相勤

山村佐之右衛門ヲ以口上書差出左之通

杉原佐五兵衛儀奉願、城州八幡江參詣并

京都同家杉原昨十郎与申者方へ參居

候処、不快二付今五日之御暇奉願具候様

申越候旨、私方奉願候、末略ス

一 御徒目付方言上書差出ス

一 勝川次郎太夫方差出候願書之趣御聞

濟被仰出、則使江其旨申達之

一 鹿毛馬老疋とち栗毛老疋但約式疋

御家中諸士稽古として被成下候間

一 惣躰申談伺候様、被 仰出

八ツ時御用左之通

△其方儀常々心得方 中嶋熊次

不宜依之急度御取斗

方と一者之所、格別之 名代

御慈悲ヲ以親 正年江被 田口猪之助

差戻候

右御徒士頭於荻野序太郎宅、同人

申渡之、取次出産

一 榎田藤兵衛方へ兼而伺置候砲術門人

小野御家中三草御陣屋方暫之

逗留為仕候旨、届之

四月朔日 津田孝之助

一 榎田藤兵衛方荻野流砲術火失并 九里八郎右衛門

御醫師迄於 御居間御礼可被持

昼夜相凶山ヶ鼻於天神下令御打払

榎田藤兵衛

御目付出席

候旨、届之

一 德雲院様御祥月二付、五ツ時御供揃二而

一 達左之通

一 松原右左衛門種物氣二付引込候談

四ツ時御礼拝之事

△兼而御供出府

届之

一 達左之通

在番被仰付置候処

磯野長左衛門

一 当日為御祝儀御給人已上四ツ時

△御道中定御供

此度者格別御省略

萩野席太郎

出仕於 御書院御礼被為受

被仰付置候処、不及

二付、御都合依而被成御用捨候

一 津田善之進伺之通、今日方要人与

其儀旨被 仰付候 吉村又吉郎

△依御都合已前之通

本間多膳

改名致候段、届之

右於御料理之間御目付申達之

御供被仰付候

一 御用左之通

一 御隠居様

右於御料理之間御目付方申達候

当御参府之節 山脇丞之進

御代香 生駒多膳

一 杉原左五兵衛城州八幡方罷帰候旨届之

御供在番被仰付候

一 榎田藤兵衛方砲術門人兼而参居候処

一 江戸表方去月廿四日出之月次御使

右於御組頭詰所田中半兵衛申渡之

今朝罷帰り候段、届之

出来

御目付出席

一 昨日相触候通、惣出仕内御役人以上於御家老

一 達左之通

一 小松山八十治産穢御免二付、出勤

詰所 御直番写拝聴、表御役人・御給人

△江戸表方引筋も

之旨御徒目付方届之

御中小姓之面々於御使者之間拝聴、何茂

有之候、糺申慎被

一 德源寺江 御代香 生駒直規相助 津田孝之助

御目付当番読之

仰付置候処、御取調 西田清兵衛

四月二日 田辺與左衛門

一 大井小膳方両使大井亦兵衛・永田

一 小役人以下於例席写拝聴御祐筆読之

相濟候二付、慎不及

傳左衛門ヲ以口上書差出左之通

候段、届之

被 仰付候

△福知山御家中ニ罷在候縁者池内持兵衛

津田孝之助

△兼而御供在番被

与申者方へ無抛用事御座候二付、罷越

津田寛次郎

仰付置候処、此度

用弁仕度依之往来九日之御暇奉願候

一 御用左之通

格別御省略□□□

松本此右衛門

末略ス

△依御都合御供立帰り

右御徒目付申達之

一 右同人口上書之趣御聞濟則其旨

出府御道中惣人 榎田藤兵衛

四月五日 津田孝之助

使江申達之

京都・尾州御使者被 仰付候

早川権兵衛

四月三日 津田孝之助

右於御家老詰所生駒主水申渡之

一 小久江平五郎方両使善積平左衛門

小松山八十治ヲ以願書差出左之通

四月七日

津田孝之助

四ツ時御仏参有之

奉願口上覚

田辺與左衛門

達左之通

△笹川幾次郎妹貫請、妻仕度

小森嵩左衛門方西條流抱捧火失

△御道中御給人御供

奉願候、未略ス

於茶臼山打払□□□□

被 仰付候、乘駕老挺 津田忠次郎

一 西田清兵衛慎不及其儀被

一 津田寛次郎昨夜縁女引取

被成下候

仰出候二付、出勤仕候段届之

婚姻相整候旨、届有之

右於御組頭詰所申達之

一 達左之通

一 明日方西之坊牛市中、上田孫六拜借仕度

△御道中御給人御供 津田要人

△裏引門勤番 西田清兵衛

一 相願候付、引越候様御徒目付方申達之

被 仰付候

被 仰付候

一 上田孫六今日方牛市中引越候旨、御徒目付方届之

右於御料理之間御目付申達之

右御徒目付方申達之

届之

△奥女中出立之節

一 上田多左衛門持病の頭痛ニ而引込

一 德源寺江

道中附添被 仰付候 加納幸六郎

候旨、届有之

御代香

生駒直規相勤

一 津田寛次郎方兼而願之通、縁女

一 御隠居様江

一 殿様廿二日 御発駕被 仰出、則御供之

明日引取候旨、届之

御代香

津田忠次郎

一 達左之通

一 小久江平吾方差出候願書之趣 御聞濟

△当分懸屋方被仰付

写是迄

四月八日

津田孝之助

小役人以下江者御徒目付方相触ル

御勘定向之義ハ山村

慎田藤兵衛

佐之右衛門方受取可申 濱路惣右衛門

一 霧田恂悦胸痛ニ而引籠候旨、届候

外勤向是迄之通

一 生駒主水風邪氣ニ付、長髮御断

右於御料理之間御目付申達候

之旨届有之

御免御差掛り出府被

四月六日 津田孝之助

四月九日

津田孝之助

仰付候儀も可有之、兼而心得可申候

九里八郎右衛門

津田寛次郎

右御徒目付方申達之

一 德源寺江

御奏者

一 笹川泰次郎掛屋方兼帯被

一 達左之通

御代香

片岡助左衛門

仰付候旨、取次方届之

△御留守中御納戸 岡田音也

一 玉英院様 御霊前江

四月十日

津田孝之助

被 仰付候

御代香 同 片岡助左衛門

慎田藤兵衛

右於御料理之間御目付方申達之

- 一 御用左之通
 △御參府之節 上田孫六
 御供在番被 仰付候
 右於御料理之間御目付方申渡ス
 御徒目付加座
 一 達左之通
 △急ニ出府在番被
 仰付候ニ付、為御心附 右同人
 米五斗被成下候
 右御徒目付申達之
 △御道中御祐筆方
 御徒目付兼勤被 仰付候 右同人
 右御徒目付方申達之
 一 大井小膳福知山方罷帰り候段、屈之
 四月十一日 津田孝之助
 九里八郎右衛門
 一 八ツ時御用左之通
 其方儀去ル二日町家 池畑祐次郎
 おゐて不行跡之儀 名代
 有之趣畢竟被 村田■之丞
 仰出茂不相守如何之心得ニ候哉、他向■有之■
 上之 御名柄ニも相抱不埒之至候、依之五石
 式人扶持席廣澤郷太次被 仰付候御沙汰
 有之迄、相慎居可申候
 右月番津田孝之助於宅申渡之
 御目付出席、御徒目付加座
- △右同断ニ付、久左五兵衛江 杉原甚三郎
 被差戻候 名代
 長谷孫助
 右御用人詰所月番申渡之、御目付
 出席御徒目付加座
 一 達左之通
 △右何茂御糺之儀有之 中井弥惣太
 候旨、御沙汰有之迄相慎居 名代
 可申候 森田勘助
 吉池平八郎
 名代
 大槻只七
 足立五郎助
 右御徒目付申達之
 一 足立五郎太夫方名代今井左右藏
 松好三平方名代松井猪之太郎
 脇田猶左衛門方名代右同人ヲ以
 足立五郎助江被仰出候趣奉恐入候
 依之差控相伺候処、五郎太夫御聞
 置外兩人差控不及其儀候段、被 仰出
 一 前川孫太郎名代長谷孫助
 須左見永作名代大槻只七ヲ以
 池畑祐次郎江被仰出候趣奉恐入候
 依之差控相伺候処、被御聞置、永作
- 其儀ニ不及旨被 仰出候
 友田寅之助名代前嶋宗治・濱路
 惣次郎名代横田甚九郎ヲ以
 吉池平八郎江被 仰出之趣奉恐入候
 依之差控相伺候処、兩人共不及其
 儀候旨、被仰出候
 一 松好三平・脇田猶左衛門・須佐見
 永作・友田寅之助・濱路惣次郎
 差控不及其儀候旨、被 仰出候ニ付、則
 出勤之旨届之
 生駒直親方一使永田傳左衛門ヲ以
 口上書差出左之通
 母并弟兩人出石御家中縁者仙石
 内藏介方江罷在候、祖母儀病氣ニ付、欠之
 差越呉候様申越候、依之暫之逗留ニ而差遣
 申度奉願候、末略ス
 一 右同人方差出候口上書之趣
 御聞濟之旨被 仰出、其旨申達ス
 一 右同人方願之通母并弟兩人
 明朝方出石御家中差遣候旨
 届之
 一 達左之通
 △星合孝藏義兼而 榎田藤兵衛
 被 仰出茂有之候様
 去ル二日於町家不行跡之者共有之趣相聞
 畢竟被 仰出候儀ヲ茂不相守、如何之

心得二候哉、殊二他向之面々も同道有之

趣第一 上之御名柄二茂相抱不埒

之至候、依之急度為相慎置可申候

右於御料理之間御目付申達之

一 榎田藤兵衛名代田中四郎右衛門ヲ以

弟倅藏江被仰出候趣奉恐入候、右二付

差控相伺候処、不及其儀旨被 仰出候

二付、則出勤之旨届之

一 御用左之通

△悴甚三郎儀兼而 杉原左五兵衛

被 仰出茂有之処 名代

於町家不行跡之 佐敷孫兵衛

事共有之趣相聞、畢竟被 仰出も不相守

如何之心得二候哉、殊二他向之□儀□

第一 上之御名(□□:□□)

依之其方へ被差戻候

右於御組頭詰所田中半兵衛

申渡之、御目付出席

一 杉原左五兵衛名代佐敷孫兵衛ヲ以

被 仰出之趣奉恐入候、右二付差控

相伺候処、御聞置候旨被仰出候

一 吉池平太夫方名代善積平左衛門ヲ以

悴平八郎へ被 仰出之趣奉恐入候、依而

差控相伺候処、不及其儀旨被仰出候

一 前川与次兵衛方名代吉村又吉郎

ヲ以池畑祐次郎へ被 仰渡之趣奉

恐入候、依而差控相伺候処、不及其義旨

被 仰出候

一 吉池平太夫・前川与次兵衛差控

不及其義候二付、則出勤之旨届之

四月十二日 津田孝之助

田辺与左衛門

一 江戸表江今夕認二而月次御使

被差立

一 前川孫太郎差控不及其義

旨被 仰出、則出勤之旨御徒目付方

届之

一 松原唯之助風邪氣二付、長髪

御断之旨届之

一 生駒直規方へ出石御家中方

参居候客今朝罷帰候旨、届之

一 御役人以上肩衣勤被 仰出居候処

此度格別之御省略二付、御年限中ハ

肩衣勤被成 御用捨候、右二付而者廉服

勝手次第着用候而も不苦事

一 達左之通

△兼而在番被 仰付居候所

御都合二付、立帰リ之心得二而 上田孫六

出府可致候段、被 仰出候

右御徒目付方申達ス

一 御用左之通

△此度御取調之上

改而領知之文字被 三宅半十郎

書加被差渡候 名代

飯田新八郎

右於御家老詰所生駒主水申渡ス

御目付出席

一 御代替二付、知行之面々江

御判物被成下候二付

一 今度日光 御社参二付、被 仰出

左之通

△此度日光 御社参二付、今十二日方来ル

廿四日迄御家中之面々殺生・遊山

他行等相慎可申候

但シ

無拠儀者其訳相届承届之上

可被罷出候

右之通、御家中末々迄不洩様

可被相達候、以上

卯月十二日 御家老

一 火元猶更可被心得候

右之通、御書付被 差出候二付、則御中小姓

以上江以廻状御目付方相触候、小役人以下

御徒目付方相触ル

徳源寺江火元之儀同断申達之

一 日光御社等二付廻り番有之

来ル十六日方 御給人

廿八日迄

供 ■ 堂

道具
草り取

明十三日方

来ル廿四日迄

小頭

一 杉原左五兵衛差控不及其儀旨 被

仰出、則名代江其旨御目付方

申達ス、即刻出勤之旨届之

一 前川孫太郎差控不及其儀旨 被

仰出、即刻出勤之旨届之

四月十三日 津田孝之助

榎田藤兵衛

一 昨日被 仰出候通、御判物御用掛り

之御家老中初六ツ半時出仕

其外頂戴之諸士五ツ時揃之上於

御居間生駒主水江知行之御判物

御手自被成下、御奏者披露御家老代

田中半兵衛御取合右相濟、御書院江

出御

御組頭耆人ツ、罷出、頂戴之

御物頭方御給人迄四・五人ツ、罷出耆人ツ、

頂戴之

一 昨日被仰出候田中四郎右衛門嫡子令治

浅井次郎左衛門嫡子鐵之丞初而

御目見申上ル

一 大嶋立敬妻今晝女子出生、依之穢中

引込候段届之

一 右同人産穢御免ニ付、出勤仕候段御座候

只今方

一 大井小膳妻於福知山御家中縁者

方江昨日出産女子出生依之穢中引込

候旨、届之

一 松井猪久太郎方御徒目付吉池平太夫ヲ以

口上書差出左之通

△妻儀并弟妹都合之儀御産ニ付

在番中足立五郎太夫方江同居

為仕度奉願候、末略ス

四月十四日 津田孝之助

九里八郎右衛門

一 達左之通

△表納戸被仰付候 平野吉左衛門

御賄頭是迄之通

△懸屋方被成御用捨候 濱路惣右衛門

右於御料理之間御目付申達ス

一 丸山甚之助方御徒目付善積半左衛門ヲ以

口上書差出左之通

△妻儀都合之儀御座候ニ付、在番中

笹山御家中里許深津銀吾と

申者方預置申度奉願候、末略ス

一 達左之通

明日

御社参ニ付御徒目付 長谷順治

被仰付候

右御徒目付申達ス

一 松井猪之太郎方差出候口上之趣御聞濟

之旨被仰出、則申達ス

一 江府表去ル六日出御用便到来

四月十五日 津田孝之助

一 四ツ時両社并白雲山天満宮江

被遊 御参詣 但 御召

御長上下

予参

御家老

生駒直規

御奏者 津田要人

寺社奉行 庄作左衛門

御目付 横山庄兵衛

御半掛番 林新之助

御手水 田辺格之進

神納御徒目付持参

一 白雲山江予参御奏者以下

両社相勤候仁罷越事

尤御家老予参無之

一 為当日御祝儀御帰館直ニ

御書院江着、御給人以上

御礼被為請之、畢而於

御居間詰合之御役人以上

御給人之意医師迄

御社参濟、御歛三四人ツ、罷出

申上之披露御奏者御取合

御家老

一 九里八郎右衛門方妻儀大坂表縁者

方方罷歸り候旨、届有之

一 達左之通

△御用向有之明十六日方

前川与次兵衛

出京被 仰付御用向

委細之義ハ御勤方ニ而承り可申候、并

道具持両掛被成下候

右於御料理之間御目付方申達之

一 前川与次兵衛明朝方出京仕候旨、届之

四月十六日

津田寛次郎

由辺金左衛門

九里八郎右衛門

一 来ル廿二日御発駕ニ付、御供之

御中小姓以上明十七日御番引

一 来ル廿二日後発駕ニ付当分

御番割被 仰出、御料理之間ニ

一 覧候様申達ス

一 磯野長左衛門方一使御目付永田傳左衛門を以

口上書差出ス、左之通

△原長悦方妻都合之儀御座候ニ付、在番中

預具候様申聞候間、任其意預置申度奉願候

末略ス

一 原 長悦方一使永田傳左衛門を以

口上書差出ス、左之通

△妻儀都合之儀御座候ニ付、在番中磯野長左衛

門方江預置申度奉願候、末略ス

一 右兩人共願之通 御免之旨被仰出

一 丸山理右衛門今八ツ時地処渡し有之、御目付

見合番永田傳左衛門出席

四月十七日

津田寛次郎

田辺與左衛門

一 当分御番割被差出

一 昨十八日五ツ半時御供揃ニ而、四ツ时被遊

御仏參、例之通御目付方諸向江達有之

一 佐敷孫兵衛外様勤番見習之儀日数も

相立候付、当人為致度之旨周勤方伺出候ニ付

則窺候処、勝手次第之旨被 仰出

一 達左之通

△昨十八日御仏參御供

御人支ニ付御給人御供 大野東馬

被 仰付候

右於御料理之間、御目付方申達候

四月十八日

津田孝之助

一 四ツ时被遊

津田寛次郎

一 御家老中方御書付壹通并音信■節

衣服等之被仰出之御帳面被差出候ニ付、依而

御目付方御中小姓以上江以廻状相触、小役人

已下江御徒目付方同断触之

一 桧倉村高源寺使僧を以

御発駕⁽²⁾ニ付、御歎御暇乞旁御茶壹袋

差上候由社方承之

一 三宅半十郎方妻・小児願之通、明朝より

篠山御家中里許江相預候旨半十郎

在番中ニ付、飯田新八郎方届之

一 御用左之通

△御道中方并尾州様江之 水野鬼毛

御使者被 仰付候

右於御家老詰所生駒主水申渡之

御目付出席

一 大井小膳産穢御免ニ付、只今出勤

仕候旨届之

四月十九日

津田寛次郎

早川權兵衛

一 靄田恂悦不快候、出勤旨届之

一 平井嘉作右同断出勤旨届之

一 岡田音也御納戸神文見届相濟

一 廣澤寅之助・足立源之助・沖田米吉

無滞相勤候ニ付、為御■米老石ツ、

被差渡候段、御徒目付方申達ス

一 丸山甚之助方差出候口上書之趣

御聞濟之旨申達ス

一 久下林助娘西田清兵衛方へ差出度

奉願候通、御赦免被成下候処、故障

之儀出来仕候ニ付、双方申談之上、破談

仕候段、届之

一 西田清兵衛方右同断届之

四月廿日 津田寛次郎

九里八郎右衛門

一 日光御社参二付、来ル廿四日迄他行等

相慎候様被仰出候処、御発駕二付、明

後廿二日方諸事御平日之通相心得候様

被仰出、其旨諸向へ申達之、小役人以下江者

御徒目付方申達ス

四月廿一日 津田寛次郎

田辺與左衛門

一 御留守中御番割被差出

一 松本剛藏方差出候変名何之義、勝手

次第之旨被仰出

一 右同人変名今日方剛吉与相改候旨届之

一 池畑祐次郎慎御免二付、出勤候様被仰出

一 右同人差控御免二付、出勤之旨届之

一 御発駕之節、御目見場所御書付

壹通被差出候間、於御料理之間拜見

候様、諸席江御目付方及席達

△但し、御組頭江者 御目見場所御書付持參為致

老覽候事

一 昨日相触候通、御中小性以上四ツ時出仕、内

御役人以上於 御居間 御発駕御歎

窺 御機嫌申上之、披露御奏者

△引続御道中総締り被仰付、御用人

榎田藤兵衛初御役人・御給人^{御目付方}之御道中方

之面々席分ニ罷出申上之、披露御奏者

御取合御家老

一 表御役人・御給人・御中小性之面々於

御使者之間右同断申上之、御家老

御組頭謁之

一 御道中御定書御番割御供之面々

末々迄於御使者之間、拜聴之御家老

御組頭・御目付出席御用所書役説之

但し

御供之御家老中其之節ハ右御家老罷出候二付

御組頭不及出席

一 明朝七ツ時 御供揃ニ而、六ツ時被遊

御発駕候段被 仰出候旨、御道中方之

御目付方席々江及口達、御徒目付江も

申達之

△今夕七ツ時打候ハ御家中方触為致候旨、御徒

目付申達之

一 明日 御発駕二付、為御歎直ニ出仕候様

御中小性以上江及席達、小役人已下江者

御徒目付方相達候様、申達之

一 徳源寺御歎為御暇乞御出仕有之

候処、当時不快二付御出仕無之、使僧ヲ以

御歎御暇乞申上候由御取次方承之

一 初而之御発駕二付、於御居間御家老中

一 津田忠次郎・津田要人・吉村又吉郎

山根直之進方御道中御供方見習之儀

申込、則勝手次第之旨被仰出、則其旨

申達之

一 御留守中御番割被差出候事

一 御留守中泊り番被 仰付候御役人江

鍵御預之段、御目付方申達之

一 津田要人方一使 口上書差出ス

左之通

△叔母兩人笹山御家中罷在候縁者佐治

敬馬与申方江無抛用向罷在候二付、暫之逗

留ニ而差遣申度奉願候、末略ス

一 右同人方差出候口上書之趣御聞濟之旨

被 仰出候、則其旨御目付方申達之

一 前川與次兵衛京都方罷帰候段、届之

一 御勤方認ニ而明朝方御発駕御注進使出ス

一 山根傳兵衛方御用二付、明日方出京之旨

届之

一 松本剛藏方願出候変名之儀、勝手次第

之旨被 仰出、則御徒目付申達之

一 右同人剛吉与改名之段、御徒目付方届之

一 池畑祐次郎慎御免二付、出勤之旨届之

四月廿二日 津田孝之助

一 今曉七ツ時御目覚御仕廻被為濟、於

奥御居間御祝御膳被召上、御供揃之上

表江 出御於 御居間御家老中御暇

岡田音也

御用左之通

乞被申上、御手方御熨斗被成下

右於御料理之間御目付申達之

△其方儀心得違之事共

平山源右衛門

右相濟御家老中始何茂御目見場所江

一 三輪五百次郎方御取次勤番見習之儀

有之候二付急度御沙汰も

名代 □□□□

被出事

申込有之、乍勤見習候様被仰出候

可有之所□□□□□□

名代 □□□□

一 御発駕直二内御役人以上於御家老

則其旨御目付方申達之

思召ヲ以無其儀以後急度相心得、心得違無之様

詰所 両殿様御歎申上之

一 去秋方不寝番被 仰付候所、今晚方

可相慎候

△表御役人・御給人・御中小性之面々於

相退候旨被 仰出、則御物頭江申達之

右於御家老月番宅生駒主水

御使者之間右同断申上之、支配之謁之

四月廿四日 津田寛次郎

申渡之、御組頭・御用人・御目付出席

但御歎として御家老中宅江何も廻勤之事

早川権兵衛

一 小松原郡太方松井猪太郎方兼而

△内御役人以上銘々於詰所 御跡富二付

一 達左之通

鎗術 九里八郎右衛門

奉願置候通、家内之者共今日方足立

御酒頂戴之、何茂御礼御目付迄申

△去秋諸芸

上覧被 仰出居候処

五郎太夫方江為引移申候、猪工太郎

上之

上二も御用多二而

弓 大井小膳

御用左之通

一 御発駕後、織田権現藤之森稻荷嘉多

不被遊 御覽当秋

鎗術 菊沢文左衛門

△兼而被 仰出茂有之通 中井弥惣太

拝権現 御代参御目付相勤ル

被 仰付候旨師範之

鉦術 加納銀左衛門

町家二而酒杯相用候儀者 名代

一 徳源寺方以使僧御発駕御歎御取次迄

面々申達并諸覽

以来月々稽古■割

敵敷御沙汰茂有之処 森田勘助

申置候旨、御目付承之

帳差出候様尤月々江戸

心得違之事共有之趣殊二 足立五郎助

一 御発駕二付、御注進便被差出候

表江差出候旨被 仰出候旨申達之

其節他向之衆中同道之 名代

一 達左之通

右於御料理之間御目付方申達之

由如何之心得二候哉、不埒之 須左見永作

△以前之通、御用所子供勤 池畑祐次郎

一 加納幸六郎奥附之者明朝方出立仕候旨

至二候、依之急度御沙汰茂

被 仰付候

一 沖田藤藏方同断二而出立之事

可有之候処、此度者格別之

四月廿三日

津田寛次郎

届之

御憐愍以無其儀以後急度

九里八郎右衛門

一 津田三郎助方差出候口上書之趣御聞

相談心得可申候

一 達左之通

一 濟之旨被 仰出、則使江御目付方申

△先達而於町家心得

△以前之通、御勤方勤 金子次郎助

一 達之

違之儀有之由其上 名代 吉池平八郎

被 仰付候

一 常々心得方不宜候二付 □□□□

△素読教受方被仰付候 三輪五百次郎

達之

常々心得方不宜候二付 □□□□

御糺茂有之、急度被仰付方も可有之候処、格別之御憐愍を以森良介次席被仰付候、他向馬術稽古遠慮可致候

右於御用人月番宅津田寛次郎申渡之、御目付

御徒目付加座

一 達左之通

△恠平八郎儀平生心得方身持等 吉池平太夫

不宜不埒之事候、依之御咎メ被

仰付候、右二付而ハ畢竟平生教示等不行届之様相

聞如何之心得二候哉、急度御沙汰も可有之候処此

度ハ無其儀候得共、以後急度申付心得違等無之様

取メ可申候

右於御料理之間御目付申達之

一 平山源右衛門方名代早川権兵衛ヲ以被仰渡之趣

奉恐入候、依之差控相窺候処、御聞置之旨被仰出

一 吉池平太夫方名代善積平左衛門を以被 仰出并恠

平八郎江被 仰渡之趣奉恐入候、依之差控相伺候

処、御聞置之旨、被 仰出

一 前川與次兵衛方名代 吉池平八郎江被仰出

之趣奉恐入、依之差控相伺候処、不及其儀之旨

被 仰出

一 中井弥惣太方名代森田勘助・吉池平八郎方名代

大槻只七・足立五郎助方名代須佐見永作を以

被仰渡之趣奉恐入候、依之差控相伺候処、何茂

御聞置之旨被 仰出

一 松好三平・脇田猶左衛門方名代小松原郡太を以

足立五郎助江被 仰渡之趣奉恐入候、友田衆之助

方名代前じま宗治・池畑祐次郎方名代大槻只七・

前川孫太郎方名代須佐見永作を以吉池平八郎江被

仰渡候趣奉恐入候、依之差控相伺候処、不及其儀

之旨被仰出、何茂即刻出勤之旨御徒目付方届之

濱路惣次郎方名代小久江平吾を以吉池平八郎江

被 仰渡之趣奉恐入候、依之差控相伺候処不及其

儀之旨被 仰出

一 足立五郎太夫方名代笹川泰次郎を以恠五郎助江

被 仰渡之趣奉恐入候、依之差控相伺候処不及其

儀之旨被 仰出、即刻出勤之旨、届之

一 濱路惣次郎御油川方罷帰候旨御徒目付届之

一 竹河権六方川方為普請從明朝東芦田村江越

候旨、届之

一 前川与次兵衛差控不及其儀旨被 仰出、出勤之旨

届之

一 山名鞆負様今晚当町御止宿二付、札処詰

其外出役之面々昨日達置通り罷出ル、御使者来ル

△御使者 池田規一郎

△時後御見舞御使被差出候御挨拶并所□□□

被差出候、御挨拶御口上申達候由

四月廿五日

津田寛次郎

田辺与左衛門

一 須佐見永作方犬岡村川方為普請今昼後方

出役出仕候段、届候

一 前嶋宗治方差出候願書之趣御聞濟之旨被

仰出、御徒目付方申達候

一 今晚御本除前下町清右衛門与申者之木小屋方

出火候処、早速鎮火

一 山名鞆負様御止宿二付、及御見舞、御使者

御家老中方被 仰付相勤候段、町御奉行庄

作左衛門方承候、出火御口上有之事

一 女中兩人今朝致出立候段、奥御用人方承之

一 津田堅三郎・岡田音也・大嶋立敬方兩使

願書差出ス、左之通

一 右何連茂御聞濟之旨被 仰出

一 吉池平太夫差控不及其儀候旨被 仰出

一 右同人差控不及其儀候旨被 仰出候二付、出勤

之旨、届之

一 津田三郎助願之通、妻・小兒明朝方大坂江差遣

候段、届之

一 御給人水之手番并廻り之節、足輕若堂并

平常下給之儀、是迄御定有之候得共、不分明

二付、改而左之通被 仰出、則御物頭江申達之

△水ノ手廻り之節、若堂

知行以上迄有之

△十人扶持之御給人以上

△知行之嫡子

但御中小姓席二而も御差支二而相勤候節

右

御給人格以上相下給不相成、併御給扶之

御給人格者双方謙退之祝儀可有之節

但知行之嫡子并十人扶持之御給人格者
急度相下給不相成候事

四月廿六日 津田孝之助

一 於御米藏御扶持方渡有之御目付出席

一 津田堅三郎・岡田音也・大嶋立敬願之通、明日

方河守江參詣仕候旨、届之

一 野口彦六方兼而奉願候通、明日方妹義福知山江

差遣候旨、御徒目付方届之

一 前嶋宗治方兼而願之通、明日方文珠江候參詣

仕候段、届之

四月廿七日 寛次郎

早川権兵衛

一 於御米藏御扶持方有之、御目付出席

一 達左之通

△兼而自分他行等

相慎候様御沙汰有之 津田三郎助

候処、最早不及其儀

旨被仰付候

右御目付方申達候

一 須佐見永作在方方罷歸り候段、届之

四月廿八日 津田寛次郎

九里八郎右衛門

一 竹河権六在方方罷歸り候段、届之

四月廿九日 津田寛次郎

田辺与左衛門

一 德源寺江御代香

一 御隠居様御代香

一 山脇傳兵衛御内用相濟、京都方罷歸り旨届之

一 中井弥惣太・足立五郎助差控 御免二付、出勤之

旨御徒目付方届之

五月朔日

德源寺江

御代香

五月二日

達左之通

△依御都合、御郡町

寺社奉行当分被 仰付候

右於御料理之間御目付申達之

一 平山源右衛門差控不及其儀候旨被

仰出、則其旨御目付方名代江申

達之

一 右同人差控不及其儀候二付、出勤之旨

届之

一 吉池平八郎差控不及其儀候二付

出勤之旨御徒目付へ届之

達左之通

△裏御門勤番被

仰付候

右御徒目付方申達之

一 大嶋立敬方河守方罷歸り候旨

届之

一 江州守山驛方御飛脚罷歸ル

一 前嶋宗治罷歸り候旨、御徒目付へ届之

五月三日

德源寺江

御代香

達左之通

△当分依御都合御勘所 小林叶

下役被 仰付候 名代

右於御用人詰所月番申渡ス 米内利兵衛

御目付出席、御徒目付加座

一 津田堅三郎・岡田音也河守方

被歸候旨届之

五月四日

田辺與左衛門

早川権兵衛

一 小林叶御勘定所下役神文

見届相濟候段御徒目付方届之

五月五日

津田孝之助

端午為御祝儀五ツ時惣出仕、内御

役人以上於御家老詰所

両殿様江申上ル、御家老月番

生駒主水謁之

一 表御役人・御給人・御中小姓之面々

於御使者之間、御家老・御組頭

謁之

一 小役人之面々於御使者之間御

用人・御徒士頭謁之

一 御家老中方被 仰出左之通

△小嶋四郎兵衛御扶持被成下候後裏■

二而呼出候儀無之、殊更 御發駕前被

仰出置候儀も有之二付、旁以近々呼寄講釈

為致候間、一統無懈怠出席有之候様致度候

并小兒之面於 御殿ハ兼々被 仰付置候所何も

出精有之由、猶更行跡等之儀懸り宿中方

種々被相達候得共、宿元心入所行等者勿論、於

道中馳走等無之候様、物■も行規正しく有之

様之儀、■々々教示等加被差出可被申候

右之趣諸向江及席達小役人

以下御徒目付方相達候様申達之

御家中末々迄次男・三男迄承度

仁ハ不苦旨及席達

五月六日 津田寛次郎 早川権兵衛

一 德源寺江

御代香 生駒主水相勤

一 郷同心役名以来相止候旨、御家老

中方承之

一 郷同心君原伴蔵・小山平内・村岡

文作・上田兵六御都合二付、郷同心相止

候間、町同心被 仰付候、着座之儀者

足輕上座取扱、向ハ足輕同様申附

候様、御郡奉行方承之

一 郷同心・町同心持給之外別段為御

心附五斗被 差渡来候所、以来

相止事

一 塩久清八御都合二付、町同心御免

勤役中無滞相勤五斗加給

都合三石五斗被差渡、定番勤

申付候、御郡奉行江口内有之

以来御目付手先之者二相成候二付

引渡之

五月七日 津田孝之助 早川権兵衛

五月八日 田辺與左衛門 早川権兵衛

九日分也 山村善平治ヲ以

一 辻泰蔵方一使口上書差出ス

△当郡本郷村井上惣三郎様御領分へ

罷在候有田小右衛門与申者、右娘賞請

後妻二仕度奉願候、末略ス

五月九日 津田孝之助 早川権兵衛

一 御用左之通

△依御都合当分

御勤方勤被仰付候

片岡助左衛門

御□□者是迄之通り

一 右於御家老詰所生駒主水申渡ス

御目付出席

一 達左之通

御目代勤被成 片岡助右衛門

御用捨候

右於御料理之間御目付申達之

五月十日 津田寛次郎 早川権兵衛

一 德源寺江御代香 生駒主水相勤

一 右同寺江

御隠居様御代香 津田堅三郎

一 山室又蔵家内并少女福知山御家中

縁者方江参居候処、用弁相濟罷帰候段

永田傳左衛門方届之

五月十一日 九里八郎右衛門 早川権兵衛

一 從江戸表去月廿六日出之月次御使到来

一 兼而被仰出候通鹿毛ト千栗毛馬二疋共

一 稽古相望候面々江被成下候旨申達之

一 御馬役江茂右之趣相心得居候様申達ス

五月十二日 田辺與左衛門 早川権兵衛

五月十三日 久里八郎右衛門 早川権兵衛

写是迄

一 達左之通

一 達左之通

△依御都合御用所書役

御免家具方被仰付候

菅屋竹次郎

右於御用人詰所月番申達之、御目付

出席、御徒目付加座

△家具方勤番被成

御免候

吉村由兵衛

右御徒目付方申達之

△依御都合書役御免

有之

□□

□□□□

右於御料理之間御目付渡之

御徒目付加座

一 吉村由兵衛家方御免、小頭是迄之通

助勤被仰付

一 生駒直規方母并弟兩人兼而出石

御家中縁者方江参居候処、只今

罷歸候旨届之

五月十四日

津田寛次郎

早川権兵衛

一 御小人頭方欲待之儀相伺候候処、勝手

次第之旨届之

永田傳左衛門方一使

五月十五日

九里八郎右衛門

早川権兵衛

一 佐敷孫兵衛妻兼而病氣之処、養生

不相叶、今曉寅ノ下刻死去仕候、依之

定式之

忌 五月十五日方

服 五月十五日方

六月四日迄

八月十六日迄

右之通受之忌中引込罷在候旨届之

一 濱路惣右衛門方佐敷孫兵衛妻兼而病氣

之処、養生不相叶、今曉寅ノ下刻死去

仕候、右者従弟之続ニ付定式之

忌 五月十五日方

服 五月十五日方

同 十七日迄

同 廿一日迄

右之通受之忌中引籠罷在候旨届之

一 佐敷佐工間方母死去ニ付、定式之

忌 五月十五日方

服 五月十五日方

七月五日迄

来辰五月中

一 村田喜内方佐敷孫兵衛妻死去ニ付

右者母方叔母之続ニ候処、他家相

続ニ付半減之

忌 五月十五日方

服 五月十五日方

上

一 猪川六之進方佐敷孫兵衛妻死去

ニ付、右者母方之続ニ付定式之

忌 五月十五日方

服 五月十五日方

同月 廿四日迄

六月十四日迄

右何茂受之忌中引籠候段

御徒目付方届之

一 丸山甚之助妻兼而願之通、明朝方笹山

里元江差遣候旨、右同人在番中ニ付

吉村由兵衛方届之

一 今夕認ニ而月並御便被差立

一 永田傳左衛門方差出候口上書之趣御

聞濟被仰出、則其旨使江御目付方

申達之

一 公儀方御触書三通被差出候ニ付

一 覽候様諸向江申達ス、小役人以下江者

御徒目付方申達之

△但引戸駕并無宿人道中割増触也

一 津田要人叔母兩人兼而願之通

笹山御家中明朝方差遣申度旨

同人在番中ニ付、津田要人方届之

一 兼而御沙汰之通、佐治町小嶋四郎兵衛

参着之由、并經書講釈被仰付候旨

御郡奉行方承之

一 右ニ付、明十六日方於御殿經書講釈

相初り候ニ付、八ツ時方一統出仕候様、以廻

状相触ル、小役人以下者御徒目付方

相達候様申達之

五月十六日 九里八郎右衛門

田辺與左衛門

一 津田要輔方一使平山源右衛門ヲ以

口上書差出左之通

△妻儀田辺御家中里元河村純内

与申者方江無抛用事御座候ニ付、小兒

兩人召連暫之逗留ニ而差遣申

度奉願候、末略ス

- 一 右同人方差出候口上書之趣御聞
- 一 之旨被 仰出、則其旨使江御目付方申達之
- 一 菅屋竹次郎・加納勇作家具方
- 一 神文御徒目付見届之
- 一 今八ツ時方於御使者之間論語講
- 一 積小嶋四郎兵衛相構候、一統出仕之事
- 五月十七日 津田孝之助
- 一 九里八郎右衛門
- 一 飯田半藏方一使平山源右衛門を以
- 一 口上書差出左之通
- △水野鬼毛娘儀福知山御家中
- 一 罷在候縁者原 謙次郎与申者
- 一 方へ無抛用向御座候二付、暫逗留
- 一 二而差遣申度、兔毛在番中二付、此段
- 一 私方奉願候、末略ス
- 一 山脇傳兵衛御内用二付、明朝方丹後
- 一 久美濱へ罷越候段、届之
- 一 飯田半藏方差出候口上書之趣御
- 一 聞濟之旨、則使へ御目付方申達之
- 一 永田傳左衛門妻并娘弟共明朝方
- 一 綾部御家中差遣候旨届之
- 一 水野鬼毛娘願之通、明日方福知山御家中
- 一 差遣候旨、在番中二付飯田半藏方届之
- 一 菅屋竹次郎家具方神文濟之旨、御徒目付方届之
- 一 辻泰藏後妻願御聞濟之旨被 仰出
- 五月十八日 津田寛次郎
- 一 九里八郎右衛門
- 一 德源寺江
- 一 御代香
- 一 濱路惣右衛門忌明二付、出勤之旨届之
- 五月十九日 九里八郎右衛門
- 一 早川権兵衛
- 一 小嶋由兵衛罷出、初而講釈仕候二付
- 一 於旅宿御酒被成下候事
- 五月廿日 九里八郎右衛門
- 一 田辺與左衛門
- 一 田中四郎右衛門方一使御目付平山源右衛門ヲ以
- 一 口上書差出ス、左之通
- △妻儀笹山御家中里元石井半介方江無抛用事
- 一 御座候二付、小兒兩人召連暫之逗留二而差遣申
- 一 度奉願候、御赦免被成下候へ難有奉存候、末略
- 一 右於御家老詰所生駒主水江差出ス
- 一 講釈今日限相濟候付、明朝方小嶋四郎兵衛引取候事
- 一 村田喜内忌明二付出勤仕候段届之
- 一 德源寺 御代香
- 一 生駒主水
- 一 御隠居様 御代香
- 一 生駒直規
- 五月廿一日 津田孝之助
- 一 九里八郎右衛門
- 一 明廿二日於 御殿大盤(マ)若經御執行
- 一 二付、諸向江達御目付方諸向江達之通有之
- 一 田中四郎右衛門方昨日差出候口上書之趣
- 一 御免之旨被 仰出
- 一 村岡文治依御都合帰府被 仰付候旨
- 一 御郡奉行方承之
- 五月廿二日 津田寛次郎
- 一 九里八郎右衛門
- 一 從江戸 御着座御用便至来
- 一 例年之通於御書院大磐若經
- 一 御執行有之
- 一 御目付麻上下着用諸事取■
- 一 導師 西之坊
- 一 衆僧
- 一 高山寺 松音寺 光寛房
- 一 大乘寺 金水寺 風端房
- 一 龍泉寺 常瀧寺 經寛房
- 一 今音寺 良全房
- 一 〆十文
- 一 御執行相濟
- 一 御連枝務御拜有之、御目付御書院次之間二相詰ル
- 一 神酒供物與江差出之
- 一 但し右両条當時無之
- 一 同断御家老中江差出之御目付及挨拶
- 一 於願皇寺御祈祷有之、御目付

五ツ時方相詰ル

於御使者之間右同断申上、御家老

九里八郎右衛門

御目付

御組頭謁之

於御米藏御扶持方有渡之

機野長左衛門

小役人・御徒士之面々同断申上ル

吉村由兵衛・平岡政右衛門方差出候

谷堂一人

支配ニ謁之

口上書之趣御聞濟之旨被 仰出、則

道具持

昨日被成下候御札之御礼御家中

其旨御徒目付方使江申達之

草り取

一統申上之

五月廿七日

九里八郎右衛門

御徒目付

五月廿五日

津田孝之助

早川權兵衛

平井嘉作

九里八郎右衛門

草り取

猪川六之進忌明ニ付、出勤可仕候処

於御米藏御扶持方渡有之

五月廿二日

久里八郎右衛門

頭痛氣ニ而出勤難仕、依而山村喜平治方

上田嘉太夫妻并小兒兼而野口

早川權兵衛

御徒目付江届之

彦六方へ同居為致置候処、今日方罷

一 松月院様御祥月

御代香

上月久右衛門妻■之氣風候ニ付

郡太方御徒目付方届之

生駒直規

双方申談之上離縁仕候間、御徒目付方

野口彦六方右同断差通候段、御徒目付へ

右同断ニ付

届之

届之

御隠居様 御代香 田中半兵衛

吉村^{由兵衛方}嘉太衛而使山村喜平治・藪鹿五郎

五月廿八日 九里八郎右衛門

一 田中四郎右衛門方兼而願之通、妻儀

を以口上書差出左之通

田辺與左衛門

一 小兒召連笹山御家中里元今朝

△龜山御家老中罷在候縁者梅原郡内

一 津田要輔妻并小兒兩人召連

方差遣申候旨届之

与申者方へ、無抛用向御座候ニ付罷越

明朝方田辺里方江差遣候旨届之

一 山脇傳兵衛久美濱方罷帰候段届之

用弁仕度、依之往来八日之御暇奉願候

五月廿九日 津田寛次郎

五月廿四日 九里八郎右衛門

末略ス

九里八郎右衛門

田辺與左衛門

一 平岡政右衛門方山村喜平治・足立五郎助

一 德源寺江 御代香 生駒主水

一 昨日相触候通、四ツ時惣出仕内御役人已上

を以口上書差出左之通

一 吉村由兵衛兼而奉願候通、明日方龜山江

御家老於詰所

△撰州三田御家中罷在候、青山助左衛門与

罷帰候段届之

一 兩殿様江御歎申上、御家老月番

申者方へ、無抛用事御座候ニ付罷越用弁

一 平岡政右衛門方右同断ニ付、昨日方撰州

生駒主水謁之

仕度、依之往来八日之御暇奉願候、末略ス

一 三田江罷越候旨届之

一 表御役人・御給人・御中小姓之面々

五月廿六日

津田寛次郎

一 明後二日

- 一 摠見院様御祥月二付、御用人格以上御使番
 一 迄五ツ時登山、御役人・御給人之間々四ツ時登山
 候様、以廻状御目付方相触ル
 一 但御組頭手紙を以相触ル
 一 菊沢揖馬兼而願之通三田御家中江稽古
 一 罷越候旨届之
 一 六月朔日 田辺與左衛門
 一 早川權兵衛
 一 德源寺江 御代香 生駒直規
 一 山脇傳兵衛御内用二付、明朝方致出坂候旨届之
 一 猪川六之進腰合不相勝候付、引籠候旨届之
 一 摠見院様御祥月二付、御用人格以上御使番
 一 之間々五ツ時登山、御役人・御給人四ツ時登山
 一 拝礼相濟、詰之御目付引取相濟候様御家老中江
 一 申達之、但し御■中詰無之御目付六ツ半時相談
 一 候事
 一 津田三郎助妻・小兒共大坂表方罷帰候旨届之
 一 六月三日 津田孝之助
 一 田辺與左衛門
 一 田中四郎右衛門妻・小兒共笹山方罷帰
 一 候旨届之
 一 津田要人叔母笹山方罷帰候旨、要人
 一 在番中二付津田要輔方届之
 一 德源寺江御代香 生駒主水
 一 六月四日 津田寛次郎
 一 田辺與左衛門
 一 菊沢揖馬三田方罷帰候旨届之
 一 吉村由兵衛・平岡政右衛門今夕罷帰候旨届之
 一 六月五日 田辺與左衛門
 一 早川權兵衛
 一 佐敷孫兵衛忌明二付、出勤之旨届之
 一 早川權兵衛方一使御目付永田傳左衛門
 一 を以口上書差出ス、左之通
 一 △四女儀大坂表二罷越候縁者坂田良太郎与
 一 申者方へ無抛用事御座候付、暫之逗留二而
 一 差遣申度奉願候、末略
 一 六月六日 九里八郎右衛門
 一 田辺與左衛門
 一 德源寺江御代香 生駒直規
 一 早川權兵衛方差出候口上書之趣御聞濟
 一 之旨被 仰出
 一 右同人方兼而願之通、娘儀明朝方
 一 大坂表江差遣候旨届之
 一 六月七日 津田孝之助
 一 田辺與左衛門
 一 小久江平吾兼而願之通縁女明晩
 一 引取候旨、御徒目付方届之
 一 辻泰藏兼而願置候通明晩縁女
 一 引取候旨、御徒目付方届之
 一 笹川泰次郎妹明晩小久江平吾方へ
 一 差遣候旨届之
 一 去月廿七日出之御用便到来
 一 六月八日 津田寛次郎
 一 田辺與左衛門
 一 山脇傳兵衛御内用濟二付、大坂方
 一 罷帰り候段届之
 一 六月九日 田辺與左衛門
 一 早川權兵衛
 一 小久江平吾昨秋縁女引取婚姻
 一 整候旨、御徒目付方届之
 一 辻泰藏右同断引取婚姻相整
 一 候旨、御徒目付方届之
 一 六月十日 九里八郎右衛門
 一 田辺與左衛門
 一 德源寺 生駒主水
 一 御代香
 一 御隠居様
 一 御代香 早川權兵衛
 一 山中多助・浅井次郎左衛門・子守
 一 純之助・林正三郎去月廿七日
 一 江府出立一日之日延奉願、今日
 一 着仕候間届之
 一 御足輕山本孫市・中瀬勝四郎
 一 岸彦五郎・中井與兵衛・足立
 一 嘉兵衛右同断着仕候段届之
 一 永田傳左衛門弟綾部御家中
 一 縁者方罷帰り候段届之

六月十一日 津田孝之助

十日之御暇奉願候、末略ス

東海道美濃路旅行御定之外二日

田辺與左衛門

一 榎田藤兵衛去月卅日江戸出立、川支

日延相願、江州安土山江立寄并

一 杉原左五兵衛方一使永田傳左衛門を以口上書

二而無滞着之旨届之

藤川二而一日川支二付今着仕候旨届之

差出、左之通

一 沖田藤藏右同断着之旨届之

一 小寫四郎兵衛夕方着仕候旨御郡方承之

△京都罷在候同家杉原作十郎方方

一 菊沢新六右同断着之旨御徒目付へ

一 足立五郎大夫方松井猪工太郎妻今朝

無抛用面御座候二付、参具候様申越候間

届之

一 出產男子出生仕候、在番中二付御届申上

俸甚三郎暫之逗留二而差遣

六月十四日

田辺與左衛門

度奉願候、末略ス

一 德源寺江

早川權兵衛

六月十六日

津田孝之助

右於御組頭詰所月番田中

一 御代香

生駒主水相勤

一 今日方御使者間二而論語講釈有之

半兵衛へ差出之

御隱居様

平山源右衛門

一 平山源右衛門方昨秋後妻引取婚姻相整候旨

一 右同人方差出候口上書之趣御聞

御代香

届之

一 山中多助・浅井次郎左衛門・子守純之助・林正

濟被 仰出、則其旨使方申達之

御代香

平山源右衛門

一 三郎御広間御番入被 仰付候

六月十二日

津田寛次郎

一 平山源右衛門明夜縁女引取候段届之

一 六月十七日 津田孝之助

田辺與左衛門

一 津田要輔方差出候願之通御聞濟被

一 早川權兵衛

一 上田彦市去月廿七日江戸表出立仕

一 仰出、則其旨御目付方申達之

一 六月十七日 津田孝之助

兼而願之通勢州江参詣仕、只今着

一 右同人明朝方田辺御家中へ罷越

一 早川權兵衛

之旨届之

候旨届之

写是方

一 昌本兵左衛門・坂口右同断着之旨

六月十五日

津田孝之助

一 達左之通

届之

一 榎田藤兵衛被差登候二付、從

一 御代香

六月十三日

津田寛次郎

一 両殿様御尋之御意有之、御組頭

一 浅井次郎右衛門

田辺與左衛門

一 御用人詰所ニおゐて同人申達、内御

一 子守純之助

一 去ル朔日出之並便到来

一 役人御料理之間おゐて生駒

一 林 正三郎

一 津田要輔方両使大井小膳・永田傳左衛門

一 主水謁之

一 右於御料理之間御目付申達之

ヲ以口上書差出左之通

主水謁之

一 五ツ時方論語講釈仕候事

△私儀田辺御家中罷在候縁者河村純内与申方へ

写是方

一 八ツ時 小学講釈之事

無抛用事御座候二付罷越用弁仕度候、依之往来

一 沖次郎右衛門去月晦日江戸表出立

一 小嶋四郎兵衛小兒素読教導仕候段、御郡方方

申達之

一 從江戸表去ル六日之出御用便到来

殿様去ル二日御參勤御礼被 仰上、同

六日常盤橋御門番 南部伊勢守様

為御代り被為蒙 仰候旨、申来ル

六月十八日 津田孝之助

九里八郎右衛門

六月十九日 津田孝之助

田辺與左衛門

一 昨日相触候通

殿様去ル二日御參勤御礼首尾好

被 仰上内五日常盤橋御門番

南部伊勢守様御代り被蒙

仰候、御欽内御役人以上於御家老詰所

申上之 御端書拝上之

御給人之面々於御使者之間御欽申上ル

御端書拝上之

御中小姓之面々於同所欽申上候、御組頭

謁之

小役人・御徒士之面々於同所支配之謁之

御給人以上御端書拝上之、御礼

惣御家老中へ□□□

一 達左之通 △裏御門勤番被 上田孫六

仰付候

右御徒目付方申達之

一 江府へ月次御使被差立

一 横田甚九郎方三田御家中罷在候

縁者岸上格兵衛与申者母兼病氣

之處、養生不相叶昨十八日致死去候段

申越、父方之祖母之続二御座候間

半減之

忌 六月十八日方 服 六月十八日方

七月三日迄 九月四日迄

右之通受之忌中引込候段、御徒

目付へ届之

六月廿日 津田孝之助

津田寛次郎

一 今井左右藏方三田御家中岸上格兵衛

与申者之母去ル十八日死去、右者父方祖母

之続二付、半減之忌服受忌中引込候段

取次方届之

一 菊沢次兵衛方願之通、引取置候忪縁女

一 明夜婚姻為相整候旨届之

一 達左之通

△以前之通、御徒目付被 菊沢新六

仰付候

右御徒目付方申達之

一 今井左右藏忌被成 御免候二付

出勤之旨御徒目付方届之

六月廿一日 津田孝之助

一 菊沢新六兼而引取置候縁女明晚

一 婚姻相整候旨御徒目付方届之

一 片岡助左衛門・林新之助・山脇傳兵衛先

頃御參勤御礼濟并御役場所被蒙

仰候、御怡惣出仕之節不參二付、今日右

御怡於御家老詰所申上ル、御端書拝上之

六月廿二日 津田孝之助

九里八郎右衛門

一 明廿三日土用入二付、御武器方風納有之

一 菊沢新六昨夜婚姻相整候段、承之

一 小嶋四郎并衛講积今日限二而相濟引取

一 横田甚九郎忌御免二付、出勤可致之处

服合不相勝候二付、以名代引籠候旨

御徒目付方届之

六月廿三日 津田孝之助

田辺與左衛門

一 松好三平服合不相勝難渋仕候二付

一 引籠候段、御徒目付方届之

一 坂口善兵衛・小山久太夫方口上書差出ス

左之通

△私儀追々勤筋 御赦免并隠居之義奉願候処

被成下御差留難有仕合奉存候、然ル処次第第二物

覚等薄相成候二、勤筋 御赦免隠居被仰付被下

候様奉願候、末略

一 横田甚九郎服合不相勝候付、引籠候旨

御徒目付方届之

六月廿四日

津田孝之助

一 於御米藏御扶持方渡有之

風二付、双方申談離縁仕候旨届之

一 德源寺江

槇田藤兵衛

六月廿八日

津田孝之助

一 早川権兵衛次男猪之助大井

御代香

生駒直規

同 廿九日

津田孝之助

一 小膳方へ養子差遣置候処、不熟

御隠居様

片岡助左衛門

槇田藤兵衛

一 二付申談離縁引取候旨届之

御代香

片岡助左衛門

一 德源寺江

生駒主水相勤

付方届之

一 津田要輔妻并小兒共田辺御家中方

御代香

生駒主水相勤

一 上田孫六熱氣二付引込候旨、御徒目付方届之

罷帰候旨、届之

津田孝之助

一 横田甚九郎不快快出勤之旨

一 七月四日 田辺與左衛門

六月廿五日

津田寛次郎

御徒目付方届之

今晩■送仕候旨御郡奉行方届之

一 同月五日 津田孝之助

一 井上良左衛門・菊沢文左衛門・上田多左衛門方

七月朔日

今夕認二而、江府江月次御便

一 被差立

一 使口上書差出ス、左之通

一 暑中為伺 御機嫌内御役人

七月六日

津田寛次郎

△私儀追々勤筋 御赦免隠居之義奉願候処、御

以上四ツ時出仕於御家老詰所

一 七月六日 津田寛次郎

差留被成下難有仕合奉存候、然ル処次第第二物

一 両殿様江申上ル、生駒主水謁之

一 佐鋪左工間忌明二付、出勤仕

覺等薄相成候付、勤筋 御赦免隠居被仰付被

一 瀧玉記母出産女子出生仕候、玉記

一 候旨御徒目付方届之

下候様奉願候、末略

一 劫年二付、九里彦輔方届之

一 德源寺江

六月廿六日

津田孝之助

写是方

一 德源寺へ

御代香

生駒主水相勤

一 於御米藏御扶持方渡有之、平山

御代香

生駒直規相勤

一 七月七日 早川権兵衛

源右衛門出席

七月二日

早川権兵衛

一 御代香 生駒主水相勤

一 永田傳左衛門方妻娘綾部御家中方

同 三日

槇田藤兵衛

一 七夕御祝儀として諸士四ツ時出仕、内

罷帰候旨届之

同 三日

九里八郎右衛門

一 御役人以上於御家老詰所御祝儀

一 杉原佐吾兵衛悴甚三郎京都縁者方方

同 三日

槇田藤兵衛

一 申上ル、御家老年番生駒主水

罷帰候旨届之

一 德源寺へ

御代香

生駒主水相勤

謁之

六月廿七日

津田孝之助

御代香生駒主水相勤候

一 御給人・御中小姓之面々於御使者

九里八郎右衛門

一 大井小膳養子猪之助不応家

一 之間右同断申上之、御家老

御組頭謁之

一 小役人・御徒士之面々右同断支配頭

謁之

七月八日 九里八郎右衛門

榎田藤兵衛

一 森松太郎方□□□□□□□□□□

母方之祖母昨日死去仕候二付、定式之

忌 七月七日方 服 七月七日方

同 廿六日迄 閏 九月八日迄

右之通受之忌引籠候段

御徒目付方届之

七月九日 田辺與左衛門

榎田藤兵衛

七月十日 津田孝之助

榎田藤兵衛

一 德源寺江

御代香 生駒主水相勤

御隠居様

御代香 片岡助左衛門

一 達左之通

△御小納戸風納中 九里彦輔

助被 仰付候

右於御料理之間御目付申達候

七月十一日 津田寛次郎

榎田藤兵衛

一 井上良左衛門病氣二而、足痛難渋

引籠養生仕度旨届之

七月十二日

一 明十三日夜方盆中廻り之儀

御目付方申達之

一 素読出情之小児江為御褒美

清書紙被成下申達之

七月十三日 九里八郎右衛門

榎田藤兵衛

一 藤田男也妻出産女子出生仕候、同人

在番中二付、大野稟馬方届之

毎月十四日 田辺與左衛門

榎田藤兵衛

同 十五日

一 德源寺江 御代香

一 御隠居様 御代香

一 本覺寺

一 摠持院様江御代香

一 德源寺

御水向御備

七月十五日

津田孝之助

榎田藤兵衛

一 摠持院様御靈前江蓮飯御備

御使者 平山源右衛門

一 於德源寺御施餓鬼御給人以上之面々

四ツ時登山

一 從江戸表去ル四日出之月次御便到来

一 德源寺江蓮飯御備

御使者

津田寛次郎

一 片岡助左衛門妻出産男子出生仕候、依之

穢中引込候段届之

七月十六日 津田寛次郎

榎田藤兵衛

一 片岡助左衛門小兒虚弱二而養生不相叶

今辰ノ中刻致死去、七歳未滿二付三日之

遠慮仕候段届之

一 山中多助方同人小兒致死去、右者養方

甥之続ニ相成候所七歳未滿二付、今日之

遠慮仕候段届之

一 水野鬼毛娘福知山方罷帰候段、同人

在番中二付飯田半蔵方届之

七月十七日 津田寛次郎

早川権兵衛

一 德源寺

要■院様江御代香 津田寛次郎

七月十八日 津田寛次郎

九里八郎右衛門

一 德源寺江御代香 生駒主水相勤

一 山中多助遠慮明二付、出勤之旨届之

一 葛山六左衛門腰痛二付步行難渋二付、

引込養生仕候旨届之

每月十九日

津田寛次郎

磯野長左衛門方兩使平山源右衛門

右同断

松原忠左衛門

田辺與左衛門

飯田半藏を以口上書差出左之通

右於御料理之間御目付方申達之

同 廿日

津田孝之助

△田辺御家中罷在候実^②家泉城寺

御用左之通

田中半兵衛

津田寛次郎

宗太郎与申者方へ無抛用事二付

△御取べり無滞出情

田中半兵衛

一 片岡助左衛門方遠慮明二付出勤可仕

罷越用弁仕度、依之往来十日之

被相勤 ■■■

早川権兵衛

之所、未産穢二付大井亦兵衛方

御暇奉願候、末略ス

(□□・□□)

届之

一 達左之通

御目録之通被成下候

一 飯田新八郎方へ播州木梨村二

△御小納戸之風納中

松原唯之助

御小袖 代金五百足

罷在候縁者大熊市左衛門与申者

御人少二付、助被

右於御家老詰所生駒主水申

罷越一兩日逗留為仕候旨届之

仰付候

渡之、御目付出席

七月廿一日 津田寛次郎

△素読教導方

林正三郎

七月廿四日

津田寛次郎

□□□□

被 仰付候

田辺與左衛門

一 岡田音也熱氣二而難渋二付、引籠

右於御料理之間申達之

一 永田傳左衛門方兩使平山源右衛門

養生仕度旨届之

七月廿三日

津田寛次郎

飯田半藏を以口上書差出左之通

一 飯田新八郎方一使平山源右衛門を以

一 片岡助左衛門産穢明二付、出勤

△山室又藏兼々養子奉願候様被 仰付

口上書差出、左之通

磯野長左衛門方昨日差出候願書之趣

難有仕合奉存候、右二付孫女儀養女二為仕

△母儀播州木梨村二罷在候縁者大熊

御聞濟之旨被 仰出、其段使方

置相応之者御座候者、追而賀養子

市左衛門与申者方へ無抛用事御座

申達之

仕度奉願候、末略ス

候二付、暫之逗留二而差遣申度奉願候

達左之通

一 上田孫六不快之出勤之旨、御徒目付方

末略ス

申達之

届之

一 右同人方差出口上書之趣御聞濟

達左之通

七月廿五日

津田孝之助

之旨被 仰出、其旨使江申達ス

△依御都合御取べり

田中半兵衛

津田寛次郎

一 右同人母願之通、明朝方播州木梨村

被成御用捨候

一 上田多左衛門方兩使平山源右衛門

差遣候段届之

右於御組頭詰所御目付方申達之

△不調法之私儀結構被召仕、冥加至極難有

七月廿二日 津田寛次郎

△依御都合御取べり

早川権兵衛

早川権兵衛

被成御用捨候

仕合奉存候、然処当初夏方持病之頭痛

二付、引込以 御蔭緩々養生仕候処、又候

七月廿八日 津田寛政次郎

八月二日 早川権兵衛

熱氣相発、種々療用仕候得共、今以出勤仕

九里八郎右衛門

榎田藤兵衛

候程二も無御座長々引籠奉恐入候、最早御■定

一 平野吉左衛門御代官神文役見届相済

一 中原寛左衛門方兩使松原忠左衛門・平野

之日数茂相過候間、勤向被遊 御赦免被下

七月廿九日 津田寛次郎

吉左衛門ヲ以^願上書差出左之通り

候様奉願候、末略ス

田辺與左衛門

△不調法之私儀段々結構被召仕被下、難有

一 大槻只七方一使口上書差出左之通

一 德源寺へ 御代香 生駒直規

仕合奉存候、然処大病二而長々引籠

△水野老岐守様御領分和田町罷在候

一 松好三平乍引籠中步行仕

罷在候奉恐入候、勤筋 御赦免之儀

生添春灌と申者之娘賞請、後妻

可然旨医師方申聞候二付、近所步行仕

奉願候処、御差留被成下難有奉存候

仕度奉願候、末略ス

度旨小松原郡太を以相願候処、勝

其後猶更無油断療用仕候得共次第

七月廿六日 津田寛次郎

手次第之旨被 仰出、則御徒目付方

不相勝、最早御定之期日相過此俥罷

一 永田傳左衛門方差出候願書之趣

申達之

在候段奉恐候、依之隠居被仰付、幼稚之

御免、其旨使方申達之

八月朔日 津田孝之助

忒何之御役二も相立間敷候得共、往々如何躰

一 大槻只七方差出口上書之趣

早川権兵衛

二も被 召仕被下候者、永為奉報 御高■度

御免、則其旨御徒目付方申達之

一 德源寺へ 御代香 生駒直規

奉願候、末略ス

一 於御米蔵御扶持方渡有之

一 八朔為御祝儀四ツ時惣出仕内御

藤本正次郎井中村御用山江明日方

七月廿七日 津田寛次郎

相勤

四五日罷越候旨届之

一 於御米蔵御扶持方渡有之

役人以上於御家老詰所御祝儀

八月三日 津田寛次郎

一 達左之通

申上ル、月番生駒主水謁之

早川権兵衛

一 於御米蔵御扶持方渡有之

一 御役人・御給人・御中小姓之面々於

一 德源寺御代香 生駒直規

△当分御收納御代官

御使者之間御祝儀申上ル、御家老

一 津田堅三郎・飯田新八郎・菊地

一 仮役被 仰付御広 平野吉左衛門

御組頭謁之

幸之丞井中村御用山江見分二

間勤番■

一 小役人・御徒士之面々右同断支配

明朝方罷越候旨届之

右於御料理之間御目付方申達之

頭謁之

一 大井小膳妻・小兒兩人福知山方

一 森松太郎忌明二付、出勤之旨

御徒目付方届之

一 勝川省之助熱氣二付引込候旨

御徒目付方届之

写是迄

御徒目付方届之

八月四日 九里八郎右衛門

早川権兵衛

一 江府表方月次御便到来

一 磯野長左衛門田辺方罷帰候旨届之

一 津田堅三郎・飯田新八郎・菊地

幸之丞井中村御用山見分相濟

引取候旨届之

八月五日 田辺與左衛門

早川権兵衛

一 藤本正次郎井中村御用山

見分相濟、罷帰候旨届之

八月六日 津田孝之助

早川権兵衛

一 達左之通

△依御都合御取次

勤番兼可被相勤候様 菊地幸之丞

被 仰付候

右於御料理之間御目付申達之

一 徳源寺御代香 生駒主水

一 飯田新八郎母兼而播州木梨村へ

参居候処、罷帰り候旨届之

八月七日 早川権兵衛

榎田藤兵衛

一 御武器方風納今日限二而相濟候旨

届之

右二付小森篤左衛門・平野吉左衛門

長谷直右衛門御武器方風納無滞相濟

数日大儀之趣御家老中方御挨拶有之

右於御料理之間御目付申達之

一 小頭不残長谷順治右同断二而御目付方

申達候

一 林正三郎方養父儀於江戸表病

氣之処、養生不相叶去月廿六日致

死去候段、別便ヲ以申越候、依之

定式

忌 八月七日方 服 八月七日方

九月廿六日迄 来辰八月中

右之通受之、忌中引籠罷在候段

届之

八月八日

津田寛次郎

早川権兵衛

一 御用左之通

△村々毛見出在 被 仰付候

田中四郎右衛門

庄 作左衛門

松原忠左衛門

菊沢次郎兵衛

平野吉左衛門

右於御家老詰所月番生駒主水

申渡之、御組頭御目付出席

△村々毛見在 平井嘉作

申渡之、御目付出席、御徒目付嘉座

△村々毛見出在 地方不残

被 仰付候

右御郡奉行申渡出在之、御目付出席

一 江府表江月并御使被 差立

一 小嶋四郎兵衛講积今朝限相濟引取

八月九日 九里八郎右衛門

早川権兵衛

同月十日 田辺與左衛門

早川権兵衛

一 徳源寺へ

御代香 生駒主水相勤

御隠居様

御代香 津田堅三郎

八月十一日 九里八郎右衛門

早川権兵衛

一 勝川省之助方井上伴之丞を以

願書差出左之通

不快二付引込罷在候処、未御定之日数茂

相成不申候得共、逆上難渋二付、医師江申

聞候処、月代剃可然旨申候二付、依之

月代仕度旨申出ス

一 右同人方差出願書之趣御聞濟被

仰出、則其旨使江御徒目付方申達之

八月十二日 早川権兵衛

榎田藤兵衛

一 祭礼二付御家老中方御書付

被差出候間、懸之面々一覽候様

申達之

一 柏家婦人播州安田村方罷歸り

候旨、荒木藤右衛門在番中二付、浅井

次郎左衛門方届候

一 達左之通

△岡田音也引込中 松原唯之助

御納戸心得被 仰付

右於御料理之間御目付方申達之

一 佐敷孫兵衛方一使松原忠右衛門を以

口上書差出左之通

△原長悦妻儀篠山御家中見田代

沢之丞与申者兼而病氣之処、此節別而

不相勝候二付、参呉候様申越候間、則■為

仕度、依之〔□□□□：□□□□〕

在番中二付、私方奉願候、末略ス

一 右同人方差出口上書之趣

御免之旨被 仰出、其旨使江申達之

一 右同人方願之通、原長悦妻

篠山御家中へ差遣申候旨届之

一 津田要人叔母篠山御家中方

罷歸り候旨、要人在番中二付津田

要輔方届之

一 松原左五兵衛娘笹山御家中へ

差遣置候処、無抛用事二而罷歸り

暫逗留為仕候旨届之

八月十三日

津田寛次郎
早川権兵衛

一 御用左之通

△無滞相勤太儀之至候

依之式俵加増都合

式拾俵独礼小役席

竹河権六次被 仰付候

右於御用人詰所月番申渡之

御目付・御徒土頭出席、御徒目付加座

八月十四日 九里八郎右衛門

早川権兵衛

一 徳源寺へ

御代香

御隠居様

御代香

一 両社方神酒来ル、例之通御目付

取計

八月十五日

田辺與左衛門
早川権兵衛

一 八幡祭礼二付、内御役人以上御側

御給人・御近習格迄式番大鼓方

出仕之事

一 出仕之面々相揃候上、馬場へ堅メ

差出候様、御徒目付へ御目付方申達之

夫方御家老中初表御門江

相詰ル

一 両社方祭礼二付、御札・供物差上之

一 黒御門市場へ相詰候面々引取候旨

届之

八月十六日

津田孝之助
九里八郎右衛門

一 献上椒幸領村岡文作被差立候事

八月十七日

九里八郎右衛門
榎田藤兵衛

同月十八日

津田寛次郎
九里八郎右衛門

一 徳源寺へ 御代香

御隠居様 御代香

八月十九日

九里八郎右衛門
早川権兵衛

一 勝川省之助方米田紋之丞ヲ以願書

差出左之通

△不快引込中なら近所歩行仕可然旨

医師共申聞候、未日数も相定不申候得共

歩行〔□□：□□〕

一 右同人方伺書之通、御聞濟被 仰出

則其旨御徒目付方使へ申達之

八月廿日

九里八郎右衛門
田辺与左衛門

一 竹河権六・濱路惣次郎御用二付、今昼後日

稲畑村江罷越候旨、届之

八月廿一日 津田孝之助

以上於御家老詰所御歛申上候ル

明朝方為御馳走出役仕候旨届之

九里八郎右衛門

月番生駒主水謁之

於御米藏御扶持方渡有之

一 当四月以 御直書被 仰出候通、当

一 御給人・御中小性之面々於御使者

一 原長悦妻笹山御家中縁者方方

九月方三ヶ年御渡方割帳御家老中方

之間同断申上ル、御家老・御組頭

罷歸り候段、長悦在番中二付孫五兵衛方

被差出候間、御料理之間二而一覽候様御中小性

謁之

届之

以上江申達ス、小役人以下江者御徒目付方申達

一 小役人已下於例席同断申上ル

八月廿八日 津田寛次郎

ス

支配々謁之

九里八郎右衛門

八月廿二日 九里八郎右衛門

一 德源寺方以使僧右同断御歛申上ル

一 昨今 公儀御役人御通行当所

榎田藤兵衛

一 松原忠左衛門足痛二付、難渋依之

一 御泊り二付、夫々御馳走人被差出候

一 井上良左衛門足痛快、出勤仕候旨届之

引込養生仕度旨届之

一 達左之通

一 從江府表御用便到来

八月廿五日 九里八郎右衛門

△素読教導方被 金子次郎助

八月廿三日 津田寛次郎

田辺與左衛門

仰付候

一 靄姫様御儀

一 天満宮祭礼二付

右於御料理之間御目付申達之

殿様思召被為在御養女被成度、兼而

御代参 御組頭 生駒直規

八月廿九日 九里八郎右衛門

御内約二付、御隠居様 奥方様江

右二付、御札・神酒差上之、例之通

一 德源寺へ 早川権兵衛

去月廿二日表御役人・御使者を以

取計候

御代香 生駒主水相勤

被仰進、首尾克御熟談二付、御用番

八月廿六日 津田孝之助

八月晦日 九里八郎右衛門

真田信濃守様江御届書被差出

九里八郎右衛門

田辺与左衛門

御落手相濟候由、申来ル

一 於御米藏御扶持方渡有之

一 德源寺へ

一 中山舎人於江戸御家老加判

同月廿七日 九里八郎右衛門

御代香 生駒直規

被 仰付候二付、御中小性以上江及席達

榎田藤兵衛

一 達左之通

小役人已下江者御徒目付方相達之

一 濱路惣次郎方

△隠居並願達

八月十四日 九里八郎右衛門

公儀御役人通行二付、御油村江

御聴候処、丈夫之様子二付 井上良左衛門

早川権兵衛

罷越候旨、御徒目付方届之

元太儀今暫其俣可被相勤候

一 昨日相触候通、四ツ時惣出仕内御役人

一 竹河権六方右同断二付、同所江

右於御料理之間御目付申

達之

一 御用左之通

△松原忠左衛門引込付

毛見出在被 仰付候

右於御家老詰所月番生駒

主水申渡之、御目付出席

一 達左之通

△毛見中非常之節

御郡奉行出役心得

被 仰付候

△毛見中非常之節

御代官出役心得被

仰付候

右於御料理之間御目付申達之

九月朔日 津田孝之助

田辺與左衛門

一 徳源寺へ

御代香 生駒主水相勤

一 井上良左衛門足痛ニ而難渋ニ付

外勤御断之旨届之

一 達左之通

△勤筋御免隠居

之願差出尤之事ニ

候へ共、先其佞相勤候様

被 仰付候

右御徒目付方申達之

一 達左之通

△毛見中非常之節

地方心得被 仰付候

右御徒目付方申達之

九月二日

横田甚九郎

一 從江戸表月并御使到来

九月三日

小久江平吾

一 徳源寺へ

御代香

横山

一 田中四郎右衛門・庄作左衛門・横山

庄兵衛・菊沢次郎兵衛・平野吉左衛門

濱路惣右衛門明四日方早田毛見出在

一 林正三郎方改葬仕候ニ付、一日之遠慮

仕候旨、忌引込中ニ付名代大野

東馬方届之

一 御徒目付并地方不殘明日方早田毛見

出在仕候旨、御徒目付方届之

一 江戸表方去月廿二日出之御使

到来

一 今度新規忝分五厘并忝分銀札

出来ニ付、今日方通用可致旨、席々

申達之、小役人已下江者御徒目付方

申達之

一 今夜戌下之刻方暴風雨ニ而表御門

南之方葎松大木老本御馬場へ

倒、并量屋倒、其外御講内高堀

并屋根瓦吹損、晝寅刻頃鎮

九月四日

田辺與左衛門

一 徳源寺方使僧ヲ以昨夜ハ暴風雨ニ付、御見上

被申上居候、御取次方承之

九月五日

早川権兵衛

一 菊沢揖馬方南使磯野長左衛門

ヲ以口上書差出左之通

一 △松平三治様御家中罷在候里元佐工間

藤右衛門与申者方へ無抛用事御座候ニ付罷越

用弁仕度、依之往来十日之御暇奉願候

一 林正三郎遠慮明ニ付、出勤可仕処

忌中引込ニ付、名代大野東馬方

届之

一 岡田音也不快々出勤之旨届之

一 菊沢揖馬方差出候願書之趣御免之旨

被 仰出、其旨使江申達之

九月六日

津田孝之助

一 徳源寺へ

御代香

九月七日

田辺與左衛門

榎田藤兵衛

一 德源寺へ

御目付出席候

九月八日

津田寛次郎

御代香

生駒主水相勤

一 靄田恂悦不快々出勤之旨届之

田辺與左衛門

御隠居様

九月十三日

津田寛次郎

一 達左之通

御代香

早川権兵衛

一 昨日被成下、御礼之御礼一統申上之

△德源寺へ在々方上京 ■金次郎

九月十一日

津田孝之助

二付、留寺居老人拝借被相願候二付、当番引

武芸当月下旬御代覽被

田辺與左衛門

一 久下林助方一使善積平左衛門井家作を以口上書

候而罷越可申候

仰出、日限之儀ハ追而沙汰在之候

差出左之通

右御徒目付方届之申達之

仰出、日限之儀ハ追而沙汰在之候

△恠三右衛門妻并孫召連、播州木梨村

一 菊沢揖馬兼而奉願候通、只今方

一 德源寺紋衣二付、明十二日方出京之旨

里元へ無扱用向御座候二付、暫逗留二而

里元へ罷越候旨届之

田中半兵衛方承之

差遣申度奉願候、末略ス

一 江府表へ月次御使被差立

一 達左之通

九月十四日

早川権兵衛

九月九日 田辺與左衛門

△岡田音也出勤二付

田辺與左衛門

早川権兵衛

御納戸心得不及其儀候 松原唯之助

一 為重陽御祝儀五ツ時惣出仕内御役人

右於御料理之間御目付方申達之

一 被 仰出、則其旨使江御徒目付方申達之

以上於御家老詰所御祝儀申上ル、生駒

九月十二日

田辺與左衛門

一 右同人方兼而奉願候通、妻・小兒三右衛門

主水謁之

於兩社御祈祷有之、詰人例之通

一 召連播州里元へ差出候旨、御徒目付方

一 御給人・御中小性之面々於御使者之間

一 兩社方御祈祷・御礼相伺例之通

一 今晚仙石讚岐守様御通行

御祝儀申上ル、御家老・御組頭謁之

向々江相渡ス

一 御止宿二相成候事

一 小役人御徒士之面々右同断支配頭

柿芝村四ツ時前会所有之、横山

一 林新之助腹痛ニ而引込候段、届之

謁之

庄兵衛出席候

一 此度稽古道具修覆料として五拾匁ツ

一 靄田恂悦■痛ニ付、引込〔□□□□□□□□〕

御用左之通

一 但弓二流当流首座流大橋流

一 牧丹後守様御儀思召有之、以来

△依御都合御作事奉行

流儀く江被成下

御両■被 仰出候旨、席々申達之

飯役被 仰付候、猶御取

九月十五日 九里八郎右衛門

一 小役人已下へ御徒目付方申達之

申談二付、勤■被申候 浅井次郎左衛門

田辺與左衛門

九月十日 田辺與左衛門

右於御家老詰所生駒主水申渡

一 達左之通

榎田藤兵衛

△依御都合当分 上田孫六

届之

九月廿二日 津田孝之助

御用所■被 仰付候

九月十九日 津田孝之助

榎田藤兵衛

右御徒目付方申達之

早川権兵衛

一 山中多助方昨日差出候願書之趣

九月十六日 津田孝之助

一 御用左之通

御聞濟被仰出、則其旨使江申達之

田辺與左衛門

△所々御破損有之候二付

九月廿三日 津田孝之助

菊沢揖馬里元方罷歸り候段届之

(□□:□□) 中島吾助

一 大野東馬妻出産女子出生、依之

一 達左之通

(□□:□□)

一 穢中引込候段御徒目付へ届之

△依御都合御扶持方

右御徒目付方申達之

一 生駒主水・中山舍人・生駒直規

御用捨被 仰付候 小森篤左衛門

九月廿日 津田孝之助

一 田中半兵衛・九里八郎右衛門へ御山之

右於御料理之間御目付方申達之

九里八郎右衛門

一 生駒直規方兩使田辺与左衛門・横山

一 津田要人方兼而於江府表奉願候通

一 松茸被成下候

庄兵衛を以^願上書差出左之通

伯母・弟龜山御家中三田村平治

一 山中多助方妻并小兒今日方

△出石御家中罷在候縁者仙石内蔵介与

与申者方江明朝方差遣申候、要人

一 笹山差遣候旨届之

申者方へ無抛用向御座候二付、罷越致用弁

在番中二付津田要輔方届之

九月廿四日 津田孝之助

度、依之往来十日之御暇奉願候、末略ス

九月廿一日 津田孝之助

早川権兵衛

九月十七日 津田孝之助

田辺與左衛門

同 廿五日 津田孝之助

榎田藤兵衛

一 早田毛見昨日限り相濟候旨、出在之

同 廿六日 九里八郎右衛門

一 生駒直規方差出候口上書之趣御聞

一 面々届之

同 廿六日 津田孝之助

一 濟之旨被 仰出、其旨使江申達之

一 早田毛見出在之面々届之

同 廿六日 田辺與左衛門

一 右同人願之通、明朝方出石江罷

一 林新之助不快々出勤之旨届之

九月廿七日 津田孝之助

越候旨届之

一 山中多助方一使口上書差出左之通

九月廿七日 榎田藤兵衛

九月十八日 津田孝之助

一 於御米蔵御扶持方渡有之

津田寛次郎

一 林正三郎忌明二付、出勤之旨届之

一 德源寺江御代香 ^{差支付} 田中半兵衛

九月廿八日 津田孝之助

一 四ツ时会所有之

一 松好三平不快々出勤之旨御徒目付方

一 御用左之通

一 早川権兵衛四女大坂方罷歸り候段

届之

一 御用左之通

△養父平兵衛家督高

百石無相違被成下御馬廻り 林正三郎

被 仰付候、席子守純之助次

右於御書院次ノ間御家老生駒主水

申渡、御組頭・御用人・御目付出席

一 達左之通

着席上倉貢次 林正三郎

被仰付候

右於御料理之間御目付申達之

菊月廿九日 津田孝之助

早川権兵衛

一 德源寺へ 御代香 生駒主水相勤

閏九月朔日 九里八郎右衛門

榎田藤兵衛

一 德源寺へ 御代香 生駒直規相勤

一 大野東馬産穢明二付、出勤之旨届之

閏九月二日 田辺与左衛門

榎田藤兵衛

一 晚田毛見今日限濟候旨出立之面々方届候

同 三日 津田孝之助

榎田藤兵衛

一 晚田毛見昨日限相濟候二付、御郡奉行

出在之御目付於御家老詰所届之

一 菊沢次郎兵衛・平野吉左衛門御組頭

詰所同断届之

一 小役人之面々同断御目付方届之

一 御用人・御給人^{御役人}之面々江御山之松茸

被成下

閏九月四日 津田寛次郎

榎田藤兵衛

一 善積平左衛門方御目付平山源右衛門ヲ以

一 使口上書差出左之通

△娘儀宿願之儀御座候二付、勢州江参詣

為仕度、依之往来廿日之日敷ニ而差遣申度

奉願候、末略ス

一 右同人方差出候口上書之趣被仰出、其旨

申達ス

一 松平忠左衛門方九里彦輔ヲ以引込中

二候得共、逆上仕候二付、目代仕度旨相願候処

勝手次第之旨被仰出、其旨申達ス

一 善積平左衛門様願之通明朝方参宮

為仕旨届候

閏九月五日 早川権兵衛

榎田藤兵衛

一 御用左之通

△無滞相勤御満足

思召候、依之御先年御物頭

山村又藏跡被仰付候

席田中四郎右衛門次、御用人勤是迄之通

△無滞相勤御満足

思召候、依之御弓奉行 早川権兵衛

被仰付候、勤向是迄之通

△無滞相勤御満足

思召候、依之御長柄奉行

被仰付候、席早川

榎田藤兵衛

△無滞相勤御満足

思召候、依之御役人格被

仰付候、席金子次郎助次

御取ヅリ是迄之通

右於御書院次ノ間御家老生駒主水

申渡候、御組頭・御用人・御目付出席

一 達左之通

△御軍使・御使番御用捨被成候 榎田藤兵衛

御判物頭預り分此方懸りは迄之通

△毛見出在中非常之節 早川権兵衛

御郡奉行出坂心得被仰付置

候処、不及其儀候

△寄合之間■番被 仰付候 菊地幸之丞

依而裏御門鍵御預被成候

右於御料理之間御目付申達ス

一 今井左右藏御用二付、明朝方出京仕候旨届之

一 横田甚九郎・小久江平吾毛見出在中

非常之節、地方心得被仰付置候処、不及其儀

候旨、御目付方申達ス

写是迄

閏九月六日 九里八郎右衛門

榎田藤兵衛

- 一 德源寺江
御代香 生駒主水相勤
- 一 從江府表月次御便来ル
山中多助妻并小兒笹山方罷帰
候段届之
閏九月七日 冲次郎右衛門
榎田藤兵衛
- 一 同月八日 田辺與左衛門
榎田藤兵衛
- 一 閏九月九日 津田孝之助
榎田藤兵衛
- 一 同月十日 津田寛次郎
榎田藤兵衛
- 一 德源寺へ
御代香 生駒主水相勤
御隠居様 平山源右衛門
御代香 早川権兵衛
榎田藤兵衛
- 一 閏九月十一日 早川権兵衛
榎田藤兵衛
- 一 葛山六左衛門病氣快出勤之旨
届之
一 上田多左衛門不快引込中ニ付、名代
菊澤分左衛門ヲ以口上書差出ス
一 榎山源右衛門を以
左之通
△前嶋宗治姉貴請悻孫六後妻
仕度奉願候、末略ス
- 一 閏九月十二日 九里八郎右衛門
榎田藤兵衛
- 一 江府表へ月次御便被差立
前嶋宗治方両使吉池平大夫
友田寅之助を以口上書差出、左之通
△姉儀上田多左衛門貴請悻孫六妻
仕度相届候ニ付、差遣申度奉願候、末略
九月十三日 冲次郎右衛門
榎田藤兵衛
- 一 江間平右衛門妻今晚女子出生
仕候旨同人在番中ニ付、田中四郎右衛門方
届之
一 井上良左衛門方而使平山源右衛門
加納銀左衛門を以口上書差出左之通
△本多主水様御知行所多田村罷在候
上月六右衛門与申者娘貴請養子 ■■■
〔□□：□□〕
一 達左之通
素読教道方 金子次郎助
被成御用捨候
- 一 右於御料理之間御目付方申達之
一 上田多左衛門方差出候口上書之趣
御聞濟之旨被仰出、其旨使江申達ス
一 前嶋宗治方差出候願書之趣右同断
其旨申達ス
閏九月十四日 田辺与左衛門
- 一 井上良左衛門方差出候願書之趣御聞濟
其旨申達ス
一 津田要人伯母儀兼而笹山音家中方
罷帰り居候処、用弁相濟候ニ付、明朝方
差遣候段、要人在番中ニ付津田
要輔方届之
閏九月十五日 津田孝之助
榎田藤兵衛
- 一 飯田半蔵妻今朝出產男子出生
仕候、依之穢中引込候段届之
一 上田多左衛門方追入罷在候遠田助十郎
母儀、兼而病氣之处養生不相叶今晚
死去仕候段申越、母方之從弟之続ニ付
定式之
忌 閏九月十五日方 服 閏九月十五日方
同 廿七日迄 同月廿二日迄
右之通請之、忌中引込罷在候段届之
一 小嶋四郎兵衛参着之旨届之
一 御近習・御中小性・小役人迄御山之松茸
被成下
閏九月十六日 津田寛次郎
冲次郎右衛門
- 一 今朝方講釈相勤候事
一 從公儀御触書老通御家老中方被差出
候ニ付、御料理之間江差出置旨、一覽候様

諸向江申達之

依之穢中引込候段届之

一 久下林助方悴三右衛門妻并孫

一 善積平左衛門娘勢州方下向仕候段届之

一 上田多左衛門忌明二付出勤可仕

一 播州方昨夜罷歸り候段、御徒目付方

閏九月十七日 沖次郎右衛門

之処不快引込中二付、三輪五百次郎方

届之

早川權兵衛

届之

一 大槻唯七方昨夜婚姻相整候段

一 津田寛次郎方津田堅三郎・永田傳左衛門ヲ以

一 德源寺江

御徒目付方届之

両使願書差出左之通

御代香 生駒主水

閏九月廿四日 九里八郎右衛門

綾部御家中ニ罷在候縁者平和源太夫与申者

相勤

沖次郎右衛門

方江無抛用事御座候二付、罷越用弁仕度、依之

閏九月十九日

津田孝之助

一 大槻權九郎明朝方帰府仕候旨、御徒目付方

往来六日御暇奉願候、末略ス

沖次郎右衛門

届之

一 榎田藤兵衛方両使永田傳左衛門・菊地幸之丞

同月廿日

沖次郎右衛門

一 生駒主水方京極玄吉儀他国

ヲ以願書差出左之通

田辺與左衛門

致居候処、園部ニおいて昨廿三日

山家御家中ニ罷在候縁者稲田太郎左衛門

閏九月廿一日

津田孝之助

致死去候段、申越候旨届有之

与申者方江無抛用事御座候二付、六日之

沖次郎右衛門

閏九月廿五日 沖次郎右衛門

御暇奉願候、末略ス

一 大槻唯七昨夜後妻引取婚姻

榎田藤兵衛

一 右両人方差出候願書之趣御聞濟被 仰出

相整候段、御徒目付方届之

一 津田三郎助産穢明二付、出勤之旨

其旨申達ス

閏九月廿二日

九里八郎右衛門

届之

一 津田寛次郎願之通、明日方綾部御家中江

沖次郎右衛門

同月廿六日 沖次郎右衛門

罷越候段届之

一 飯田半蔵産穢明二付、出勤之旨届之

田辺与左衛門

一 榎田藤兵衛右同断明朝方山家御家中江

一 小嶋四郎兵衛講積濟二付、今日引取

一 於御米蔵御扶持方渡有之

罷越候段届之

候事

閏九月廿七日 津田三郎助

一 大槻權九郎御用二付、立歸り江戸表去ル

一 津田寛次郎綾部御家中方

沖次郎右衛門

六日出立東海道勢伊勢路旅行

罷歸り候段届之

一 於御米蔵御扶持方渡之

日積之通、着候旨届之

一 榎田藤兵衛山家御家中方罷歸

閏九月廿八日 津田寛次郎

閏九月十八日 九里八郎右衛門

候旨届之

沖次郎右衛門

沖次郎右衛門

閏九月廿三日

沖次郎右衛

同月廿九日

沖次郎右衛門

一 津田三郎助妻今朝出產男子出生仕候処

早川權兵衛

早川權兵衛

申渡之

△依御都合御作事奉行

被 仰付候 飯田新八郎

△依御都合御月代立入

被 仰付候 浅井次郎左衛門

右於御家老詰所生駒主水申渡之

御目付出席

△御代官年来無滯

相勤太儀之至 井上良左衛門

御満足思召候、依之御目録之通被成下候

御召上下 代金貳百足

右於御家老詰所生駒主水申渡

御目付出席

十月十七日 九里八郎右衛門

早川権兵衛

十月十八日 九里八郎右衛門

早川権兵衛

一 德源寺へ

御代香 生駒直規相勤

一 林新之助熱氣ニ而難渋仕候二付、引込

養生仕度候段届之

十月十九日 早川権兵衛

榎田藤兵衛

一 勝川次郎太夫方而使横山庄兵衛・小松原

左五兵衛を以願書差出、左之通

△悴省之助儀不法調者御座候処、結構被 召仕

被下難有仕合奉存候、然ル処不凶大病相煩以

御蔭腫々療用為仕、追々快方ニ者御座候得共

未出勤為仕候程ニも無御座、長々引込罷在奉

恐入候、最早御定之日数茂相過候二付勤筋被遊

御赦免被成下候様奉願候、末略ス

一 吉村又吉郎娘病氣養生不相叶

死去候旨、又吉郎在番中二付、葛山

六左衛門方届之

一 吉村角兵衛方孫女右同断、右者七歳

未滿二付、今一日遠慮候旨届

十月廿日 田邊與左衛門

早川権兵衛

一 吉村角兵衛遠慮明、出勤之旨届之

一 八ツ時御用左之通

△其方儀平生身持 林新之助

不宜、其上家中不取、名代

之趣相聞如何之心得 荻野廊太郎

二候哉、依之退身被 仰付候

猶家督之儀者追而可被及

御沙汰家引為取続、七人扶持被差渡候

右於御家老生駒主水宅申渡之

御組頭・御用人・御目付出席

一 荻野廊太郎方名代九里彦輔を以

林新之助へ被 仰渡之趣奉恐入候、依之

差控相伺候処、不及其儀候旨被 仰出候

則名代へ其旨御目付方申達之

一 右同人差控不及其儀候旨被仰出

候二付、出勤之旨届之

十月廿一日 津田孝之助

早川権兵衛

一 達左之通

△從御都合当分

御作事奉行

申渡之

△依御都合御作事奉行

被 仰付候 飯田新八郎

△依御都合御月代立入

被 仰付候 浅井次郎左衛門

右於御家老詰所生駒主水申渡之

御目付出席

一 達左之通

△依御都合御作事奉行

不及其儀候 浅井次郎左衛門

右於御料理之間御目付申達之

十月十六日 沖次郎右衛門

早川権兵衛

一 吉村由兵衛方山村喜平治・小松原郡太ヲ以

願書差出左之通

△私拝借之御長屋段々及大破、最早此節

住居難相成難渋仕候、何卒相応之地所

被成下候ハ、縁者共致セ話欠成居宅取詰呉候

可申段申聞候、依之双方ニ而茂被成下候様奉願

候、末略ス

一 今朝五ツ時方論語、八ツ時方小学講釈有之

一 達左之通

△依御都合御代官 井上良左衛門

被成御用捨候

右於御料理之間音目付申達之

一 御用左之通

心得被 仰付候 飯田半藏

尚御取^レ申談可被相勤候

△從御都合御作事 飯田新八郎

奉行被成御用捨候

右於御料理之間御目付申達之

十月廿二日 冲次郎右衛門

早川権兵衛

津田寛次郎

早川権兵衛

一 達左之通

△当分御組頭心得 伊藤五左衛門

被 仰付候

右於御料理之間御目付申達之

一 德源寺江

御隠居様 御代香 津田孝之助

十月廿四日 九里八郎右衛門

早川権兵衛

一 緒川六之進服合不相勝候二付、引籠養生

致度旨届之

一 緒川六之進方^{御徒目付}用使平井嘉作・大槻只七

ヲ以願書差出左之通

不調法之私儀段々以 御慈悲結構被

召仕被下難有仕合奉存候、然ル処此度大病

相煩以 御蔭種々養生仕候得共相勝不

申、本服可仕躰無御座候間、長谷順治

次男駒次郎与申者賀養子ニ賞請候而

娘江婚姻為整度奉願候、被遊

御赦免被下候ハ、難有奉存候、末略ス

一 長谷順治方御徒目付平井嘉作・竹河

権六ヲ以両使願書差出、左之通

△緒川六之進病氣之処、段々不相勝候二付

一 次男駒次郎賀養子賞請申度段

相望候二付、差遣申度奉願候、被遊

御赦免被下候ハ、難有奉存候、末略ス

一 右兩人共願之通御免

一 長谷順治方願之通、次男駒次郎儀緒川

六之進方江差遣候旨届之

一 緒川六之進方養子駒次郎願之通、今日

引取候旨引込中二付、大槻只七方届之

一 緒川六之進方御徒目付平井嘉作・大槻

只七両使ヲ以願書差出左之通

不調法之私儀段々以 御慈悲結構被

召仕被下負様至極難有仕合奉存候、然ル処

此度大病相煩以 御蔭種々療用仕候得共

追々■重快氣之程難計、万一死去仕候者

家内之者及謁命不申様并養子駒次郎

■■■■被召仕■■候者永為奉■■

御厚恩度奉願候、末略ス

十月廿五日 早川権兵衛

榎田藤兵衛

一 緒川六之進病氣養生不相叶今曉

死去仕候段、上月久右衛門方御徒目付へ届之

一 村田嘉内方右同人死去仕候二付、兄之続之

処養子之訳二而、半減之忌服

忌 十月廿五日方 服 十月廿五日方

十一月五日迄 十二月十日迄

一 佐敷佐工間方右同人死去候処、從弟

之続二付定式之

忌 十月十五日方 服 十月廿五日方

同 廿七日迄 十一月二日迄

右之通請之忌中引籠候段、御徒

目付方届之

一 佐敷孫兵衛方右同人死去仕候処、右者

養方甥之続二付定式之

忌 十月廿五日方 服 十月廿五日方

同 廿七日迄 十一月二日迄

右之通請之忌中引籠罷在

候段届之

一 德源寺方使僧を以去月於京都

改衣無滞相濟、今日歸寺之旨

御取次江被申置候旨承之

十月廿六日

一 御米藏ニおいて、御扶持方渡有之

一 中原完左衛門悴病氣之処養生

不相叶今午刻死去仕候、未七歳

未滿二御座候間、今一日之致遠慮致候段

届之

十月廿七日 津田孝之助

早川權兵衛

之旨頭方承之

御徒目付方届之

- 一 於御米藏御扶持方渡有之
- 一 中原完左衛門方名代平野吉左衛門を以
- 一 昨日小兒死去仕候処、御届日数之義相違仕恐入奉存候、依之差控伺候処、不及其儀候旨被 仰出、則其旨使へ御目付方申達之
- 一 右同人差控不及其儀候二付、出勤可仕之処、引込中二付平野吉左衛門方届之
- 一 中原完左衛門方悴病氣之処養生
- 一 不相叶昨日死去、未七歳未滿二付、三日之遠慮仕候段届之
- 一 佐敷孫兵衛忌明二付、出勤之旨届之
- 一 佐敷佐工間忌明二付、出勤之旨御徒目付方届之
- 十月廿八日 冲次郎右衛門
- 一 德源寺桂峯和尚去月改衣相濟候
- 一 二付、伺 御機嫌御礼旁御口上被仰出候事
- 一 達左之通
- △依御都合当分御下台所
- 炭薪方被 仰付候 藪鹿五郎
- 右御徒目付方申達之
- 一 右同人神文御徒目付見届之
- 一 九里八郎右衛門組下足立助四郎病死
- 一 十月廿九日 津田寛次郎
- 一 德源寺へ 早川權兵衛
- 御代香 生駒主水相勤
- 一 中原完左衛門方遠慮明二付、出勤之旨病氣引込中付、平野吉左衛門方届之
- 十一月朔日 九里八郎右衛門
- 早川權兵衛
- 一 德源寺へ 御代香 生駒直規相勤
- 御隱居様 御代香 津田寛次郎
- 一 松原忠左衛門足痛快出勤之旨届之
- 一 山脇傳兵衛御内用二付、出坂之旨届之
- 十一月二日 九里八郎右衛門
- 榎田藤兵衛
- 一 西田清兵衛方一使山村喜平治を以口上書差出左之通
- △田原辰次郎儀十三才二罷成候二付、袖留為仕度奉願候、末略ス
- 一 四ツ時会所所有之
- 十一月三日 九里八郎右衛門
- 田辺與左衛門
- 一 德源寺へ 御代香 生駒主水相勤
- 一 松好三平服合不相勝候二付、引込候段
- 一 西田清兵衛方差出候口上書之趣御聞
- 一 濟之旨被 仰出、則御徒目付方申達之
- 一 御郡奉行田中四郎右衛門宅二而免状渡有之、毛見出在有之
- 御目付横山庄兵衛出席
- 十一月四日 津田孝之助
- 一 田原辰之助袖留為仕候段、西田清兵衛方御徒目付方届之
- 十一月五日 九里八郎右衛門
- 冲次郎右衛門
- 一 惣持院様御祥月二付
- 御代香 冲次郎右衛門
- 一 江戸表へ献上宰領御足輕西村善五兵衛明朝方立出之旨御物頭方承之
- 十一月六日 津田寛次郎
- 九里八郎右衛門
- 一 德源寺へ 御代香 生駒直規相勤
- 一 村田嘉内忌明二付、出勤之旨御徒目付方届之
- 十一月七日 九里八郎右衛門
- 早川權兵衛
- 一 井上良左衛門兼而願之通悴縁女
- 明晚引取候旨届之
- 十一月八日 九里八郎右衛門

榎田藤兵衛

十一月九日

九里八郎右衛門

田辺與左衛門

一 井上良左衛門伴之丞縁女引取

婚姻相整候旨届之

一 江戸表方去月六日出之月并御便

到来

十一月十日

津田孝之助

九里八郎右衛門

一 徳源寺へ

御代香

生駒主水相勤

御隠居様

御代香

津田堅三郎

一 大槻唯七胸痛ニ而難洪仕候ニ付、引込

養生仕度段、御徒目付方届之

写是迄

十一月十一日

九里八郎右衛門

沖次郎右衛門

十一月十二日

津田寛次郎

九里八郎右衛門

十三日分

一 永田傳左衛門方両使浅井次郎左衛門

飯田半蔵を以口上書差出、左之通

△山室又蔵儀兼々養子奉願候様被 仰付

難有仕合奉存候、右ニ付九鬼式部少輔

様御家老■平島孫六与申者之次男太蔵

賞請養女江智養子仕永為奉報

御高恩度養母儀幼少御座候旨、往々婚姻

為相整度奉願候、末略ス

平井嘉作方山村喜平治ヲ以願書

差出左之通

△妻儀年来病身罷在候処、寒氣之節

別而相勝不申難洪仕候付、里元へ為養

生暫之逗留ニ而差遣申度奉願候

一 右願通、即刻 御免則御徒目付方

其旨申達ス

一 右同人願之通、明朝方差遣候段、御徒目付方

届之

十一月十三日

九里八郎右衛門

早川権兵衛

一 善積平左衛門方一使浅井次郎右衛門

を以願書差出左之通

一

一

一

一

十一月十四日

九里八郎右衛門

榎田藤兵衛

一 徳源寺圭室和尚先達而改衣濟ニ付、以

御使者左之通差遣候 昆布百疋 一箱

(□□:□□)

一 御隠居様方 昆布式百疋 一箱

右御使者榎田藤兵衛相勤之

十一月十五日

九里八郎右衛門

田辺與左衛門

一 江戸表へ月次御便被差立

一 永田傳左衛門方差出候願書之趣御聞

濟之旨被 仰出、則其旨御目付方

使江申達之

十一月十六日

津田孝之助

一 九里彦輔妻出産男子出生依之

穢中引籠候旨届之

一 善積平左衛門方差出候願書之趣御聞

濟之旨被 仰出、則其旨御目付へ

申達之

十一月十七日

田辺與左衛門

早川権兵衛

一 九ツ時弓の御代覽有之

一 御用左之通

一 △弓術出情候ニ付、御目六之通

被成下

生駒直規

弦代金百疋

△同断

榎田藤兵衛

弦代同

右於御家老詰所月番生駒主水

申渡之、御目付出席

矢取ニ罷出候者共へ被成下、左之通

御酒代

札老奴

廣沢寅之助

榎田藤兵衛

山脇傳兵衛御内用相濟、大坂方罷歸り

足立源之助

一 渡辺助右衛門方へ養子勇吾昨夜引取

五分

手はこび

候旨、御徒目付方承之

十一月廿二日

津田孝之助

御手廻り

一 平野吉左衛門種^{（まご）}物氣二付、致難渋引籠候段

田辺與左衛門

右御徒目付方申渡之

届之

一 菊沢文左衛門悴掛馬義兼而願之通

十一月十八日

津田寛次郎

一 九ツ時揃二而御代覽有之

一 明晚養女与婚姻為相整候旨届之

田辺與左衛門

一 御用左之通

一 菊沢掛馬方右同断之旨届之

一 德源寺江 御代香

生駒主水相勤候

△鑓術一統出情二付

九里八郎右衛門

一 足立五郎太夫方悴五郎助儀後妻、願之通

一 九ツ時揃二而当流兵法御代覽有之

御目録之通被成下候

一 明晚引取婚姻為相整候段、取次方届之

一 御用左之通

金百疋

一 四ツ時半揃二而御足輕・同心帯刀之者は

△鑓術一統出情二付

榎田藤兵衛

右於御家老詰所生駒主水申

一 役芸御家老中見分二付、御組頭

御目六之通被成下候

渡之、御目付出席

御物頭・御用人・御目付出席、右相濟直様

金百疋

十一月廿一日

九里八郎右衛門

一 於場所物頭御礼申上之

右於御家老詰所月番生駒主水

一 高源寺以使僧寒中伺 御機嫌

△組之者一統役芸致世話

申渡之、御目付出席

一 罷出并■粉袋差上候旨寺社奉行方

遣候段太儀之至候、依之御目六 藤本正次郎

十一月十九日

田辺與左衛門

承之

之通被成下候

早川権兵衛

一 今井左右藏妻儀不応家風候二付

一 大槻唯七不快快出勤之旨御徒目付方

銀貳両

及離縁候旨、御徒目付方届之

届之

右於御用人詰所月番申渡、御目付出席

一 九ツ時揃二而首座流御代覽有之

一 九ツ時揃二而大鳴流 御代覽有之

御徒目付加座

一 御用左之通

一 御用左之通

一 御足輕三組同心并帯刀之者役芸出

△鑓術一統出情二付 加納銀左衛門

△鑓術一統出情二付 菊沢文左衛門

精二付、御家老中見分相濟為御酒代

御目六之通被成下候、金百疋

御目録之通被成下候

左之通被成下候

右於御家老詰所月番生駒主水

金百疋

三貫文 三組御足輕同心并

申渡之、御目付出席

右於御家老詰所生駒主水

帯刀之者

十一月廿日 田辺與左衛門

申渡之、御目付出席

右之通被成下候旨、御物頭方承之

十一月廿三日

沖次郎右衛門

関枚之助与申者罷越、今一日逗留為仕候旨

十一月廿七日

九里八郎右衛門

田辺与左衛門

要人在番中二付藤田権左衛門方届之

田辺與左衛門

御用左之通

生駒直規方妻出產女子出生之旨届之、則

於御米藏御扶持方渡有之、平山源右衛門

△御足輕役芸世話骨折

添書ヲ以御家老中江申達之

出席

候二付、御目錄之通被成下候 藤本八藏

十一月廿五日 田辺與左衛門

田中四郎右衛門御内用二付、明朝方出坂之旨

銀老尙

早川権兵衛

届之

右於御用人詰所田辺與左衛門申渡之

坂口善兵衛方之男客今朝罷歸り候旨

小役人之面々縁女引取候節、途中方不快之趣二而

御目付出席、御徒目付加座

御徒目付方届之

御曲輪内駕二乗せ引取度旨相断候、向茂有之

達左之通

今井左右藏就御用明朝方出坂仕候旨届之

候得共、向後急度不相成候間、差掛り不快二候ハ、

△右同断二付

中島吾助

山室又藏養子左織昨夜引取候段永田

全快之上引取候様可致候

銀老尙

傳左衛門方届之

右之趣被 仰出候二付、則御徒目付江申達ス

永田傳左衛門方兼而奉願候山室又藏

十一月廿六日 田辺與左衛門

十一月廿八日

津田孝之助

養子明廿四日引取候旨届之

榎田藤兵衛

田辺與左衛門

九里彦輔産穢明二付、出勤之旨届之

友田寅之助風邪快月代仕候旨、御徒目付方

松好三平方両使長谷順治・山村喜平治ヲ以

德源寺圭室和尚笹山へ暫之逗留

届之

長谷順治・平井善作ヲ以

願書差出左之通

二而御越之旨田中半兵衛方承之

脇田直左衛門方両使願書差出左之通

△不調法之私儀結構被召仕冥加難有仕合奉存候、

十一月廿四日

津田寛次郎

奉願口上覚

然ル処此度大病相煩候 御蔭種々療用仕候得共

足立五郎助方兼而親共方相願候通、昨夜婚姻

△善積平左衛門養子又之丞与申者貴請賀

全快之程無覚来御座候二付、万一死去仕候得家

相整候段届之

養子仕度奉願候、末略ス

内之者不及謁命様忝仁平如何躰二茂被召仕

菊沢文左衛門方忝掛馬儀昨夜養女与婚姻

菊沢文左衛門方江兼而笹山御家中縁者

永為報 御厚恩度奉願候、末略ス

仕候旨届之

方方参居候小兒来月中茂逗留為仕候旨

長谷順治方松好三平儀兼而病氣之処

菊沢掛馬方右同断届之

届之

養生不相叶、致死去候段御徒目付方届之

足立五郎太夫方忝五郎助後妻昨夜婚姻仕候旨

於御米藏御扶持方渡有之、横山庄兵衛

脇田猶左衛門方松好三平病氣之処

取次方届之

出席

養生不相叶死去仕候而、弟之続二御座候間

津田要人方江宮津御家中罷在候縁者

田中半兵衛方届之

半減之

津田要人方江宮津御家中罷在候縁者

田中半兵衛方届之

忌 十一月廿八日 服 十一月廿八日

十二月七日迄 正月十二日

十一月晦日

津田寛次郎

榎田藤兵衛

右之受之忌中引込候段、御徒目付方届之

德源寺へ 御代香

田辺與左衛門

井上良左衛門病氣ニ而足痛難渋ニ付

足立五郎大夫方右同断ニ付、忌中引込

生駒主水相勤

津田孝之助

引込養生仕度候段届之

候段取次方届之

十二月朔日

早川権兵衛

田中半兵衛遠慮明ニ付、出勤之旨届之

一 足立五郎助方右同断叔父之続ニ付、他家

一 生駒直規産穢御免ニ付、出勤之旨

一 山脇傳兵衛御内用ニ付、明朝方出坂之旨

相続訊ニ而半減之

届之

届之

届之

忌 十一月廿八日方 服 十一月廿八日方

一 德源寺へ

十二月三日

津田孝之助

二月七日迄

正月廿一日迄

一 德源寺へ

御代香

生駒主水

右之通受之忌中引込候段、御徒目付方届之

御代香

生駒直規相勤

一 德源寺へ 御代香

生駒主水

一 小松原郡太方右同断養母方叔父之

一 昨日相触候通、内御役人以上四ツ時出仕

一 小松原郡太忌明ニ付、出勤之旨御徒目付方

続ニ御座候处、三平他家相続之訊ニ付

於御家老詰所寒中伺

届之

半減之

御機嫌申上之、月番御家老謁之

届之

忌 十一月廿八日方 服 十一月廿八日方

一 表御役人・御給人・御近習・外様・御中小性之

十二月四日 津田孝之助

三月二日迄

十二月十二日迄

一 面々支配頭月番宅へ罷越帳面ニ相記

田辺與左衛門

右之通請之忌中引籠候段、御徒目付方

一 達左之通

同月五日

津田孝之助

届之

老年ニ付泊り番

菊沢文左衛門

冲次郎右衛門

一 高山猪能太郎兼而願之通為執前髪候趣

被成御用捨候

一 小豆宰領・御足輕西村善五兵衛去月

五百理在番中ニ付、冲次郎右衛門方届之

右於御料理之間御目付より申達之

廿三日江戸表出立日読之通着

十一月廿九日

冲次郎右衛門

一 田中半兵衛方京都ニ罷在候次男三宅

十二月六日 津田孝之助

田辺与左衛門

左近府生儀病氣之处、養生不相叶

冲次郎右衛門

一 德源寺へ

去月十七日死去之旨申越候、依之定式之

一 德源寺へ

御代香 生駒直規相勤

忌 十一月十七日方 服 十一月十七日方

同 廿七日迄

御代香 生駒主水相勤

御隠居様

田中半兵衛

同 廿七日迄

十二月十六日迄

一 織田太郎右衛門殿以来御両敬被 仰付候

脇田猶左衛門差出候願書之趣御聞濟

右之通請之引込申候处、日数相濟

則其旨席々江申達之小役人江者

被 仰出、則其旨使へ御徒目付方申達之

候ニ付、十二日之遠慮引込候旨届之

御徒目付方相達之

十二月二日

津田孝之助

一 達左之通

△依御都合当分表御納戸心得

被 仰付候 伊藤五左衛門

右於御料理之間御目付方申達之

一 小松原郡太・渡辺三太夫方志村左五右衛門母

兼而病氣之处養生不相叶今午ノ

下刻致死去候、依而定式之

忌 十二月六日方 服 十二月六日方

正月廿六日迄 辰ノ十二月中

野口彦六方志村左五右衛門母右同断ニ付

父方伯母之続ニ御座候、依之定式之

忌 十二月六日方 服 十二月六日方

同月廿五日迄 辰ノ三月六日迄

一 矢嶋廣助方右同断ニ候得共、他家相続

之訊ニ而半減之

忌 十二月六日方 服 十二月六日方

同月十五日迄 辰正月廿一日迄

右之通受之何茂忌中之引籠候段、御徒目付方

届之

十二月七日 津田孝之助

早川権兵衛

同月八日 津田孝之助

榎田藤兵衛

一 御用左之通

△来年頭御年男被

仰付候、依而被成御祝

御目錄之通被成下候

沖次郎右衛門

御召上下

右於御家老詰所月番生駒主水

申渡之御目付出席

△来年頭^{御勝手}年男被

仰付候、依而被成御祝 伊藤五左衛門

御目錄之通被成下候

銀式両

右於御組頭詰所月番申渡之、御目付

出席

一 脇田猶左衛門・足立五郎助忌明ニ付、出勤

之旨御徒目付方届之

十二月九日 津田孝之助

九里八郎右衛門

一 西之坊願皇寺寒中為伺 御機嫌

出仕候旨、御取次方承之

一 江戸表方去月廿八日出之御便到来

一 冬林院様 御代香 生駒直規相勤

十二月十日 津田孝之助

田辺與左衛門

十二月十日 津田孝之助

田辺与左衛門

一 徳源寺へ 御代香 生駒直規則相勤

一 御隠居様 御代香 右同人

一 飯田新八郎風邪氣ニ而長髪御断之旨届之

一 善積平左衛門方兼而願之通養子明晚引取

直様脇田猶左衛門方江差遣候段、届之

一 脇田猶左衛門方兼而願之通養子又之丞

明晚引取、娘与婚姻為相整候旨、届之

十二月十一日 津田孝之助

沖次郎右衛門

同 十二月 津田孝之助

早川権兵衛

一 脇田猶左衛門方養子昨夜引取娘与婚姻

為相整候段、届之

一 榎田藤兵衛方播州小野御家中ニ罷在候

黒石丹下与申者之母病氣之处、養生

不相叶昨十一日死去之段申越、右者実母方

伯母之続之处、養子之訊ニ而半減之

忌 十二月十二日方 服 十二月十二日方

同 十五日迄 同 廿五日迄

右之通受之忌中引込罷在候段届之

十二月十三日 津田孝之助

早川権兵衛

一 如御吉例音煤弘有之

一 飯田新八郎風邪快月代剃候段届之

一 江間平右衛門就御内用ニ付、去ル朝日江戸表

出立東海道伊勢路旅行着之旨届之

十二月十四日 津田孝之助

津田寛次郎

一 永田傳左衛門風邪快月代剃候段届之

一 明十五日夜方御給人廻り之儀申達ス

十二月十五日 津田孝之助

九里八郎右衛門

△依御都合表御納戸 平野吉左衛門

△小頭差支二付、当分 松本此右衛門

一 江間平右衛門被差登從

被成御用捨候

助勤被仰付候

西殿様御尋之 御意御組頭・御用人

右於御料理之間御目付申達ス

△当分札所詰被

西田清兵衛

於詰所同人申達ス、御役人於御料理之間申達ス
右御札於御家老詰所月番謁之一 井上良左衛門方御目付永田傳左衛門ヲ以一使口上
書差出ス、左之通

右御徒目付方申達之

一 御用左之通

私儀追々勤筋 御赦免隠居之儀

一 從公儀御触書被差出於御料理之間一覽

△此度京都御所司代酒井若狭守様

奉願候処、御差留被成下難有仕合奉存候

一 候様申達ス、小役人以下江者御徒目付方申達ス

為御引渡御老中

然ル処、段々物覚等薄相成候二付、勤筋

一 昨日相達候通、何茂八ツ時出仕屋具指相勤

牧野備前守様御上京

御赦免隠居被仰付被下候様奉願候

一 為節分御祝儀御役人以上并御側御給人

之節、御使番御差支二付御使者被 仰付候

一 菊沢文左衛門方永田傳左衛門ヲ以

一 御近習格迄御年限中七ツ半時出仕豆打

檜比合之義者御勤方ニ而申談可被相勤候

文言右同断

一 相濟、内御役人以上於御家老詰所節分

右於御家老詰所月番生駒主水申渡之

一 上田多左衛門方右同断ヲ以

之御祝儀申上御家老月番謁之

御目付出席

文言右同断

一 御側御給人・御近習格迄於御料理之間右同断

一 江間平右衛門御内用相濟候二付、今昼後方出

一 上田多左衛門方名代菊沢文左衛門ヲ以逆上

立仕候段届之

仕候二付、目代仕并近所歩行仕度旨相伺

一 申上、御家老・御組頭謁之
十二月十八日 津田寛次郎

一 矢嶋廣助・野口彦六忌御免二付、出勤

候処、勝手次第之旨被仰出、其旨申達之

一 十二月十七日 冲次郎右衛門 榎田藤兵衛

之届之

十二月十七日 冲次郎右衛門

一 徳源寺江 御代香 生駒直規相勤

一 小松原郡太・渡辺三太夫右同断二付、出勤之旨

榎田藤兵衛

一 加納銀左衛門方吉村角兵衛兼而病氣之処

御徒目付方届之

一 於御米蔵御扶持方渡有之

一 養生不相叶致死去候段届之

一 緒川駒次郎忌明二付仕候段、幼少二付

一 御用左之通

一 江戸表江年内納御便被差立

林田喜内方届之

△緒川駒次郎幼少二付 猪川駒次郎

一 佐敷孫兵衛方悴佐工間妻儀不熟二付

十二月十六日 田辺与左衛門

三人扶持被成下、十五才 親類

離縁仕候旨届之

榎田藤兵衛

相成候へハ可申出候 林田喜内

一 十二月十九日 早川権兵衛

一 榎田藤兵衛忌明二付、出勤之旨届之

右於御用人詰所月番榎田藤兵衛

一 昨日被成下御祓之御札一統方申上 榎田藤兵衛

一 於御米蔵御扶持方渡有之

申渡御目付出席

一 小山久太夫・坂口善兵衛方菊澤新六ヲ以一使

一 達左之通

一 達左之通

一 小山久太夫・坂口善兵衛方菊澤新六ヲ以一使

口上書差出左之通

私儀追々勤筋 御赦免并隠居

之儀奉願候処被成下御差留難有

奉存候、然ル処次第物覚等薄相成

候二付、勤筋 御赦免隠居被 仰付

被下候様奉願候

一 林田喜内方菊沢新六ヲ以一使口上書差出

左之通

緒川駒次郎母儀福知山御家中

罷在候里元江小女召連無拋用事

御座候二付、暫之逗留二而差遣申度

則駒次郎幼年二付、私方奉願候

一 長谷順治方右同断

緒川駒次郎母儀福知山御家中

里元江無拋用事御座候二付、罷越候

留守中叔母并駒次郎預呉候様

申聞候二付、任其意申度奉願候

十二月廿日 津田孝之助

榎田藤兵衛

一 昨日被成下御被之御札一統申上之

一 長谷順治・村田喜内口上書之趣

御免之旨被 仰出、則其旨御徒目付方申達之

十二月廿一日 九里八郎右衛門

榎田藤兵衛

一 林田喜内方願之通、緒川駒次郎母小女

召連昨日方福知山御家中里元差遣

候旨御徒目付方届之

一 長谷順治方願之通緒川駒次郎并叔母

今日方私方へ預り候旨御徒目付方届之

一 御足輕志村左五右衛門悴勝之助面扶持定番

勤被 仰出、則其旨御物頭方届之

一 素読出情之小児江為御褒美例之通

請書紙被成下於御廊下御目付列座

申達之

一 達左之通

△素読教導方被相勤候二付 林正三郎

御目錄之通被成下 荻野廊太郎

金百疋ツゝ

飯田半藏

三輪五百次郎

岡田音也

大野東馬

右於御料理之間御目付方申達之

一定番九人江素読方世話仕候二付、鳥目

百文ツゝ被成下之

十二月廿二日 沖次郎右衛門

榎田藤兵衛

一 中原完左衛門不快引込二付、名代伊藤

五左衛門ヲ以兼而播州和田村江差遣置

候弟宗五郎来年中茂逗留為仕

置候段、届之

十二月廿三日 田辺與左衛門

榎田藤兵衛

一 渡辺助左衛門養子勇吾不熟二付離縁

仕候間、御徒目付方届之

一 荒木藤右衛門在番二付、名代浅井

次郎左衛門方柏家婦人両人兼而播州

粟生村へ差遣置候所、来年中も逗留

為仕候旨、届之

一 前川與次兵衛方京都施薬院御内へ罷在候

養母方之伯父前川八郎右衛門与申者

病氣養生不相叶、死去之旨申越

依之定式

忌 十二月十九日方 服 十二月十九日方

同 廿八日迄 来正月十九日迄

右之通受之忌中引籠罷在候段

届之

十二月廿四日 津田寛次郎

榎田藤兵衛

一 松原左五兵衛方兼而城州八幡山門於伽井場二

罷在候小林惣兵衛方へ差遣置娘来年

中也逗留為仕候旨届之

十二月廿五日 早川権兵衛

榎田藤兵衛

一 田中四郎右衛門御内用濟二付、大坂方引取

候処、遠慮二付名代早川権兵衛方届

一 田中四郎右衛門方京都二罷在候三宅左近府

生儀兼而病氣之処、養生不相叶去月

十七日致死去、右者他家相續二付半減之

来正月廿八日迄 五月廿八日迄

太儀之至、御満足思召候 津田堅三郎

忌 十一月十七日方 服 十一月十七日方

右之通請之忌中引込候段届之

依之御目録之通被成下候

同月 廿六日迄 来正月二日迄

十二月廿八日 田辺與左衛門

銀老枚

右之通請之可引込候処、日教相過候二付

為歳暮御祝儀御中小姓已上五ツ時出仕

△弓術世話出情之趣被成

同日遠慮罷在候旨届之

内御役人以上御家老於詰所御役儀申

御承知御満足思召候、依之

山脇傳左衛衛御内用相濟候二付、大坂方

上之、年番生駒主水謁之

乍聊為御樽代御目録之通 生駒直規

只今罷歸り候段届之

表御役人・御給人・御近習・外様・御中小姓

被成下候

田中四郎右衛門遠慮御免二付、出勤之旨

之面々於御使者之間右同断申上之

△鎗術世話出情之趣被成 九里八郎右衛門

届之

御家老・御組頭謁之

御承知御満足思召候、依之

御徒目付方情勤書差出御用人・御目付

御目付預り之独礼於御料理之間

乍聊為御樽代御目録之通被成下候

至合披之、御家老詰所二而兩人罷出

御目付謁之

御元方出情被相勤万事 御樽代金百疋

月番へ差出之

御徒士之面々於同所御徒士頭謁之

御都合能太儀之至御満足 田中四郎右衛門

一 今井左右藏大坂方罷歸り候段、御徒目付方

津田要人叔母笹山御家中へ差遣

思召候、依之御目録之通被成下候

届之

候処、来年中茂逗留為仕候段、要人

銀二枚

一 林田喜内・緒川駒次郎母并小女来年

生駒直規方姉姫路御家中遣置候処

△弓術・炮術・劔術世話出情之趣

一 中茂福知山江遣置候段、御徒目付方届之

来年中も逗留為仕候旨届之

被成御承知御満足思召候、依之

一 長谷順治方右同人家内同断預置

平野吉左衛門種物快出勤仕候段届之

乍聊御目録之通被成下候 御樽代金百疋

候段届之

達左之通

御承知御満足思召候、依之

一 平井家作妻来年中も里元へ

△悴省之助病氣二付

御承知御満足思召候、依之

遣置候段、御徒目付方届之

勤筋 御赦免願之通達 勝川次郎太夫

△素読方出席取扱出情

十二月廿六日 津田孝之助

御聴候処、心■二保養為仕

被相勤太儀之至、御満足思召候 松原忠左衛門

十二月廿八日分 榎田藤兵衛

候様被仰出候

乍聊御目録之通 磯野長左衛門

十二月廿八日分

右於御料理之間御目付方申達之

御樽代金百疋宛 永田傳左衛門

一 浅井次郎右衛門祖母兼而病氣之処

御用左之通

御承知御満足思召候、依之

一 養生不相叶死去二付、定式候

御用左之通

御承知御満足思召候、依之

忌 十二月廿七日方 服 十二月廿七日方

△御勘定奉行出情被相勤

御承知御満足思召候、依之

候二付、御目六之通 足立五郎太夫

別段致稽古骨折取立候二付、御目六之通被成候

銀式兩

被成下候

濱路惣次郎

銀式兩

△馬術出情二付、御目六之通

米五斗ツゝ

須左見永作

△札所御出情二付 御意

松本此右衛門

之通

吉池平八郎

△御元方下役出情相勤

竹河権六

御意

上月久右衛門

二付同断

今井左右藏

佐敷孫兵衛左工馬

△裏御門出情二付

裏御門番一統

米五斗ツゝ

濱路惣次郎

渡辺三太夫

銀五兩

△札所出情相勤候二付

笹川泰次郎

△御破損方出情相勤二付

中井弥惣太

右於御用人詰所月番榎田藤兵衛

同断被成下候

金百疋

銀壹兩付

申渡之、御目付出席、御徒士頭出席

米五斗 掛屋方二付

横田甚九郎

別段御勘定向骨折相勤候二付

御徒目付取次加座

△御勘定所下役出情相勤

小林叶

同式兩

中井弥惣太

△御大工無滞相勤候二付

中嶋吾助

候二付、御目六之通

被成下候

△御大工出情相勤候二付

森田勘助

御目六之通、被成下候

銀壹兩

被成下候

別段当秋風破後格別出情相勤候二付

前嶋宗治

当秋風破後格別骨折候二付

銀 式兩

米五斗ツゝ

△御用所子供相勤候二付

友田■之助

右御徒目付方申達之

△御小人頭出情相勤

野口彦六

銀式兩ツゝ

井上伴之丞

△弓的矢取役二付

田原辰次郎

候二付

藤本正次郎

銀壹兩ツゝ

伊藤五郎作

鳥目四百文

△御下台所出情相勤

藪 鹿五郎

友田■之助

善積廣太郎

大槻茂吉

太儀之至、依而御目六

小松原郡太

伊藤五郎作

善積廣太郎

長谷川友治

之通被成下候

池畑裕次郎

伊藤五郎作

善積廣太郎

廣沢寅之助

銀式兩ツゝ

足立源之助

池畑裕次郎

伊藤五郎作

足立源之助

△小頭助役出情相勤

吉村由兵衛

△別段御心附被成下候

伊藤五郎作

沖田米吉

二付、御目六之通

善積廣太郎

御目六之通

伊藤五郎作

升田多藏

米五斗

池田嘉吉

御目六之通

善積廣太郎

池田嘉吉

△柔術取立出情

藤本正次郎

米壹石ツゝ

米田紋之丞

△■番出情二付

二付、御目六之通

相勤二付、御目六之通

△御祐筆方助出情

平岡政右衛門

△右同断二付

田原辰次郎

銀壹兩

廣沢寅之助

相勤二付、御目六之通

百五十文ツゝ

廣沢寅之助

銀壹兩

田原辰次郎

相勤二付、御目六之通

△右同断二付

田原辰次郎

- 百文ツゝ
大槻茂吉
表御役人・御給人之面々於御使者之間
長谷川友治
御歎申上之、月番謁之
升田多蔵
但シ御触書拜上之
志村勝之助
御近習・外様・御中小姓面々右於 同所
池田嘉吉
御歎申上之、御組頭謁之
田原辰次郎
小役人・御徒士之面々御歎申上ル、支配々
謁之
△別段為御心附
大槻茂吉
但右御歎支配々宅江廻勤之事
札三拾匁ツゝ
長谷川友治
右御徒目付方申達之
德源寺右同断御歎御出仕有之事
一 德源寺へ
一 江府表方御勤方御用便到来
一 浅井次郎左衛門忌 御免ニ付、出勤之旨届之
一 来年頭出仕刻限年歴御書付御家
一 前川與治兵衛忌明ニ付、出勤之旨届之
一 老中方被差出候ニ付、一覽候様席々江申達之
一 津田要輔妻今朝出産女子出生
一 小役人以下江者御徒目付江申達候
一 二付、穢中引込候段届之
十二月廿九日 冲次郎右衛門
一 靄田恂悦胸痛ニ付、引込養生仕度
榎田藤兵衛
段届之
一 子守純之助風邪ニ付、引込候段届之
一 御先年冲次郎右衛門御弓奉行早川
御隠居様
權兵衛御長物奉行榎田藤兵衛江御預り
御代香 早川権兵衛
之武器帳面於御家老詰所月番
同寺へ 御備 御使者
生駒主水差渡之、御目付出席
御組頭
一 御年男兩人麻上下着用五ツ時出仕
津田寛次郎
御勝懸候
一 本覚寺へ右同断
御代香 御目付 平山源右衛門
一 昨日相触候通、四ツ時惣出仕内御役人已上
於御家老詰所御歎申上ル、月番謁之

丹波市オンデマンド史料叢書 1

天保十四癸卯年日記 (丹波市立柏原歴史民俗資料館所蔵・柏原藩政日記)

平成26 (2014) 年 9 月 20 日 発行

編 者 神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター
丹波市教育委員会
(編集担当：前田結城)

発 行 神戸大学大学院人文学研究科
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1
電話・FAX 078-803-5566